

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 15



眺望山自然休養林を活用した健康増進活動（青森県）

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、37 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、今なお森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公募事業（令和 5 年度）（令和 4 年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 7 年 3 月

公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011. 3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL11	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL12	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL13	(2023. 6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL14	(2024. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL15	(2025. 3)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL9	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL10	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL11	(2023. 6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL12	(2024. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL13	(2025. 3)

目次

普及啓発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）／黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	8
「自然保育と森林 ESD（森林環境教育）」シンポジウム及び関連事業	
／日本自然保育学会第8回大会実行委員会	9
県民の森「梵珠山」を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会	10
青少年への緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟	12
山へでかけよう！ in 津軽／一般社団法人ガールスカウト青森県連盟	13
里山整備に若い力を ～きのごプロジェクト～／岩手県立大野高等学校	14
森フェス 2023 in 遠野／特定非営利活動法人 遠野エコネット	15
「遠野・馬と暮らす森」から私たちの「いのち」と自然の物語を学び、心身を癒すプログラム開催	
／一般財団法人 ハヤチネンダ	16
生態系サービスを感じる！共に生きる！ESD アクション for SDGs	
／特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿	18
2023 しらゆり森のがっこう ～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～	
／仙台白百合女子大学 仁藤研究室	20
科学的な知見を取り入れた森林浴によるウェルネスツーリズムの展開／登米町森林組合	21
自然にふれよう 山のがっこう／特定非営利活動法人 SCR	22
フォレストサポート・2023／ガールスカウト山形県連盟	23
地域材の利用拡大と木育の推進事業／置賜「地材地住」ネットワーク	25
一緒にGO！50！植樹キャンプ／ガールスカウト福島県連盟	27
地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業／特定非営利活動法人 やみぞの森	29
「協力隊の森」の事業／青年海外協力隊茨城県 OV 会	30
手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の保全整備と活用事業／なか自然の会	32
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会	33
高原山麓における森林の保全・再生活動の普及啓発と木材の利用促進／くまの木里山応援団	34
木材利用についての理解醸成を図る「くむんだー指導員」養成講座の実施／埼玉木育フォーラム	36
竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培／ちば里山・バイオマス協議会	38
子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第8回）／NPO 法人観照ボランティア協会	40
森林が有する機能のポテンシャルとニーズ等に関するシンポジウム／一般社団法人産業環境管理協会	41
「医師と歩く森林セラピーロード」／International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	42
「森から学ぶ」～森林生態系サービスについて学ぶ～／公益財団法人 Save Earth Foundation	43
持続可能な社会の実現のために、森林と人との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会	
／「森づくり政策」市民研究会	44
フェアウッド研究部会の開催／認定NPO 法人 FoE Japan	45
シンポジウム「森林と健康の新時代―脱コロナ禍の若者たちへ―」	
／「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	48
地域材を活用した学校教育用教材の開発とその普及／NPO 法人木育・木づかいネット	49
秋の学びの森のママまつり（学びの森のママまつり in 徳島）／NPO 法人チルドリン	51
「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム 2023／一般社団法人 TOBUSA	52

森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業	
／ NPO 法人森づくりフォーラム	53
100 年先もずっと・緑と森と森林のコンサート ／ヨーデル北川桜とエーデルワイスムジカアンサンブル	54
森林資源の活用による森林環境教育 ／特定非営利活動法人自然文化誌研究会	55
第7回全国木のまちサミット 2023 in おだわら	
／おだわら森林・林業・木材産業再生協議会（小田原市共催事業）	57
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り ／一般社団法人全国森の循環推進協議会	58
子育ての森の恵みをみんなの暮らしにプロジェクト ／NPO 法人 緑とくらしの学校	60
地域の竹林保全啓蒙活動：とやまの竹の祭典 ／NPO 法人バンブーセーブジアース	61
自然に寄り添った暮らしや遊びを通じた体験活動 ／さとやま子育てコミュニティ いけだのそら	62
命の水を育むげなんぼう（銀杏峰）を癒しの森に ／里山銀杏峰を愛する会	63
念場ヶ原山恩賜県有林保護財産区における総合的利活用の促進のための体制づくり	
／特定非営利法人 山梨地域研究所	64
北アルプス地域の里山広葉樹活用と自治力育成のためのワカモノ&ヨソモノ巻き込みプロジェクト	
／北アルプス広葉樹活用研究会	66
シンポジウム「未来へつなぐ森林活用を考える～全国トレイル・メンテナンスフォーラム」@信越トレイル	
／NPO 法人信越トレイルクラブ事務局	67
森の力を感じて、体験する「森林 ESD」 ／のいちご会	68
森の輪ひろば ／（一社）いび森のようちえん こだぬき	70
未来につながる体験活動事業 ／いのちもり	71
第7回森〇（もりまる）～森をまるっと楽しもう!～ ／MORI・IKU	72
街中公園でのツリークライミング体験を通じて森と木が好きになるプロジェクト	
／公益社団法人 静岡県林業会議所	73
小学校授業での森林体験学習 ／特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	74
ちい森キッズ・ちい森ベビー・畑であそぼ!・フィールドの環境整備 ／社会福祉法人 森の風学舎	75
三重県内における「森と自然を活用した保育・幼児教育」の情報発信・ネットワークづくり事業	
／学校法人高田学苑 高田短期大学	76
地域産木材利用促進啓発事業 ／特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	77
京都嵯峨野 竹林景観の再生から繋ぐ循環的な仕組みづくりの構築	
／特定非営利活動法人ひとともりデザイン研究所	79
特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」 ／特定非営利活動法人自然と緑	81
森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる「木づかい社会」定着のための普及啓発活動	
／NPO 法人サウンドウッズ	83
森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ	
～次世代インタープリター育成と森林 ESD の推進に向けて～／奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	84
第3回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 ／日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会	85
森林を活用した自然体験活動 ／特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	86
保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進 ／（公社）島根県緑化推進委員会	87
里山保全の普及啓発事業 ／NPO 法人 ^{しとり} 倭文の郷	88
デジタル・ファブリケーションを活用した森林環境教育の推進 ／特定非営利活動法人ひろしま自然学校	89
少年少女里山マイスター養成講座 ／特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	90
まちの縁が輪での住育プロジェクト ／ひょうたん島まちなか再生事業	91

いろいろな生き物と共存する森づくり／特定非営利活動法人山村塾	92
第 28 回九州森林フォーラム in 山江村 ～森林活用の新たな潮流を学ぶ～	
／NPO 法人九州森林ネットワーク	93
日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	
／鹿児島県森林ボランティア連絡会	95
健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業／特定非営利活動法人もりびと	96

調査研究

報告書「人工林管理における OECM 成立条件解明のための調査研究」要旨	98
森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う医療関係者養成事業の検討	
／独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	100
「コンピテンシーに基づく自然保育者養成に関する研究」／代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広	102
針葉樹伐採跡地の広葉樹林化モニタリング／えひめ千年の森をつくる会	105
学校林の利用支援・整備のあり方に関する調査研究（要旨）／鹿児島大学 農学部	106

活動基盤整備

修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供／沼田どってこどってこ	110
森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」／学校法人尚綱学院	111
ソフィアの森の整備／上智大学大学院地球環境研究科	113
安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成講座／モリダス	114
「山と里と人をつなぐ」森づくりボランティア養成プロジェクト／特定非営利活動法人まめってえ鬼無里	115
ぎふ木育研修交流会／ぎふ森 遊びと育ちネットワーク	116
陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 4／奈良県森林ボランティア連絡協議会	117
里山保全ボランティア養成講座の開催／NPO 法人山野草の里づくりの会	118
大旗山ハイキング道の整備とビオトープ孟子里山公園の魅力発見	
／NPO 法人自然回復を試みる会ビオトープ孟子	119
里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島／森林ボランティア団体もりゆう	120
「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業／山内自治振興区	121
安全な森林づくり推進事業／NPO 法人ひろしま人と樹の会	123
徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議	124
令和5年度 森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク	125
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟	126

国際交流

国際交流&セミナー「気候危機から人間を救う、森林の『知性』～『マザーツリー』著者来日」	
／一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	128
森林生態系など自然の力を活用した課題解決に関する講演会開催／公益財団法人 オイスカ	129
第 25 回国際木材加工セミナー（IWMS-25）／第 25 回国際木材加工セミナー実行委員会	130

令和 4 年度・事業期間延長分

ソフィアの森の整備／上智大学大学院地球環境研究科	132
--------------------------	-----

普 及 啓 発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）

黒松内ぶなの森自然学校運営協議会

〒 048-0127 北海道寿都郡黒松内町南作開 76

1. 活動の概要

黒松内町の添別ブナ林の有効活用し、青少年を対象とする森林 ESD の推進するため、海外や近隣市町村の幼児、小学生、その保護者を対象に森のようちえん活動を行った。

2. 活動の成果

活動に参加した保護者は、メンタルヘルスケアになり、日常的に森へ関わるきっかけとなった。身近な森林での地域内外や海外との交流の場を創出することで、近隣市町村の住民へ森や川での活動の機運を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・いろいろな粘菌を見れて、すごいびっくりした。
- ・雨のなかの森あそびだったけど、思っていたよりも楽しくて良かった。
- ・中国とは違った森での遊びが新鮮だった。
- ・初めて薪割りをして、力は必要だったけど簡単に割ることができた。
- ・初めてスノーシューで森のなかを歩いて気持ち良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月12日	7月26日	1月24日	計
事業量 又は 事業内容		森あるき With 台湾親子	森あるきと薪 割り With 中国 幼児	森あるき With 中国親子	
参加者数	県内	人	人	人	人
	県外	12人	9人	12人	33人
	計	12人	9人	12人	33人
実施場所		北海道寿都郡黒松内町			

「自然保育と森林 ESD（森林環境教育）」シンポジウム及び関連事業

日本自然保育学会第 8 回大会実行委員会

〒 065-8567 北海道札幌市東区北 16 条東 9 丁目 1-1
札幌大谷大学短期大学部内

1. 活動の概要

近年、各地で取り組みが盛んになっている森のようちえんなどの自然保育と、森林 ESD（森林環境教育）との関係性を改めて問い直すシンポジウム及び関連事業を開催した。

2. 活動の成果

研修者のほか、幼稚園や保育所、認定こども園、森のようちえんなどに所属する実践者の参加も多かった。参加者の多くが、日本自然保育学会会員外（参加者全体の 6 割）であり、自然保育及び、森林 ESD（森林環境教育）に関心を持つ研究者、実践者を増やすことができた。また、北海道内でも、先進的に森林 ESD（森林環境教育）に取り組む園の環境や実践を視察するなど、今後、保育に森林 ESD（森林環境教育）導入する園や実践者が増えることが予想される内容であった。さらに地域で行われる森のようちえんや自然保育に関心を持つ NPO や、森林関係者の参加もあったことから、今後、自然保育や森林をキーワードに新たな連携が生まれることが期待できる結果となった。

3. 参加者の声

終了後に実施したアンケートの自由記述からは、「実際に保育現場を視察することができたことがとても良かった」「多様な視点からの盛り沢山の内容で、学びの多い大会であった」「前回の大会のテーマとも関連性をもたせながらも、理論と実践とどちらも往還させる内容であった」という声が聞かれた。また、それぞれのプログラムに対する評価も「非常に満足・満足」を選択する参加者が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月10日	11月11日	11月12日	計
事業量 又は 事業内容		①はやきたこども園（園舎・園庭）見学、トークセッション「子どもが遊べる町、子どものため産官学の連携」	②「恵庭幼稚園」及び「北清の森」見学 ③基調講演「環境教育学から自然保育学に期待すること」 ④パネルディスカッション「自然保育と森林 ESD（森林環境教育）～持続可能な未来を目指して～」	⑤実践発表（ポスターセッション） ⑥シンポジウム「2. 地域・保護者等と連携した園庭・裏山・森林等の整備～「自然保育」の保育環境の充実に向けて～」他	
参加者数	県内 県外 計	32人 30人 62人	59人 57人 116人	54人 27人 81人	145人 114人 259人
実施場所		①はやきたこども園、②恵庭幼稚園及び北清の森〈恵庭ふるさと 100 年の森〉、③～⑥北海道文教大学		北海道勇払郡安平町及び北海道恵庭市	

県民の森「梵珠山」を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会

〒038-0002 青森県青森市沖館4丁目3-22

1. 活動の概要

青森市郊外にある県民の森「梵珠山」を活用して地域市民、小学校教育を对象に、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について森林セラピー体験会として実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに資することとした。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨガインストラクター、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市沖館市民センターにおいてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで県民の森「梵珠山」県立自然ふれあいセンターに移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐして「マンガンの道」コースを出発。コース途中の陸奥湾展望所までの往復2.5時間森林浴。コース途中では森林インストラクターによるブナ、青森ヒバの説明や松ぼっくりを教材にした樹木種子の散布方法、松ぼっくりの食痕「エビフライ」を見せながらの動物の活動等の解説を取り入れた。自然ふれあいセンター緑地に到着後ヨガインストラクターの指導でしばしの間深呼吸やヨガで心身のリフレッシュ。

バスで沖館市民センターに戻った後、森林浴後の血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを実施するとともに森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

なお、今回の体験会開催に当たっては、新型コロナウイルス感染が取りまわりつつあるものの、当日の対応としてマスク持参、手指の消毒、除菌シートの活用等を徹底した。

2. 活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は6回目であるが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨガインストラクター及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピスト、森林インストラクターによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンダ助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

3. 参加者の声

参加者からは「日常から離れてゆっくりできて楽しい、癒された。ヨガが体験出来てよかった。山の空気で癒された。(少年団員)キノコをいっぱい見れてよかった。ヨガも楽しかった。自然やキノコなどのことをたくさん知った。」等の感想が寄せられた。

実績報告取りまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業内容	ストレス度チェックを取り入れた森林浴	10月8日		1日のみの実施
参加者数	県内	24人	24人	
	県外	0人	0人	
	計	24人	24人	
実施場所		青森県青森市 沖館市民センター、県民の森「梵珠山」・県立自然ふれあいセンター		

青少年への緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟

〒030-0813 青森市松原一丁目16番25号
(青森県森林組合会館内)

1. 活動の概要

- 県内の緑の少幼年団育成強化を図るため、森林公園や地域の里山を活用して、野外活動や木工教室、森林教室を少年団交流会で実施。次代を担う青少年の森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意識を育むことを目的に、各地区にある林業振興協議会や林業活性化センターが森林・林業の指導員等による森林の多面的機能等についての学習会や五感を使った森林の自然観察会、林業の体験学習等を実施した。
- フィールドビンゴ、チェーンソーアートの実演見学、木のボウリング、丸太切り体験、樹木当てクイズ、森林体験、木登り体験等を通じて、各地域の少年団の交流を深めることが出来た。丸太切り体験では子どもたちがノコギリで切った後に講師がチェーンソーで切ると子どもたちの歓声が上がった。

2. 活動の成果

県内4地区4カ所で緑の少年団交流会を開催した。地域の里山や県民環境林を活用し、参加した子供たちが森林の多面的機能や地球温暖化防止等に重要な役割を果たしている事を学び、さらなる緑化意識の高揚を図ることが出来た。

3. 参加者の声

- ・フィールドビンゴで、みんなで公園の中にある植物やきのこを探ることができて、楽しかった。
- ・森の手入れをすることで、水をきれいに出来ることがわかりました。
- ・育ちが悪い木だけを伐り、日光があたりやすくしたらもっと育ちが良くなることがわかりました。
- ・防災ダムの役割を知り、村で安全に暮らせることがわかった。
- ・木登りで上まで行けたことが嬉しかった。
- ・バードコールは、鳥の鳴き声がすることを知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	9月6日	7月26日	7月26日	計
事業量	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	4箇所
参加者数(県内)	25名	192名	21名	40名	278名
実施場所	青森市、鱒ヶ沢町、八戸市、むつ市				

山へでかけよう！ in 津軽

一般社団法人ガールスカウト青森県連盟
〒030-0111 青森県青森市荒川藤戸119-7

1. 活動の概要

中高生が登山を中心とした野外活動を体験することで、自然に親しみ、自分達が森林保全や持続可能な社会づくりの担い手であることを自覚することを目的として実施する。

2. 活動の成果

学業や部活動が忙しく、屋外で森や自然に触れる機会が減多にない中高生が、五感を使って、実際に季節の植物を観察しながら、外来植物の生息状況について調査できたことは非常に有意義だった。また、外来植物が増えている背景に地球温暖化があることや、環境問題とSDGsの関係性を学ぶことができ、今後の活動における取り組むべき課題を見つけることができた。今後も自然環境保全に関する活動を継続的に行っていきたい。

3. 参加者の声

- ・ハイキングでは自然の中に生えている植物について詳しく知ることができたとし、知らない植物や食べられる植物等、変わったことも教えてくれて面白かったです。今回教わったことは、キャンプ等の山の中で過ごす時のために、覚えておきたいと思いました。
- ・外来植物の調査を行い、いい匂いがするクロモジという植物や、たまに道で見かける白い花がミゾソバという名前だということを知れて良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月8日～10月9日	計	備考
事業量 又は 事業内容	山へでかけよう in 津軽		
参加者数	県内	24人	24人
	県外	人	人
	計	24人	24人
実施場所	青森県五所川原市		

里山整備に若い力を ～きのごプロジェクト～

岩手県立大野高等学校

〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

1. 活動の概要

自然環境の復活や保全をとおして、青少年を対象に森林環境教育を促進することを目的としている。全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが発生しやすい里山の環境づくりを進め、秋の収穫を目指しながら、環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約15kmに位置する久慈平岳（標高706.3m）の山麓に広がる約1haの里山を地元の方から借り受け、外部の指導者の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて20年目（準備段階1年を含む）となる。

2. 活動の成果

里山整備に取り組むことにより、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考えることができた。また、地域の活性化や未来についても考える機会となった。

地域住民との協働から、地域社会の一員であることを自覚し、郷土愛が喚起されるとともに、自己有用感を育むことができた。

3. 参加者の声

「マツタケが生育する（採れる）環境について、学ぶことができた。しっかり整備してたくさん採れる里山にしたい」

「今年もマツタケが採れず、残念だった。マツタケが採れるには、天候や時期も関係することを講師の先生から伺い、タイミングが難しいと思った」

「里山整備は斜面も急で大変だったが、みんなで協力して取り組むことができた。たくさんのマツタケが生育して欲しい」

実績報告とりまとめ表

実施時期		R5 9月26日	R6 6月15日	R6 6月25日	計	備考
事業量 又は 事業内容		収穫祭 全校生徒による	里山事前整備 教職員・PTAによる	里山整備 全校生徒による		
参加者数	県内	70人	7人	60人	137人	
	県外	人	人	人	人	
	計	70人	7人	60人	137人	
実施場所		岩手県九戸郡洋野町				

森フェス 2023 in 遠野

特定非営利活動法人 遠野エコネット

〒028-0661 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛19-530

1. 活動の概要

市民の森林への関心低下から、獣害や豪雨による土石流災害が各地で発生している。この状況を改善するため、昨年に引き続き今年は夏の2日間の他秋にも、一般市民を対象に、森林を地域づくりに結びつけるセミナーや、各種体験会、マルシェなどを森林内で開催し、森林への理解と関心を高める機会とした。

2. 活動の成果

今年は夏2日間の他に秋も開催し、岩手県内外各地から、関係者を含めると3日間のべ451名が参加し、音楽や講演、各種体験を通じて、また、季節によって表情を変える森林の魅力を十分に感じていただけたと考える。また、継続して開催することで、スタッフを含め、各講師や出店者、参加者との交流の機会ともなり、事後アンケート調査結果でも、イベントに対する好評価が多く寄せられた。

3. 参加者の声

- ・森で一日遊べて楽しかったです。(遠野市・30代男性)
- ・この企画「森の環境で」というのは、それだけで気分が良くてうれしい。楽しい、驚きでした。森のヨガはとても良かったです。雪の中のヨガなんてどうかな？(遠野市・50代女性)
- ・雨もようだったので、子ども達が寒い時に焚き火があったのが良かったです。この時期(秋)、焚き火は良いなあと思います。ナバさんの遊びも楽しかった。(遠野市・30代女性)

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日～30日	10月15日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森フェス2023 in 遠野(夏編)	森フェス2023 in 遠野(秋編)		
参加者数	大人 高校生以下 計	243人 123人 366人	72人 13人 85人	315人 136人 451人
実施場所	岩手県遠野市 遠野薪の駅及び周辺の森林			

「遠野・馬と暮らす森」から私たちの〈いのち〉と 自然の物語を学び、心身を癒すプログラム開催

一般財団法人 ハヤチネンダ

〒028-0661 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛14-122

1. 活動の概要

私たちは、岩手県遠野市の限界集落にある広葉樹林と都市生活者を結び、「いのちと自然の物語をつむぎなおす」ことをテーマに活動している。

高度成長期から続く人口流出の結果として、遠野には人が通うことのない里山林が多くある。里山は人が森林から価値を紡ぎ出す貴重な入り口であり、知恵や文化、死生観など、心を育む土壌でもあるが、暮らしの都市化とともに、そうした大切な価値も失われつつある。私たちは、そうして自然から離れた心と身体を再びつなぐため、本財団に寄付を受けた里山林をベースとして、「いのちを還す森」に生態系豊かな風景をつくる滞在型のワークショップや、多様な価値観を学ぶことで、それぞれの自然観・死生観を育むオンラインセミナーなどを開催している。

2. 活動の成果

今年のオンラインセミナーでは、「依代」信仰から自然観・死生観の関係性を考えたり「森林美学」の視点から里山と人との関係を考えたりするプログラムなどを開催した。

また、遠野の里山林では、地元の林業家やランドスケープデザインの専門家などとともに、全国各地から（海外からも）の参加者を迎え、滞在型のフィールドワークショップを重ねた。

参加者と共に学び体感するワークショップやセミナーに意欲的に取り組んだことで、関係人口を増やし、大学教授や研究者など専門家とのネットワークも広がった。今後もより多くの人を巻き込み、里山の豊かな生態系を回復させながら、自然と人、人と人との温かで確かなつながりを取り戻していきたい。

3. 参加者の声

- ・ 森や馬たちと高原と様々な形で繋がることができ、かけがえのない時間を過ごしました。／森でのワークショップ参加者より
- ・ 森の中での作業を通して、自分が菌類や他のいのちにつながっているのを実感する瞬間がありました。／森でのワークショップ参加者より
- ・ 依代を立てることで、「あちら」と「こちら」を繋げるハイパースペースを作る、ということ、一番印象に残りました。／オンラインワークショップ参加者より
- ・ 風景が発見されるものという言葉に感銘を受けました。人は自然の一部か否かのお話もありましたが、風景が発見されるものとするれば、二択問題ではなく、どちらも矛盾せずに共存出来る、自然の一部でありまた独立しているものでもあるって府に落ちました。／オンラインワークショップ参加者より

実績報告とりまとめ表

実施時期		A実施日	B実施日	計	備考
事業量 又は 事業内容	A：オンライン セミナー	令和5年9月15日 令和5年12月9日 令和6年6月5日	令和5年9月16日～18日 令和5年10月13日～15日 令和5年10月20日～22日 令和5年10月27日～29日 令和5年11月17日～19日 令和6年1月19日～21日 令和6年2月16日～18日 令和6年3月15日～17日 令和6年4月19日～21日 令和6年5月17日～19日 令和6年6月21日～23日	A：3回 B：11回	
	B：森でのフィー ルド・ワー クシヨップ				
参加者数		52人 97人 51人	7人 11人 12人 13人 10人 9人 9人 8人 13人 6人	A：200名 *関係者含む B：110名 *関係者含む	
実施場所		A：オンライン／B：岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛14-122			

生態系サービスを感じる！共に生きる！ ESD アクション for SDGs

特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿

〒 989-0532 宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添 26 番地 1

1. 活動の概要

自然の恵みが及ぼす生態系サービスを感じ、子供たちが自然に感謝し共に生きる力を育むことを目的に四季を活かした森林体験学習プログラムを実施した。森林は持続可能な資源（食材・用材・燃料）であることを体験から実感し子供たちの「できる」を増やすことを伝える。四季の森と共に生きてきた地域の文化を共有することで生き抜く力を育てることにつながる。具体的には、当法人が管理する山林 1.6ha のフィールドで四季を活かした森林・林業体験プログラムを開発し実施するもの。多様な生態系サービスを提供してくれる森林の中で行う体験活動は我々の原点となる人間力形成、これから生き抜く力の育成に寄与していく。日本文化の基礎となる「資源循環と共生」を SDGs と関連付けてプログラムを作成した。森のエネルギーを利用し枯れ枝や丸太を薪として使い自ら火を使うことを体験するメニュー。9月森林ボランティアの日に合わせて開催している「森の音楽祭」では、楽器の木としても使われるアオダモを「ミュージックドネーション植樹会」として音楽祭開催前に行った。プログラムは毎年、改善を繰り返し、実際に木を植え育てるメニューを新たに加えた。常に新鮮な活動が出来るようこれからも変化を続けていく。

2. 活動の成果

14年目に入ったこの活動には、新たな関わりの中で会員となり新たなスタッフが加わったことで、準備から後片付けまでスムーズに事業実施が可能となった。国連 SDGs の中でも持続可能な森林形成が重要な位置づけとなっているが実際に活動してこそ意味がある。やるべきことを理解し参加者が主体的に動くことで事業が継続している。常連となる参加者に新規参加者が加わり、運営側もマンネリ感を持たず新鮮な気持ちで対応することが出来た。これまでにとらわれずという SDGs の理念を受け、常に考え続け、変化し、自然との関わりから人を育てていくことにこの活動の使命感を感じている。

3. 参加者の声

親からの意見：私たちのほうが楽しませてもらった。

子供たちと一緒に学ぶことが出来たととても勉強になった

子供の意見：初めてがっばいの活動が気に入った。

自然を大事にしたい。

お友達が出来た。

火おこしは難しい。

森で木を集めているといつの間にか森がきれいになっていた。

実績報告とりまとめ表

活動日	活動項目名	活動地	主催者名	活 動 内 容	連 絡 先
7月17日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	トレッキング&沢登り	0224-37-2171
8月21日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	カヌー体験と湖水浴	0224-37-2171
9月17日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	植樹会と森の音楽祭	0224-37-2171
10月16日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	草木染め	0224-37-2171
11月20日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	ツリークライミング	0224-37-2171
12月18日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	工作、きりたんぼ鍋	0224-37-2171
1月15日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	餅つき、凧作り	0224-37-2171
2月18日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	山菜探し、味噌づくり	0224-37-2171
3月19日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	火起こしと木工体験	0224-37-2171
4月23日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	ツリークライミング	0224-37-2171
5月20日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	竹飯盒、木工体験	0224-37-2171
6月17日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	竹飯盒、植樹他	0224-37-2171
6月18日	七ヶ宿山がっこ	七ヶ宿町	当法人	森林体験活動、笹巻	0224-37-2171

2023 しらゆり森のがっこう ～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～

仙台白百合女子大学 仁藤研究室
〒981-3107 宮城県仙台市泉区本田町6-1

1. 活動の概要

- 活動の目的：白百合学園の花・木・森などの自然環境を地域の住民の皆さまに知って頂き、大学生と地域住民と一緒に自然体験活動を体験する。また、歩育や直接体験を通じて、子ども、保護者、大学生との世代間交流を図る。事業に参加し、身近にある自然への興味関心、健康・体力の向上、心身や心の疲れを癒して頂くことを目的とする。
- 内容：(日程) 2023年9月～11月、(会場) 北海道・岩手県・宮城県・熊本県の白百合学園、(対象) 幼児・児童、保護者、(内容) ①森の探検、②木製玩具遊び、③自然物を活用したクラフト、④保護者対象の健康講座

2. 活動の成果

- 成果：全国の白百合学園で所有する豊かな自然環境をフィールドとして活用することで、学園の緑や森林の資源を地域の皆さまに知っていただく機会となった。五感を刺激する自然遊びの体験は子どもたちの興味関心や学習意欲に繋がり、皆で歩くことで運動不足の解消やストレス軽減に繋がったと考えられる。木製遊具(けん玉やこま)の伝承遊びコーナーを設置することで世代間交流の場となった。
- これからの取組：地域の方に喜んで頂いただけでなく、事業運営を担当した大学生にとって大変有意義な機会となった。より多くの方に参加して頂きたいことから、実施に日程を再検討し、継続して地域交流事業を計画したい。

3. 参加者の声

- ・学園内に素敵な自然環境(花、栗・どんぐりの木など)があることを知った。
- ・五感を感じる自然体験遊びを沢山教えて頂いたことがとても良かった。森や山を歩く機会が少ないので、親子で楽しく参加することができた。来年も是非参加したい。
- ・子どもたちは大学生と遊ぶ機会がないので、一緒に遊んだことを大変喜んでいて、けん玉やこま遊びが久しぶりで懐かしかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		①9月28日(木)	②9月30日(土)	③10月14日(木)	④11月7日(火)	計
事業量 又は 事業内容		大学生と地域の親子が自然体験をする地域交流事業 ①森の探検、②木製玩具遊び、③自然物を活用したクラフト、④健康講座				
参加者数	県内	67人	48人	57人	107人	279人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人
	計	67人	48人	57人	107人	279人
実施場所		①岩手県盛岡市、②北海道函館市、③宮城県仙台市、④熊本県八代市				

科学的な知見を取り入れた森林浴によるウェルネスツーリズムの展開

登米町森林組合

〒987-0703 宮城県登米市登米町大字日根牛小池 100

1. 活動の概要

新型コロナウイルスの流行による外出減やテレワークが健康の悪化要因となっている。そこで森林浴の効果に科学的な知見を加え、エビデンスに基づく健康づくりを実践する事を目的とする。

東北医科薬科大学住友和弘氏の監修、森林セラピスト及川結氏らの体験プログラム協力のもとで、3回のヘルスケアプログラムを開催した。

2. 活動の成果

- ・県内3箇所の森林で、各地の森林ガイドが協力して森林散策を行ったことで、ガイドスキルの向上、各地横断での散策（例：仙台のガイドが登米でガイドツアーを実施 既に1回実施）が実施されるようになった
- ・宮城県登米市では、自治体主催の森林浴ツアーが企画実施されることとなり、森林浴が地域に根付いてきた
- ・本事業で収集した知見を基に、令和6年度にて住友氏の監修のもと新たなヘルスケアプログラムを策定中

3. 参加者の声

森林浴が初体験の方も多くいて、・心地よかった・草や花の匂いを嗅いだり触ったりして五感で感じる事が出来て気持ちが和らいだ。等の感想があった。

また監修者である住友氏からは、町の郊外にある森を自身の健康の為に活用してもらい、森を活用した地域づくりが進むことを期待している。そのうえで今回の知見を活かして、各森林固有の森林浴効果をとりまとめていきたい。と話を頂いている。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月22日	4月25日	5月25日	計
事業量 又は 事業内容		宮城県登米市 登米ふれあいの森 で森林セラピー	宮城県南三陸町 森林浴ツアー～南三 陸のパワースポット でエネルギーチャージ	宮城県仙台市 笑顔になれる森林 浴ツアー	
参加者数	県内	18人	16人	13人	47人
	県外	2人	2人	3人	7人
	計	20人	18人	16人	54人
実施場所		宮城県 登米市、南三陸町、仙台市			

自然にふれよう 山のがっこう

特定非営利活動法人 SCR

〒 981-3341 宮城県富谷市成田 7 丁目 23 番地 21

1. 活動の概要

- ・目的 市民参加の森林づくり運動
8月11日「山の日」地域の森林・林業について理解を深め山の恵みに感謝する。
- ・内容
 - ① 宮城大学 小沢教授及びゼミ学生による森林教室（森林の役割についてのお話）
 - ② 森づくり体験（大学裏山の伐倒見学、のこぎりを使った間伐体験）
 - ③ 大亀山森林公園に戻り、収納ボックス製作。地域資源（間伐杉材）利用
 - ④ 記念の餅まき

2. 活動の成果

- ・地域の自然に触れ、体験を通して森林環境の大切さがより一層深まった。
- ・宮城大学の教授や学生達と一緒に作業することで、森づくりの必要性を実感できた。
- ・間伐体験や間伐材を使ったBOXづくりでは、家族で協力しながら達成感を味わえ、山の日思い出に繋がった。
- ・継続して開催することで、次世代のリーダー育成につながる活動になった。

3. 参加者の声

- ・木を切るのが大変だったけど、気持ち良かった。
- ・親子で自然に触れる機会ができて良かった。
- ・木を伐採する時に倒れる方向を考えて切るのが良かった。
- ・家族で1本の木を切ったり、収納ボックスを製作したり初体験でとても楽しい一日でした。
- ・昨年に引き続き参加して、今年もいい体験ができ楽しかった。
- ・林業のプロの方に木を間伐して頂いて、森が明るくなった。これからも頑張って山の整備をして行きたい。（宮城大学学生さん）

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月11日	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然にふれよう 山のがっこう	森林教室 森づくり体験 収納ボックス製作		
参加者数	県内	58人	58人	
	県外	0人	0人	
	計	58人	58人	
実施場所		宮城県 黒川郡大和町・富谷市		

フォレストサポート・2023

ガールスカウト山形県連盟

〒990-0031 山形県山形市十日町 1-6-6

山形県保健福祉センター 4F

1. 活動の概要

目的：2015年に植樹した「森」の下刈り等の手入れをし、森づくり保全活動に取り組む。森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深め、SDG13, 15に貢献する。

内容：・育樹活動（下刈り・葛の根駆除）

・森林体験学習（森のクラフト） ・緑の募金活動

2. 活動の成果

- ・森づくり活動（下刈り / 葛の駆除）により地域の里山保全に寄与できた。
- ・「育樹」の大切さを学び、「美しい豊かな自然」を守るために、より森林を理解し環境問題（地球温暖化等）への理解を深める姿勢を養うことができた。特に、SDG13・15について意識を高め、行動を起すきっかけになった。
- ・日頃使う事のない“鋏・剪定はさみ”を使っての活動では、技術の習得や安全について学ぶ事ができた。
- ・森のめぐみである木の実を使ってのクラフトづくりは感性が養われた。また「自然の恵み」を活かす体験ができた事は、子どもたちの健全な成長に寄与できた。
- ・一般参加者も多く、協働する事によって一般参加の方にも「森づくり」に対する関心を促し、SDG13・15について意識を高めることに寄与できた。
- ・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、毎年新会員が参加するので木が育つまで継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・くずの根に穴を開けるのが大変だったけど頑張った。葛の根は丈夫で太いんだと気づいた。
- ・葉をさすのが楽しかった。（小学生低学年）
- ・葛のつるが木を弱らせてしまうことを知った。（小学生低学年）
- ・親子で協力して葛の根駆除ができて楽しかった。（一般参加者保護者）
- ・硬いクルミを小さいアカネズミが食べてるなんてびっくりしました。（小3年生）
- ・大きな鎌を初めて使ったが、大きくなって怖かった。（小5年生）
- ・初めて長い鎌を使ったが、わかりやすいご指導があり安全に使う事ができた。（成人）
- ・CO2があると暑いと気付いた。（小1年生）
- ・自然の中で地球温暖化について学び、普段の生活を見直すきっかけになった。（成人）
- ・地球温暖化はよく耳にするが、意識していることが少ないと思った。もっと積極的に活動したい。
- ・自然の物で作るのは大変なこともあるけど、その分完成した時の達成感を強く感じた。（小6年生）
- ・作るは得意でないが、子ども達の自由な発想をみて自分も楽しく作る事ができた。（一般参加者）
- ・車から眺めるだけの木の枝や木の実を触って楽しむことができよかった。（一般参加者保護者）

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/22 10/7 11/4	10月29日	11月12日		1月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容		事前準備 ・案内状 ・しおり 作成	現地踏査 (下見)	<育樹活動> ・下刈り ・葛の根駆除 ・緑の募金活動	<森林体験学> ・木の実を使っ てクラフト作り	事後活動 ・報告書 作成		
参加者数	県内 計	6人 6人	7人 7人	44人 44人		6人 6人	63人 63人	
実施場所		事務局	山形県山形市・市有地蔵王みはらしの丘地 内(ガールスカウトの森)・みはらしの丘 小学校			事務局		

地域材の利用拡大と木育の推進事業

置賜「地材地住」ネットワーク

〒 999-1363 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町 2-57
小国町森林組合

1. 活動の概要

地域材の利用拡大や木育を目的とした「置賜『地材地住』運動」を推進するため、保育園木工教室や山形大学と連携して「地域材利用セミナー」等を開催した。

2. 活動の成果

- (1)地域材利用の木工クラフトを通して、木の特長を学び生活の中に使われている木について考えるキッカケになった。
- (2)地域材利用セミナー参加者は、川上（森林）➡川中（加工）➡川下（利用）の流通を学んだ。
製材された板材や加工された木製品に直に触れ、視覚・触覚・嗅覚で木材を体感することができた。
「地材地住」の取組みや、木の文化「草木塔」を学んだ。
- (3)林業まつりに出展し、来場者（子供たち）へ「置賜木」木製キューブブロックをプレゼントした。
木の良さを知るキッカケになった。
- (4)保育園児と地区の建築・建設組合による「置賜木」木工教室を開催した。
園児達は、木で物を作る楽しさを実感し、木への親しみを身に付けた。
- (5)置賜森林ノミクス推進フォーラムに出展した。参加者は、地域の森林資源の利活用について再認識した。

3. 参加者の声

- ・身近にある木で物作りを体験し、完成させることができた。次は別のものを作ることに挑戦したい。
- ・間伐作業を間近で見られたのは、とても貴重な体験だった。
- ・田沢コミセンは地産地消を最大限に実現した建物だ。日本の木材のポテンシャルを感じることができた。
- ・地域材利用の根拠の一つとして、気候が木材の構造上の特色に作用するという視点を初めて持った。
- ・「草木塔」を初めて知った。草木塔の文化がとても興味深かった。
- ・色々な木材を見て匂いを嗅いで触ったり持ってみたりして、それぞれの特色の一端を知ることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和5年 8月3日	令和5年 9月29日	令和5年 10月21日～ 10月22日	令和5年 10月10日～ 12月19日	令和6年 3月7日	計
事業量 又は 事業内容		(1)令和5年度 山形県緑の少 年団置賜ブ ロック交流研 修会 (1回)	(2)令和5年度 地域材利用セ ミナー (1回)	(3)第31回 山形県林業 まつり (2日間)	(4)保育園児 と地区の 建築・建 設組合に よる「置賜 木」木工 教室 (4園)	(5)置賜森林 ノミクス推 進フォーラ ム 2024 (1回)	
参加者数	県内 県外 計	60人 人 60人	33人 人 33人	約200人 人 約200人	148人 人 148人	95人 人 95人	536人 人 536人
実施場所	山形県：天童市、米沢市、南陽市、高島町、白鷹町、小国町、飯豊町						

一緒に GO ! 50 ! 植樹キャンプ

ガールスカウト福島県連盟

〒960-8153 福島県福島市黒岩字田部屋 53-5
福島県青少年会館 5 階

1. 活動の概要

ガールスカウト福島県連盟は 2023 年に結成 50 周年を迎えました。それを記念して植樹がしたいという意見が多数あったため、福島県県会議員懇談会へ相談したところ福島県森林計画課、フォレストパークあだたらの協力を得ることができました。キャンプを行いフォレストパークあだたら内に杉の苗 105 本を植樹することになりました。

ガールスカウトは活動のポイントの一つに「自然とともに」というものがあり、野外での活動を積極的に行ってきました。2018 年には全国植樹祭、花いっぱい運動への参加、また 2023 年度からは明日へ繋ぐふうせんかずらの旅プロジェクトを展開しました。そして MDGs から継続して SDGs への取り組みを実践し、森林環境教育を積極的に推進してきました。

今回の植樹をきっかけとして、これまで取り組んでいた環境問題はもとより、森林整備についても学び、今後継続して自分たちの森を見守ることで「森づくり」に対する関心を持つために実施しました。

2. 活動の成果

1泊2日のキャンプを通して植樹を行いました。テント設営やクラフト作成、キャンプファイヤーの準備、植樹では仲間と協力することを学びました。また、フォレストパークあだたらのある大玉村の子どもたちとの交流も行うことができました。

植樹から2か月後の11月に様子を見に行きましたが、11月に訪れた一番の目的は杉の苗がきちんと活着しているかの確認でした。フォレストパークあだたらの協力もあり、きちんと活着していることを確認できました。なにより子どもたちは自分が植えた杉の苗を覚えていて、自分の杉へまっすぐと進み、少し成長して実を付けた姿を見て感激していました。

冬を越した翌年の5月にも訪れ、さらに成長した苗木を確認しました。この時には植樹キャンプに参加しなかった子どもたちも多く参加し、杉の苗の成長を共に感じる事ができました。多くの子どもたちが自分たちの植えた杉の苗を通して森を通して森林の持つ役割などへの関心を持つことができたことが伺えます。また、講師に森の案内人の方々をお迎えしたことで、森の役割など森林について詳しく学ぶ機会を持つことができました。その他に、私たちの植えた杉が成長した後、どのように活用されるのかを学ぶ機会として、実際に材木に加工したものの鋸で切り、やすりがけをしたりカンナ掛けなどの体験も行いました。

森の案内人の方からも、「杉が大きくなるまで見守ってほしい」との呼びかけがあり、子どもたちも今後継続して見守ることの大切さを学んだことと思います。

3. 参加者の声

- ・初めてテントに宿泊し、キャンプファイヤーや植樹を行って楽しかった。
- ・友達がたくさんできてよかった。
- ・焼杉のプレートを焼いたりみがいったりした。布が真っ黒になったけど木がピカピカになったのでうれしかった。
- ・私たちの杉を植えたところの近くにカモシカの親子が住んでいると聞いてわくわくした。
- ・私たちの植えた杉がどのように成長しているかとても心配だったが、きちんと成長していて、杉の実もついていたのがびっくりした。
- ・森の中を散策して湧水地など案内してもらった。水が冷たかった。

- ・いろんなにおいのする木を教えてもらった。
- ・木材になった木の上と下の見分け方を教えてもらった。
- ・カンナをかけるのが気持ちよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8/27	9/2・3	9/16・17	11/26	5/12	計	備考
事業量 又は 事業内容		事前説明会 テント設営 研修	会場下見	植樹キャン プ	デイキャン プ	デイキャン プ		
参加者数	県内	25人	12人	100人	30人	68人	235人	
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	計	25人	12人	100人	30人	68人	235人	
実施場所		福島県 福島市・二本松市・安達郡大玉村						

地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業

特定非営利活動法人 やみぞの森
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-3-2
茨城県林業会館 4F

1. 活動の概要

- (1) 木工技術の普及を目的として、地域材を活用したDIY塾を毎月1回、年間12回開催した。専門技術者の指導の下で基本から学び、各自が自由な発想で家具づくりを楽しんだ。
- (2) エコプロ2023へ出展し、森林整備や環境教育などの活動状況、間伐材によるベンチ等を展示した。例年好評な「やみぞの森の自然素材によるワークショップ」も実施し盛況だった。
- (3) 森林環境保全のため実施している様々な活動の情報発信として、ニュースレターを発行し、当法人パンフレットとともにイベント会場等やDMで配付した。
- (4) 研修先として、①茨城県石岡市に昨年完成した森の施設「花やさと山」サークルロッジ、②笠間市にある茨城県森林組合の「丸棒加工所」の視察研修を行った。

2. 活動の成果

- (1) DIY塾では、専門技術者の指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作れるまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。
- (2) パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。
- (3) パンフレットやニューズペーパー、見学会などを通し、森林環境保全の啓発に繋がった。

3. 参加者の声

- ・DIY塾で作ったテーブルは、自宅のリビング中央に置き、無垢木の感触が家族に好評です。
- ・DIY塾で初めてカンナ掛けを経験したが、大工さんの指導のお陰で大分腕が上がってきた。
- ・研修会で視察したサークルロッジは県産材による木造平家建で周囲の景観に溶け込んでいた。
- ・ワークショップは自然の木や材料で作られていて、SDGsを大切にされていると感じました。
- ・ワークショップでは沢山の方々が楽しそうに体験していて、とても良いコーナーだと感服しています。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/9～6/9	12/6～12/8	1/6～1/21	6/6	計
事業量						
参加者数	県内	132人	?人	9人	17人	158人
	県外	12人	66,826人	0人	0人	66,838人
	計	144人	66,826人	9人	17人	66,996人
実施場所		○茨城県：笠間市、つくば市、水戸市 ○東京ビッグサイト				

「協力隊の森」の事業

青年海外協力隊茨城県 OV 会

〒307-0074 茨城県つくば市高野台 3-6

JICA 筑波国際センター 連携推進室気付

1. 活動の概要

現植生に近づけるために落葉広葉樹の植樹活動を推進することで、動植物の水と森林環境を整えることです。下流域には常陸太田市の天然記念物サトミノイワナが生息しているため、協力隊の森で落葉広葉樹を育てることは餌となるフルボ酸鉄の育成のためにも有意義です。このためには近郊周辺の動植物の生態調査の結果に基づいて今後の計画や植樹活動に役立つことです。この地域にはかつて茨城県の絶滅危惧種 IB 類チャマダラセセリが生息していましたが、2020 年以降確認されていません。しかし、食草ミツバチグリが豊富に見られるため、チャマダラセセリが生息している可能性もあり、今後も注視してみたい。

2. 活動の成果

チャマダラセセリやイワキサンショウウオの生息は、残念ながら確認できなかったが、今後もイワキサンショウウオを始めとする絶滅危惧種を粘り強く調査を継続したい。こうした調査・研究には地元の協力者が不可欠であるため、今後も地元の中・高等学校での座学が欠かせないと考えています。

3. 参加者の声

参加者に対する絶滅危惧種の説明は、すでに落葉後の中での秋の植林時期ということもあり、受粉メカニズムなどの生態を実感が得られないのが、悩ましい。フィールドで幾多の説明も求められるが、学術経験者も参加しているものの、各人が生態系のメカニズムなどの学術論文に基づいて網羅することは不可能であり、歯がゆい面もある。その場で応えられなくても誠心誠意後日、回答する姿勢が大切と感じている。一方、毎回参加している OV は樹木の成長が楽しみ、それぞれ分野が異なる OV が森・水環境の意見を交わすことで会話が弾むこと、OV 会の 1-2 割が教育関係者であり、特に生物系の教員は現場の授業でも役に立っているとのこと。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2023年	2024年	計	備考
事業量 又は 事業内容		8月45日中村寛志信 大名誉教授による蝶 類と昆虫類の調査 (3名) 9月30日並木中等学 校との植林(18名) 10月7-8日OV会, JICA研修員によるブ ナなどの植樹活動 (38名)	5月14-15日中村寛志 信大名誉教授による 蝶類と昆虫類の調査 (2名) 6月24日中村徹筑大 名誉教授による里美 中学校での座学 (40名)	83名+25名(OV による草刈り・ 地拵え)	
参加者数	県内 県外 海外 計	42人 5人 15人 59人	42人 2人 0人 43人	84人 7人 15人 126人	JICA研修員 述べ人数
実施場所	茨城県常陸太田市里川町 863-44 「協力隊の森」				

手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の保全整備と活用事業

なか自然の会

〒319-2104 茨城県那珂市平野 1800-395

1. 活動の概要

- ・活動の目的：ヒノキ林（4ha）の保全整備と活用及び隣接する谷津田の不法投棄防止
定例活動は毎週土曜日、第三月曜日に実施
- ・普及事業として森林 ESD の推進…地域の小中学生に対する林業・森林体験の場の提供
- ・資源として間伐材の活用…社会福祉法人「ナザレ園」との連携
- ・長田谷津周辺の整備により見通しの確保（死角をなくすことでゴミの排除）
- ・整備過程にできた作業道や周辺の史跡の小道をむすび 10km の散策路を造成拡張

2. 活動の成果

- ・第46回全国育樹祭で茨城県緑化功労者を受賞しました
- ・ヒノキ林 4ha の内 70% は整備が完了。整備完了地域も引続き手を加える必要がある
- ・当該林を活用した林業森林体験会は定着してきた。今年度は3回実施
- ・伐採木は全て施設に玉切後搬出。枝は粉碎し作業道路に散布
- ・作業道路を利用した 10km の散策路は徐々に浸透しつつあるが更なる整備を継続
- ・課題：全国的な問題だと思いますが会員の高齢化に対応した器具の導入や作業方法の改善
乗用草刈り機やバッテリーチェーンソーの導入、プーラー等の牽引機材の活用
：定着してきた体験会の内容を充実させ林業への関心を更に持てるようにする
次年度は4回実施できるように企画する

3. 参加者の声

- ・瓜連小学校3年生の声：これからは動物や木を大切にしていきたい
- ・瓜連中学生：ゴミ拾いで多くのゴミが集まりびっくりしました。ごみを拾っていくときれいになっていくことが実感できました

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月6日	11月11日	計	備考
事業量 又は 事業内容		那珂市の小学生 38人、先生2名、 住民5名 林業体験、森の工 作体験	瓜連中学生30人 先生2名、住民10 名 谷津田のゴミ拾い と森林体験	6年2月森林体験 瓜連小学校3年生 60名、先生2名 住民5人の予定	定例活動 年30回×@10人 =300人 伐採と搬出、下草 刈り
参加者数	県内	45人	42人	87人	387人
	県外	人	人	人	
	計	45人	42人	87人	
実施場所		茨城県 那珂市瓜連地区			

森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校

ぐんま森林インストラクター会

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町739-5

1. 活動の概要

自然観察会、木登り体験、ネイチャーゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

2. 活動の成果

現地で自然観察等を行うことで、自然のすばらしさを五感で感じ、自然の大切さ、生き物との繋がり、保全の必要性を認識した。

森林生態系、生物多様性をふまえ、幅広い森林環境教育を行なう。

3. 参加者の声

- ・7年毎に豊作になるブナの実と熊の生息数の話が面白かった。
- ・ふかふかの多雪と動物の足跡に夏教わった事を復習しました。
- ・赤城山の地形、冬芽について詳しく説明頂いた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		5年 7月 22日	8月 5日	8月 26日	9月 23日	11月 18日	6年 1月 27日	2月 10日	計	備考
事業量										
参加者数	県内	23人	15人	25人	16人	27人	32人	20人	158人	
	県外	2人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	3人	
	計	25人	15人	25人	16人	27人	32人	21人	161人	
実施場所 群馬県		日光 白根山	谷川・ 天神平	榛名山	前橋市	安中市	伊勢 崎市	赤城山		

高原山麓における森林の保全・再生活動の普及啓発と木材の利用促進

くまの木里山応援団

〒329-2213 栃木県塩谷町熊ノ木 802

1. 活動の概要

高原山麓における森林の保全・再生活動を多様な人々に理解していただくための普及啓発を行うことで、人と自然の関係性の回復をめざすことを目的に、①たかはら里山の集いにおける記念植樹、森林の保全・再生活動実践者による講演、野外プレゼンテーション、②イヌブナ自然林ガイド人養成検討会、③高原山開きと登山道整備を実施した。

①たかはら里山の集い前日（11月18日）にくまの木里山応援団により、コナラ、サクラ、クリ、ホオノキ、スギ、ヒノキを植栽した。NPO法人よこはま里山研究所 NORA の松村正治理事長により「私たちの暮らしを里山に近づけよう」、東急不動産株式会社都市事業本部の高田秀之部長により「森林資源調査による小規模バイオマス発電プロジェクトの可能性」について講演いただいた。里山材から作成された木製品の展示をはじめ、スギ・ヒノキ定植時の忌避剤原料となる激辛唐辛子の展示、エコストーブによるご飯炊き、薪ストーブによる焼きいも実演などが行われた。

②11月23日、自然計画の宮地信良代表は「自然ガイドについて」、谷本丈夫宇都宮大学名誉教授は「反目しない産業としての森づくりと環境としての森づくり」について講演いただいた。

③4月29日に高原山開きのための登山道整備を実施し、5月26日に高原山開きを開催、釈迦ヶ岳山頂にて3市1町の首長と高原山頂サミットを主催した。

2. 活動の成果

①は、いのししにより苗木が活着していない場所を中心に植栽をした。少しずつではあるが、活着がみられているので、ひきつづき植栽の努力をしたい。松村理事長の里山の「生業」についての示唆はその通りだと考えている。小規模木質バイオマス発電は、総論は賛成だが、小型といえども1億円程度の経費がかかるため、導入は容易ではないことに気がついた。里山材から作成された木製品の展示は参加者の注目を集めた。木製品の展示についてはもっと積極的に実施していく必要性を感じた。

②は、自然ガイドについては、参加者への配慮の重要性に気づかされた。また、谷本先生から「生業」にしていくことも一手ではないかという指摘があった。イヌブナ自然林周辺はクマの生息域で、今後は奥山ではなく里山域にてガイド人を養成していくこととした。

③は、はじめて高原山に関係する市町の首長が最高峰である釈迦ヶ岳山頂に集まり、高原山頂サミットを開催することができた。各市町の登山者に木製記念バッチを配布し、木材の利用促進を矢板市地域おこし協力隊（林業振興）とともに実施することができた。

3. 参加者の声

よこはままでの里山保全活動の話聞いて、地方での里山保全活動とは違うよねという声を多数いただいた。自分たちの活動を再認識できたという点で良かったと思います。木製品の展示は初めてであったので、「いいね」という声を多数いただいた。高原山開きでは例年咲いているヤシオツツジが地球温暖化の影響でほとんどみられなかったことから、開催時期の検討の声が出ており、来年に向けて検討することにした。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11/19	11/23	5/26	計	備考
事業量 又は 事業内容		たかはら里山の集い	イヌブナ自然林ガイド人養成検討会	高原山開き		
参加者数	県内	22人	5人	117人	144人	
	県外	16人	4人	3人	23人	
	計	38人	9人	120人	167人	
実施場所		栃木県塩谷町				

木材利用についての理解醸成を図る 「くむんだー指導員」養成講座の実施

埼玉木育フォーラム

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学教育学部生活創造講座内

1. 活動の概要

「くむんだー」は、国産材で出来た柱や横材を組んで楽しむ木育遊具です。木と触れ合う大切な機会を提供するだけでなく、柱と横材とを組み合わせた貫工法を基本として、木製ジャングルジムを組み立てる過程、解く（ほどく）過程を経験させる、問題解決や創造性を養う機能的な教育ツールの一つです。

くむんだーは、日本の木のこと、森のこと、そして日本のものづくり、家づくりの技を子どもたちに伝えたいという強い思いによって生み出され、現在では全国各地で実演され、30以上の団体がその普及に努めています。その一方で、くむんだーは職人の手刻みによって加工されるため、一般に広く普及させるのには困難がありました。また、開発の趣旨である日本の伝統工法への理解、後継者の育成を考えると、専門的な知識を持った指導者が必要と考えられます。

そこで本事業では、くむんだーに込められた思い、そしてその楽しさを理解して、子どもたちにもものづくり、木のよさ、そして協力することの大切さを伝えるために、木製ジャングルジム「くむんだー」の指導員養成講座を実施するとともに、必要な教材、資料等を整備し、幼稚園等の教育機関における木育の推進、ひいては木材利用についての理解、木育の推進に対する意欲を喚起する取り組みを進めました。

2. 活動の成果

くむんだーは、身体運動を積極的に促す木育教材として全国的に注目を集めていますが、手刻みによる生産のため製造価格が高く、誰もが自由に活用できる状況にありません。そこで私たちは、レンタル利用による普及を目指していますが、単なる木とのふれあいで終わり、開発者や普及を進めるくむんだー関係者の本来の意図から外れてしまうことの危惧がありました。

今回の私たちの取り組みでは、くむんだー開発者の思いやその技術の素晴らしさを、しっかりと伝えられる指導者の育成に向けて、基本的な研修プログラムを立案するとともに、指導におけるポイント、伝えてほしいポイントを整理し、テキストとしてまとめました。

今回の取り組みは、くむんだーを使いたいと思う利用者はもちろん、開発した人の思い、ニーズを満たすものであり、今後くむんだーを体験する多くの子どもたちが、木材利用や建築技術への関心を高める機会となることが期待できます。また保育士など非木材産業の人材に木材、森林を学ぶ機会を提供できる体制ができたことも、大きな進歩であると考えます。

今後もこの取り組みを継続し、組むんだーの普及を通じて、木育の推進を積極的に進めていきたいと思えます。

3. 参加者の声

- ・くむんだーが開発された経緯や思いに触れて、それを大切にしたい実践を進めたいと思えました。日本の技術はすごいと思えました。
- ・安全管理や作業手順などをしっかり学ぶことができました。子どもたちが活動する様子を見て、とても意義ある活動であると実感しました。
- ・ぜひくむんだーを取り入れた保育活動を計画し、実施したいと思えます。（保育士）

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月2日	6月22日	計	備考
事業量 又は 事業内容		第1回くむんだー 指導者養成研修	第2回くむんだー 指導者養成研修		
参加者数	県内	10人	14人	24人	
	県外	1人	2人	3人	
	計	11人	16人	27人	
実施場所		埼玉県深谷市 埼玉県農林公園 木材文化館内「木育ひろば」			

竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培

ちば里山・バイオマス協議会

〒290-0056 市原市五井 2437-2 ホマレヤビル 3F

1. 活動の概要

3年目となったヒサカキの育成について、生育調査と栽培指導を受けた。生物の多様性を維持しながら竹林を整備して様々な活動を行いたい、地域のコミュニティの場にしていきたい。そうした目的に対して竹林整備では、のべ100名以上が参加。春のタケノコ堀にも50名以上が来場された。夏の流しそうめんも衛生面に配慮しながら久しぶりの開催となった。竹の持つ機能性や美しさとともに参加者が楽しめる空間と活動の場となっている。冬にはミニ門松づくりを実施。東京から環境団体の視察、ワークショップも受け入れた。

2. 活動の成果

3年目の取り組みとして、竹林の整備が進み、周囲の竹を切って採光と通風を改善した。竹林内のヒサカキも白藻病とコナジラミの駆除が進んだ。1年目に採取した穂木からの育苗苗も圃場に植栽した。

実際に枝払いをした枝ものを神棚に使用するなど有効活用も見られた。千葉県石谷樹木技術士に、苗の成長の計測をしてもらい、育成の適地についても助言をもらった。

樹木医集団である(株)木風に引き続きヒサカキの病害虫について調査してもらった。その結果、チャトゲコナジラミの数は激減していることが確認できた。さらに適宜、消毒をすることで蔓延は防げるという結論に達した。3年間かけて防御、すす病、白藻病対策などを施し結果が出た。

竹の活用についても、協議会のメンバーである竹もりの里にて竹チップを作り、軟弱地盤の改修材として活用できた。福岡大学で開発された技術の応用として施工された。将来に期待できる。

千葉大学の高橋准教授が、クロモジの生育調査をして日照と生育に関するデータをまとめた。ヒサカキに通じる、反日蔭樹木でありその研究成果については興味深いものであった。

9月に、フジテレビ系列「めざましテレビ」で、活動場所の竹林の様子について取材を受け、放送された。

10月、市原市の学校給食に国産メンマが使用された。学校で試食をする会に参加した。11月には福岡県糸島市で開催された「純国産メンマプロジェクト全国大会」にて千葉の活動について発表した。

3. 参加者の声

今後も毎年、この場所を訪れたい

竹林整備に参加して、これからもこの場所に来るのが楽しみになった

国産のサカキをぜひ利用したい、枝ものとして活用してほしい

竹林で体を動かし、深呼吸出来て気持ち良かった

普段何気なく見ている山や林にも人の手が加わってきれいに保たれているということが知れて今後の山や林に対する見方が変わりました

ノコギリの使い方が上手になった

大人も子供も一緒に作業できて達成感もありよかったです

竹炭作りを学びにきて、実際に焼いて参考になった

竹林整備をすることにより里山がきれいになりとても気持ちがいい

ここで知り合った方と交流ができた

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月9日	7月29日	9月17日	11月19日
事業量 又は 事業内容		キックオフミー ティング (活動準備)	竹林整備 流しそうめん	竹林整備	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り
参加者数	県内	27人	37人	11人	15人
	県外	3人	3人	0人	6人
	計	30人	40人	11人	21人
実施場所		千葉県 市原市			

実施時期		12月23日	1月28日	1月14日	4月20日
事業量 又は 事業内容		竹林整備 ミニ門松作り	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り	ヒサカキ消毒	ダイアキッズ タケノコ堀
参加者数	県内	7人	14人	2人	23人
	県外	3人	6人		3人
	計	10人	20人	2人	26人
実施場所		千葉県 市原市			

実施時期		4月29日	5月26日	計	備考
事業量 又は 事業内容		タケノコ堀 100本収穫 ヒサカキ植栽	サカキ苗植樹 東京都大田区より 来場		
参加者数	県内	22人	0人	131人	
	県外	11人	20人	52人	
	計	33人	20人	183人	
実施場所		千葉県 市原市			

子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第8回）

NPO 法人観照ボランティア協会

〒270-1132 千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

1. 活動の概要

6月29日（土）、30日（日）、都立神代植物公園及び植物会館集会室にて、子どもたちに森林及び自然環境の重要性を伝えられる人材養成を目的とした「リーダー養成講座」を開催。講師は森のムッレ教室リーダーで、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の下重喜代、光橋翠の2人が担当。講座1日目は神代植物公園のフィールドで自然を学び、2日目はグループごとに子ども向けに自然の仕組みの伝え方を考え、パフォーマンスを行った。

レクチャーも2日間に渡って実施。1日目は下重講師による「自然活動と子どもの成長」を講義、また特別講演として「幼児の環境教育—子どもたちとおこめづくりを通して」をテーマに神田浩行氏（くすのき自然クラブ代表）が講演。2日目はなぜ野外教育なのか、「スウェーデンの野外教育から学ぶ」として光橋講師が講義を行った。

2. 活動の成果

講座1日目は神代植物公園で樹木、草花、土壌や水辺に生き物を観察し、講師が光合成、物質循環、水の循環、生態系ピラミッドを解説。2日目はグループごとに、1日目に学んだ物質循環、光合成、水の循環、生態系ピラミッドをテーマに、子どもに伝えるためのパフォーマンスで表現。どのグループも視覚に訴え、子どもが興味を引くような楽しいものとなっていた。

3. 参加者の声

講座修了後の参加者にアンケートには、全員から「非常に良かった」との高い評価を得た。

具体的には、知見を深めることができた、参加したことで人とのつながり（人脈）が広がった。自然と共に生活していることを子どもと感じ、考えていきたい、特に学んだことを行動に移していきたい、エコロジー、自然環境保全への活動につなげたいとの感想が多くみられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月29日	6月30日	計	備考
事業量 又は 事業内容		講座は集会室で自然活動と子どもの成長、幼児の環境教育をテーマに実施。午後から神代植物公園内での樹木や草花、生き物を観察。	集会室でスウェーデンの野外教育から学ぶをテーマに講演を実施。講演後はグループごとに自然の仕組みの伝え方を考え、自然の中で、子どもに伝えるパフォーマンスを受講生が実施した。		
参加者数	県内	19人	18人	37人	
	県外	4人	4人	8人	
	計	23人	22人	45人	
実施場所		東京都調布市深大寺元町 5-31-10 都立神代植物公園			

森林が有する機能のポテンシャルとニーズ等に関するシンポジウム

一般社団法人産業環境管理協会

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番1号

1. 活動の概要

カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ等の実現のため、森林が有する機能への関心が高いことを踏まえ、森林が有する機能の評価や国有林を巡る現状や各主体の取組等を内容とするシンポジウムを開催しました。

シンポジウムはハイブリッドでの開催でしたが、会場及びオンラインそれぞれの参加者からの質問を受け付け、双方向型で開催しました。

2. 活動の成果

参加申込の際に、シンポジウムの内容に関連した意見・質問なども記入できるようにし、講師の方々に資料作成時にその意見等も参考にして頂くよう工夫したこと等から、参加者の関心等に応えることができたと考えられます。実際、参加者へのアンケートでも満足度が高いという結果でした。

森林保全・活用について身近に感じてもらえることができ、森林を巡る状況等などについての情報発信、普及啓発活動等を継続的に実施することの必要性を認識しました。

3. 参加者の声

参加者へアンケートを実施しましたが、98%が「大変よかった・よかった」との回答で、参加者にとってもシンポジウムは有益であり、貴重な機会であったといえます。

具体的な意見の一例として、「各国で森林価値を評価する様々な方法を検討されていることがわかり参考になった」、「市民活動の可能性として森林への関り方がよくわかった」、「すべての講演がわかりやすく、森林保全と活用の意義について理解を深めることができた」がありました。各主体からの講演を希望する意見がある一方で、講演時間を長くしてほしいという意見もあり、頂いた意見を今後の活動の参考にしていきたいと思えます。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月31日	計	備考
参加者数	県内	120人	120人	
	県外	36人	36人	
	計	156人	156人	
実施場所		東京都港区 / Zoom		

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1. 活動の概要

本事業は、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部滞在と比べ有意に上昇することが証明された“森林セラピー基地[®]”の中から9ヶ所を選び森林医学医同行で開催した事業である。医師は、森林の持つ予防医学的効果の講話とストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助及び各々の保健を促した。

2. 活動の成果

本活動の目的は、一義的には医・科学的実証に基づく森林環境の持つ癒し機能を参加者が体感し健康維持・増進に役立てる事である。（豊かな森林が無ければこの活動は成立しない。）今回は、インバウンド対応可能な基地を中心に最新の実証実験結果を医師が解説し、地元の医科学的な効果のブラッシュアップを図り、すでに海外で浸透しつつある“Shinrin-yoku”へのインバウンド誘導の基礎固めを行った。（インバウンドによる都市部のオーバーツーリズムの緩和を想定）

3. 参加者の声

イベント全体：参加者へのアンケート調査で、参加目的の1位が健康目的であり、医師による講話と各種測定により、森林の持つ医科学的効果が具体的に解ったとの感想があった。

セラピスト、セラピーガイドの対応：丁寧。樹木を熟知。ゆっくり歩行。

医師の対応：寝転ぶ、座る等が説明付きで医学的見地からの説明で森の大切さが学べた。

セラピー弁当：弁当箱を含め、持って帰りたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量	参加者数	実施場所	備考（ロード名/コース名）
令和5年9月17日（日）	3.5時間	4名	長野県上松町	赤沢自然休養林セラピーロード
令和5年9月17日（日）	5時間	12名	鳥取県智頭町	天木森林公園コース
令和5年11月5日（日）	5時間	22名	岩手県岩手町	嵐山コース・子抱コース
令和5年11月12日（日）	3.5時間	13名	神奈川県箱根町	箱根やすらぎの森
令和6年3月3日（土）	5時間	11名	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川溪谷
令和6年4月12日（金）	5時間	20名	兵庫県宍粟市	国見の森公園
令和6年5月19日（日）	5.5時間	12名	群馬県上野村	中之沢源流域自然散策路
令和6年6月29日（土）	5時間	4名	高知県梶原町	久保谷セラピーロード
令和6年7月7日（日） （5月実施予定から延期）	5.5時間	24名	三重県美杉町	日神西浦コース
合計	43時間	122名	9か所	

「森から学ぶ」 ～森林生態系サービスについて学ぶ～

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043 東京都大田区羽田 1-1-3

1. 活動の概要

- ①当法人が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」(溪畔林・SGEC 認証林)における生物調査データや記録写真を活用し、生物多様性や森林生態系を学ぶ森林学習のための教材作成をおこなった。専門的知見を有する関係者が作成に携わった。

[目的：普及啓発のツール作成]

- ②当法人の事務所が所在する東京都内で、中山間地の林業地や国産材の活用について学ぶ高校生の自主活動を支援した。材木市場見学や材木店での木工ワークショップ実施(東京/新木場)、現地見学(東京/檜原村)、ミニ交流会の実施(長野/天龍村・東御・菅平)を通じて森が果たすさまざまな役割(生態系サービス)に触れる機会を提供した。 [目的：普及啓発の機会提供]

2. 活動の成果

- ①「東御の森」はクマタカが飛来、ツキノワグマも往来。中央に千曲川上流部が流れる溪畔林であり、自然環境が保全されている。今回関係者の協力と工夫により、生物調査の紹介動画や生態系を学ぶコミュニケーションツールを試作することができた。今後東御市や市内で活動する団体と連携し、これらのツールを活用しながら、森林生態系サービスの普及啓発活動へとつなげていきたい。
- ②東京都内の活動は、コロナ禍で移動が制限された期間に試行した活動の継続。高校生の自主活動を尊重して小規模で実施しているが、交流が少しずつ広がっている。

3. 参加者の声

- ①作成した教材・動画を視聴いただいた市民から、森の生き物の関わりや暮らしがわかりやすいとの感想を得た。
- ②交流会に参加された市民から、自然災害が毎年話題となっており、森林の果たす役割(生態系サービス)をあらためて学ぶ機会は重要との意見をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月	11月	1月	2月	3月	6月	計	備考
事業量 又は 事業内容		交流会	交流会	ワーク ショップ	交流会 ワーク ショップ	交流会	交流会		
参加者数	県内(東京)	20人	30人	87人	15人	0人	20人	172人	
	県外(東御)	0人	5人	0人	7人	15人	0人	27人	
	計	20人	35人	87人	22人	15人	20人	199人	
実施場所		長野県東御市・東京都文京区/江東区/檜原村							

持続可能な社会の実現のために、 森林と人との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会

「森づくり政策」市民研究会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14 第1ライトビル 405号
特定非営利活動法人森づくりフォーラム内

1. 活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では森林と人との関わり方について、実践例・研究事例を基に森林・林業の関係者と企業や市民らが共に考え、議論し、課題解決に向けた協働のきっかけ・場づくりを行っている。2023年度はオンライン配信講座を4回(内、地域会場と連携した開催が2回)実施した。その間に有識者・実践者らとの意見交換会も1回行った。

- (1) 連続講座『知られざる"枯木"の深世界～どうなっている？枯木がつなぐ森林生態～』
出演：深澤 遊、相川 高信
- (2) 連続講座『森づくりからまちづくりまで一気通貫！古川ちいきの総合研究所が実践する「トータル林業」とは？』出演：古川 大輔、井上 有加
- (3) 連続講座『“薪ボイラー”ってどんなもの？その技術と社会的意義に迫る』
出演：森 大顕、相川 高信
- (4) 連続講座『「森林環境税」は森と人をつなぐことができるのか？』
出演：井上 有加、鹿住 貴之、後藤 洋一、松浦 成夫

2. 活動の成果

配信形式に加えて後追い視聴の案内を加えたことで様々な形の視聴参加を促進し、連続講座4回の実施で合計1204人の申し込みがあった。地域会場での実施した回では、森林・林業に関わる方たちのネットワークの機会創出にもつながった。

3. 参加者の声

- ・山・森の活用方法についての知見を得ることができた。
- ・森林保全に関心があり、菌類がどのように森林に関わっているのかよく分かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月1日	12月21日	2月16日	5月25日	5月26日	計
事業量	4回	1回	1回	1回	1回	1回	5回
参加者数	都内	100人	84人	100人	7人	145人	436人
	都外	508人	152人	252人	5人	90人	780人
	計	608人	236人	352人	12人	235人	1216人
実施場所		配信	大阪	岐阜	東京	配信	

フェアウッド研究部会の開催

認定 NPO 法人 FoE Japan

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9

1. 活動の概要

日本は国土の約7割が森林であるにも関わらず、木材自給率は4割と海外からの輸入に頼っているのが現状である。日本への木材供給国の中にはガバナンスの不徹底などにより、違法伐採の横行が指摘されている国・地域も多く、森に暮らす生きものや地域住民を脅かし、気候変動の促進にもつながっている。

一方、国内では年々森林蓄積量が高まりつつも、適切な施業が行われていないため、山林の荒廃や林産業の衰退につながっており、木材生産のみならず、森林の持つ公営機能的な機能の維持・増進を妨げてしまっている。この問題の解決には、川上に位置する森林・林業関係者のみならず、より川下に位置する事業者、消費者を含めたサプライチェーン、バリューチェーン全体で課題を共有し、対策について議論する必要がある。

このような状況を踏まえ、私たちは伐採地の森林環境と地域社会に配慮をする「フェアウッド」調達を日本に広めるため、消費者・需要者だけでなく、調達先の森林・林業関係者や木材加工・製造にかかわる人々が、ともに Win-Win の関係を築いていくことを目指し、「フェアウッド研究部会」を開催する。事業の実施にあたっては、課題解決に不可欠なテーマとして、国内の森林・林業、建築、地域・まちづくり等、幅広い分野を取り上げ、当該分野で研究や取組を実践している講師を招き情報提供してもらった上で参加者と議論を行い、川上から川下に至るまでフェアウッド調達を普及させることを目的とする。

2. 活動の成果

本事業では、連続で開催する研究部会に加え、より広い参加者層を集客したワークショップ、林業と森林保全の現場を視察する研修会を実施した。ほぼ月次で開催した研究部会は、全9回を開催し、国内林業の未来に重要と思われる林業の ICT 化や地域のフォレスター導入事例、国産広葉樹の活用事例を紹介すると同時に、責任ある木材調達に重要である認証制度の活用事例、個別企業の先進的な取組を紹介し、参加者で検討を行うことができた。

参加者層を拡大したワークショップでは、学生、林業関係者、大手木材商社、民間団体など、幅広い層の参加者を得て、企業研修でも活用されている林産業を軸とした地域づくりを学ぶカードゲームのワークショップを実施。立場の違う参加者同士の話し合いを中心に、国内林業の実態を疑似体験することができたと同時に、異なる立場の参加者同士の関係づくりを促進できた。

国内の森林保全と林業の現場視察としては、イヌワシの生息地保全と広葉樹活用の両立を試みている群馬県みなかみ町の赤谷の森を訪問。国内外の様々な参加者を得て、伐採施業によるイヌワシ生息環境の整備状況や、伐採木材の流通起点となる町営の木材市場を視察し、森林管理局や町役場の担当者と意見交換を行った。

上記のイベントを実施することで、国内の森林・林業への関心が未知数であった若者層や他業種の参加者の取り込みに着手できたと同時に、国内林業の川上における先進的な取組にスポットをあてたことにより、参加した川下企業との間で実業につながる意見交換を活性化できた。また、そのような川下企業に林業の現場を視察してもらうことで、森林環境の保全をも考慮した木材利用の可能性について知ってもらえたことは、今後の活動を考える上でも重要な機会となった。

これらの活動を背景とした今後の取組としては、より柔軟な考えで国内の森林・林業に接することができる若者層向けイベントを企画し、本事業で得られた川上の取組と川下の関心をマッチングする機会の創出に努める。具体的には、若者も含めた一般層にとって身近である木材製品としての家具や住宅建築と川上の森林・林業の現状との関係性にスポットをあて、将来世代が希望をもてる持続可能な森林利用のあり方について議論する場づくりを行う予定である。

3. 参加者の声

■国内林業のIT化について

- ・林業の課題をより正確に把握し、ITで課題解決していく姿勢が明確でわかりやすかった。
- ・全般的に既存の成長戦略上の考えが強かった。既存の建材開発やビルダーの成長戦略にとらわれすぎていると感じた。
- ・教育従事者という立場から、林業における課題の具体や教育面の可能性など、子どもたちに還元できるような学びの場が必要。

■森林認証制度について

- ・企業の立場から認証制度を導入したことによるポジティブな側面（価格上昇、販路拡大（ないしは販路を閉ざされなくて済んだ）、企業イメージ向上、株価上昇）を聞いてみたい。
- ・ビジネスとして課題は分かっていると思うので、そこを題材にしてほしい。

■宮城県でのクロス林業の取組について

- ・人・山・機械の三位一体の戦略が具体的であり印象的でした。梶原さんの林業を変えていこうとする熱意とそれに伴った戦略の話、とても刺激的でした。自分たちも頑張らなければいけないと思わされました。私も生産しない会社員なので、考えて提案して変えていくことが会社に貢献することなんだなと思いました。
- ・林業会社の多くは中小企業が多く、なかなか長期での経営を見切れないところが多いだろう、と思っていましたが、きちんと30年後までの経営方針を創られているのを拝見できて、実際には様々な障害が発生するとは思いますが、日本の林業もなんとかかなりそうな気がしてきました。
- ・「人事を戦略的に行ったところ、80名、100名の応募があった。ちゃんとビジョンを示して募集をすれば来るんだと思った。」と興奮気味に話されていたのが印象的でした。すごく良い事例だなと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月25日	8月23日	9月13日	10月25日
事業量 又は 事業内容		フェアウッド研究部会の実施 「カードゲームを通じて森を学ぶ、やまなしSDGsプロジェクト「moritomirai（モリトミライ）」	フェアウッド研究部会の実施 「デベロッパーの木材調達の最前線～三菱地所グループの挑戦」	特別イベントの実施 「カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」体験会」	フェアウッド研究部会の実施 「責任ある素材生産事業体認証制度（CRL）の展望」
参加者数	県内 県外 計	19人 0人 19人	29人 37人 66人	23人 0人 23人	2人 32人 34人
実施場所		東京都渋谷区			

実施時期		11月22日	1月31日	2月28日	5月2日
事業量 又は 事業内容		フェアウッド研究部会の実施 「森の時間に寄り添う広葉樹のまちづくり」	フェアウッド研究部会の実施 「林業の未来を考える(その1)～“×(クロス)林業”で作り出す未来とは?」	フェアウッド研究部会の実施 「林業の未来を考える(2)～林業のICT化で切り拓く森林の未来」	フェアウッド研究部会の実施 「地域森林とフォレスト～森林の未来のために必要な2つのこと」
参加者数	県内 県外 計	13人 18人 31人	8人 32人 40人	9人 18人 27人	17人 30人 47人
実施場所		東京都渋谷区			

実施時期		5月18, 19日	6月21日	7月30日	計
事業量 又は 事業内容		赤谷視察ツアー実施「イヌワシを守る木材の利用の現場を見る」	フェアウッド研究部会の実施 「森林認証制度ができること・できないこと～サステナブル調達実現のためのツールの有効活用の方策とは?」	フェアウッド研究部会の実施 「林業の未来を考える(3)～ITの力で健全な木材流通の実現を目指す」	*イベントは、オンラインと現地開催のため、オンライン参加を「県外」としている。
参加者数	県内 県外 計	0人 12人 12人	17人 34人 51人	11人 21人 32人	160人 222人 382人
実施場所		東京都渋谷区、および群馬県みなかみ町			

シンポジウム「森林と健康の新時代—脱コロナ禍の若者たちへ—」

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A

1. 活動の概要

コロナ禍で苦しんだこの3年あまり最も深刻な影響を受けた育ち盛りの世代について、社会はどのような制度設計を必要とし、森林はそれにどう与することができるのか、という点について、森林サービス産業という切り口から、健康面に焦点を絞り、働く人の健康と森林との関係について、第一線の現場で実践的に活動する識者を招き、議論した。

2. 活動の成果

4名の報告者による講演は、それぞれ相互に関連し、健康面に焦点を絞り、働く人の健康と森林との関係について理解するための完成度の高いプログラム構成として大いに反響を得られた。コロナ禍を経て4年ぶりの対面での開催であったが、興行的にも大きな手ごたえがあった。参加者から座長、事務局を通じて問い合わせが多数寄せられている。

脱コロナ禍の時代の若者がどのような課題に直面しているのか、彼らへ届く（若者の為に利く）仕掛け、制度設計がどのように可能で、展望はどのように見出せるのか、議論のための窓口を広げたと評価できる。

3. 参加者の声

「森林での体験がストレスを軽減し離職率を低くすることがあることを改めて発見した」「健康保険、企業での新人研修、地域振興、若者のメンタルヘルス、これらが相互に関わり課題と展望を有していることは、目から鱗が落ちる思いであった」など、多くの好意的な感想を得ている。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月30日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム		
参加者数	県内	人	人	
	県外	人	人	
	計	82人	82人	
実施場所		東京大学農学部弥生講堂一条ホール（東京都文京区）		

地域材を活用した学校教育用教材の開発とその普及

NPO法人木育・木づかいネット

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号
新槇町ビル別館第一1階

1. 活動の概要

図画工作、技術・家庭科など、木材を扱う教育内容、教育活動が取り扱われています。しかしながら、現在、学校等の教育活動で使用される木材は、コストや流通の問題から主として外国産材（ファルカータなど）が多く、国産材を使う例は非常に少ないのが現状です。しかし、これまでの調査から、学校の国産材、地域材へのニーズは高く、今回の事業で開発した教材、副教材はそれに対応できるものと考えられます。そこで本事業では、地域材や未利用の資源等を有効に、そして意義ある活用を進めるために、地域材の教材化、そしてその付加価値を一層高めるための副教材（副読本等）の開発を進めました。

具体的には、林地または工場内の廃材等を積極的に活用し、低コストでありながら、学校の教育活動に沿ったものづくり教材の開発とそれを活用した実践を進めました。また、中学生向けについては、地域材や地域の森林、木材利用の状況について、SDGsの観点からまとめた副読本（A4サイズ4枚程度）、ワークシートおよび授業用スライドを作成し、これを教材として活用し、森林、林業、木材利用に関する理解を促す実践へとつなげる取り組みを進めました。また、小学校、中学校において行った試行実践では、児童、生徒の意欲、関心を一定程度高めることができたと考えています。

一方で、格安の外国産材教材に対して、コスト面や流通の面でまだまだ問題はあつたものの、地域材や地域の森林、木材利用の状況について副読本でまとめたことにより、学校が教育活動の効果、教材の付加価値を感じることができるようになったと考えられ、地域材教材の競争力を高め、未利用資源の有効で、意義ある活用が可能になると考えています。

2. 活動の成果

1) 地域材教材と関連する教材の開発

事業を通じて、以下の教材の開発を進めました。

- ・地域材を活用したものづくり教材（小学校用、中学校用）
- ・地域材と環境の関わりについて解説した副読本（中学校用）
- ・副読本を使った授業実践のためのスライド集、ワークシート

2) 地域材教材を活用した実践

それぞれの教材を活用し、小学校、中学校において実践を進めました。実践にあたっては、小学校、中学校への事前の説明を行うとともに、資料等の活用方法についても提案し、円滑な実施ができたと考えています。児童・生徒も、地域材、国産材への関心や環境との関わりについて考える機会になったことが、事後のヒアリングから明らかとなりました。

地域材の教材としての活用は今後も期待できる事業であり、未利用資源の有効活用、そして意義ある活用方法として期待できます。コスト面などでまだまだ課題はありますが、今後さらに研究、開発を進め、多くの学校で採用される教材となるよう取り組んでいきたいと考えています。

3. 参加者の声

小学校児童（図工の制作）

- ・木の匂いがとても良くて、形や色もいろいろあつて楽しく作れました。
- ・埼玉の木を使うのははじめてでしたが、とてもいいにおいでした。
- ・捨てられる木も多いと聞いたので、大事に使おうと思いました。

小学校教員

- ・地域材の利用は、自然や環境、地域についての学習と関連づけできると思いました。今後も機会があれば活用したいと思います。
- ・木材の匂いや色、触感など、通常の教材よりも多様で、児童の制作意欲やイメージの広がりにつながったのではないかと思います。

中学校生徒

- ・森林を守ることが大事だと思っていましたが、木材を使うことも大事だということがわかりました。
- ・森林とSDGsが深く関係していることがわかりました。
- ・木材を使うことはよくないことだと思っていましたが、そうではないと知って意外でした。

中学校教員（技術・家庭科）

- ・木材の加工学習だけでなく、生物育成の中で森林や林業についてこれまでも取り扱ってきたが、専門的には知らないことも多く、大事なことが多いと感じました。時間数的に十分に扱えない内容もありましたが、生徒は興味を持って学習に取り組んだと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		5月27日	5月13日-5月24日	計	備考
事業量 又は 事業内容		さいたま市内 A 小学校での実践	さいたま市内 B 中学校での実践		
参加者数	県内	142人	279人	421人	
	県外	人	人	人	
	計	人	人	人	
実施場所		埼玉県 さいたま市			

秋の学びの森のママまつり（学びの森のママまつり in 徳島）

NPO 法人チルドリン

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-26-28-2F

1. 活動の概要

子育て世代の家庭に『暮らしのSDGs』をテーマにイベントを通して国産材利用促進の普及啓発を実施。2030年の目標達成のためより多くの家庭の参画を目指すイベント実施と、細やかなアンケート調査により、子育て世帯の「木質化」に対する意識調査を行い、その結果を地域にフィードバックすることにより、製品開発に役立て、ニーズとマッチした製品開発を行うことにより、森林の総合的利用の促進に寄与します。

イベント内容に関しては、学びとしての「専門家による講演、宮大工による木にふれあう機会、竹のクラフトによる竹林の活用」など、また、楽しさとしては「子どもうたごえ喫茶ステージによる森の歌、木のクラフト、木のキーホルダーづくり、眉山（市内の森）のおひるアート」など、【楽しく・学ぶ】ことにより、より家族全員で、共通の意識をもてるコンテンツを準備しました。

そのイベント空間において、ゆっくりアンケートを記入していただき、説明をしながら、アンケートに向き合っていたいただきました。商業施設での木の空間を準備し、みなさんの自宅の新建材の家でも、このように木の空間にしていけることを体験していただきました。

2. 活動の成果

本ファンドを活用したアンケート調査により、イベントに来場した子育て世帯へのアンケートの結果、自宅を木質化した世帯は、64%と高く、特筆すべき点は、木質化に興味ある世帯は60%にのぼります。また、興味がないとしても、子どもたちに「木の空間を体験させたいですか？」の問いには、約90%の家庭が「はい」との回答、また、全体では90%を越える人たちが、子どもたちに木の空間を体験させたいとしています。今回のアンケートでは、木への心象や木質化のリフォームしたい場所などを回答していただいているので、そのアンケートを基に、木材関係者などと協議を重ね、製品化への取組みと発展していければと思います。

3. 参加者の声

参加者からは「木の良さについて、楽しく学べる機会になりました」という声をいただきました。「また、やってほしい」「もっと、大きな会場でやってほしい」との声も多数いただきました。また、「お昼ご飯を食べるのも忘れて夢中で遊んでいました」と、嬉しい声もいただき、子どもたちに、木の心地よさを体感してもらえました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月22日	計	備考
事業量 又は 事業内容	子育て世代の家庭への森林の総合的利用の促進「学びの森のママまつり in 徳島」		
参加者数	県内 628人 県外 人 計 628人	628人 人 628人	
実施場所	徳島県徳島市寺島本町西 1-5 アミコビル東館 9F とくぎんトモニプラザ		

「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム 2023

一般社団法人 TOBUSA

〒123-0862 東京都足立区皿沼二丁目23番7-505号
フォルティエヌ皿沼505

1. 活動の概要

木の加工、並びに木を使った創造活動に関わるワークショップや動画、シンポジウムを通して「木」の魅力、日本における木の文化の歴史と現在を伝えることを目的としています。

今年度は前年度多く質問を受けた「木を削りたいけれど道具が手に入らない」という参加者からの質問をもとに、木を加工するための手道具の生産と販売の実情はかなり変化しているのではないか？という周辺問題に着目しました。

昨年に引き続き、木材利用における指導、「木になるはなし-つくるものつくられるもの」と題したシンポジウムの開催と冊子の作成。教材の開発とワークショップを行いました。

2. 活動の成果

木を加工する道具が手に入りにくくなった背景に、一般家庭で木を買うことができないという実態が切実なものであることが見えてきました。コロナ禍前は林業や木材に携わる人の雇用状態が大変だ、もっと環境改善をとという声が聞こえていましたがコロナ禍が開け、これまで聞こえていた声すら入ってこなくなりました。材木商も減り、木を買えなくなると同時に道具も買うことが困難になってきた現状がはっきりしたため、既に今後の日本における木の文化は伝え方を考える段階ではなく、早急に記録し今まだかろうじて関係している若い世代と危機感を共有する必要があると実感しました。

3. 参加者の声

シンポジウム参加者 A「これまで色々調べて自分も刃物の手入れしてきたが、実際に専門家の話を聞いて、更に自分でもやってみようと思えて楽しかった。」

同上 B「実際にWSで普及活動している人の話を聞いて、ひとりで活動するよりも心強く、ワークショップの普及活動、木の魅力を伝える仕事にとっても興味をもった。」

同上 C「材木商はもう衰退の一途を辿っているが、教育では稼げない。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024年3～6月	2024年6月	2024年6月	計	備考
事業量 又は 事業内容	『木になる話-木にひかれるわたしの理由-』 冊子作成	『木になる話-木にひかれるわたしの理由-』 作品展示 シンポジウム	「木を削ってみませんか」 子供向け木材を素材としたワークショップ		
参加者数	県内 5人 県外 2人 計 7人	125人 2人 127人	5人 5人	135人 4人 139人	県外県内がわからない場合もあります
実施場所	東京都				

森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、 森づくり団体の活動支援事業

NPO 法人森づくりフォーラム

〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14
第一ライトビル 405 号

1. 活動の概要

森づくり体験を通して、森林と関わりを持つ人々の裾野を広げ、森づくり活動への新規参加者の促進と指導者の育成等の活動団体の支援を図るため、東京都の多摩地域で活動する5つの森づくり団体と協力し、「初心者のための森づくり体験会 2023～2024」を計5回開催した（秋冬の森：3回、春の森：2回）。

これまであまり森づくり体験をしたことがない層に向けて参加の呼びかけを行い、イベントを受け入れるそれぞれの団体の活動するフィールドや特徴を活かし、間伐体験、竹林整備、自然観察、クラフトづくりなどの森林体験を行った。

参加者はリタイア層から、社会人、学生、親子まで、都内を中心に首都圏在住の幅広い人が集まった。

2. 活動の成果

これまで、主に Facebook 広告やメルマガなどで告知を行っていたが、コロナ禍のため取りやめていた都内の図書館へのチラシ郵送を再開した。また、秋冬の森の際に、当日連絡もなく集合場所に来ないキャンセルが多かったため、春の森には従来の google フォームでの申し込みから参加費事前決済型の Peatix での申し込みを取り入れた。それによって、春の森は当日キャンセルがなく、また、これまで情報に触れていなかった新たな参加者層にイベント情報を届けることができた。

今後も森づくり体験会を継続し、森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり団体の支援につながる事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

今回、特に秋の森は当日キャンセルが多く、参加者が少人数のイベントとなったため、受け入れ団体スタッフと参加者の間に密な関係性ができ、今後もこのフィールドでの森づくり活動に参加したいという声が多く聞かれた。

また、活動内容や、受け入れ団体への満足度も非常に高かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月～12月	3月～4月	計	備考
事業量 又は 事業内容		初心者のための 森づくり体験会 2023～秋冬の森 ～ 計3回	初心者のための 森づくり体験会 2024～春の森～ 計2回	初心者のための森 づくり体験会 計 5回	
参加者数	県内	22人	27人	49人	
	県外	4人	4人	8人	
	計	26人	31人	57人	
実施場所		東京都 青梅市、八王子市、日の出町			

100年先もずっと・・緑と森と森林のコンサート

ヨーデル北川桜とエーデルワイスミュージカント
〒166-0015 東京都杉並区成田東1-34-13

1. 活動の概要

新穂高ロープウェイ鍋平高原駅広場で、森林・緑・水に対する普及啓発活動として、森の詩の入った、ヨーデル、カウベル等のアルプス音楽と、森の専門家のお話付コンサートを行った。

又その様子の収録配信を行った。

2. 活動の成果

<成果>

- ・大自然の中で聞く、森の専門家のお話は、普段人々があまり考えていないような内容で、森に対する啓発活動に繋がった。
- ・明るく、森にピッタリなアルプス音楽で人々は、憩い、寛いで楽しめる時間に繋がった。
- ・新穂高の美しい大自然の配信用映像が出来、当日来られなかった方にも、森に親しみ、森のことを考えるきっかけになった。

<これからの取り組み>

- ・出来上がった映像を、岐阜県などのアンテナショップや、都会のビルのアトリウムなどに流してもらえるように交渉します 森を好きになるきっかけの一助になればと思います。
- ・この企画は、専門家のお話と森の音楽はバランスが良く、人々は楽しみながら、参加しながら森に思いをはせることが出来る良い企画だと思うので 色々な地域で展開して行きたいです。

3. 参加者の声

「大自然の中で聞くヨーデル最高でした！森のお話も興味深かった」

「日本の森のことが良くわかりました。日本は恵まれている国だったのですね」

「楽しかった 森が好きになりました。」

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月14日	計	備考
事業量 又は 事業内容		100年先もずっと・ 緑と森と森林の コンサート 実施		
参加者数	県内	100人	100人	
	県外	405人	405人	
	計	505人	505人	
実施場所		岐阜県高山市奥飛騨温泉郷新穂高温泉 新穂高ロープウェイ鍋平高原駅広場		

森林資源の活用による森林環境教育

特定非営利活動法人自然文化誌研究会

〒191-0053 東京都日野市豊田三丁目28番地の2

1. 活動の概要

森林の水源機能と共に、エネルギーとしても見る目を養い、燃料の入手・加工・活用・保存等を積極的に学ぶ環境学習プログラムを行う。参加者は小中学生、スタッフとなる高校生～大学生・社会人も学ぶ側となり、実際に中長期キャンプを行う。講師には日常的に森林資源を活用する地元民とし、森林の有効性や森林資源とエネルギーに囲まれる山村の豊かさを学ぶ森林環境教育・体験学習の場の充実を図る。同時に過疎である農山村と都市住民の交流を身近なものになることを狙いとした。

- ・参加者が森林に入り、材の調達、加工、活用を行う。
- ・焚火（暖まること）、調理（食事）、風呂沸かしなど、日常生活で当たり前が存在することの根本を自らの手で実践して体験する。
- ・地元住民を講師に、炭焼きなどの伝統的な知恵を学ぶ、交流する。
- ・12/26-28、5/3-5に山梨県小菅村にて環境教育キャンプを行う。

2. 活動の成果

2023年12/26-28「冒険学校まふゆのキャンプ」

2024年5/3-5「冒険学校むらまつりキャンプ」

と称し、宿泊しながらの野外キャンプを多摩川源流部の山梨県小菅村にて開催した。小菅村は面積の95%が森林でありその多くが東京都の水源林となっている。

安全面に配慮しながら、参加者の火の使用に対して自由度を高くした。その燃料となる「材」の準備と調達についても参加者が自ら行うことで、「何が燃料であるのか」「貴重なものであるか」を体験し、森林資源の有用性について肌で感じてもらった。杉林に入り、杉葉を集める、新聞紙は使わないで着火剤としたり、川に入って流木を集めたり、積極的に材の調達を行った。その材を用いて、子どもたちが試行錯誤しながら自らの力で焚火をして楽しみ、その火をお風呂や炊事に利用する事もできた。理論・理屈については今後の教育機会ですら順次学ぶことができるが、基礎的・原始的な体験はこの時代にこの機会にしか獲得できないものであると認識している。

参加した子どもたちのみならず、安全確保の立場にある運営側の社会人・大学生・高校生スタッフにも実体験となり、震災などの未曾有の災害が起きた場合は主体的に燃料の調達などの必要性を理解してもらえただろう。

森林が都市部での暮らしと密接に関わっていることを意識してもらえたと思う。

3. 参加者の声

- ・炭と薪の違いが分かった。炭を作る手間を見ることができた。
- ・普段は山歩きをしていたが、山の中にこんなにもたくさんの燃料があることを知った。
- ・燃料を集めることは、昔は子どもたちの仕事だったと聞いた。
- ・灰を使って山菜（ワラビ）のあく抜きをするなんて誰が始めたんだろう？
- ・囲炉裏は暖を取るだけでなく、調理器具だったんですね。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12/26~12/28	5/3～5/5	計	備考
事業量 又は 事業内容		冒険学校 「まふゆのキャンプ」	冒険学校 「むらまつりキャンプ」		
参加者数	県内	2人	2人	4人	
	県外	32人	65人	97人	
	計	34人	67人	101人	
実施場所		山梨県北都留郡小菅村			

第7回全国木のまちサミット 2023 in おだわら

おだわら森林・林業・木材産業再生協議会(小田原市共催事業)
〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300

1. 活動の概要

全国の多くの自治体と同じく、木材需要の低迷などが原因で森林の手入れが進んでいなかった小田原市では、神奈川県の水源地の森林づくり事業に始まり、川上から川下の関係者が一体となって森林・林業・木材産業の再生に取り組んできた。都心近郊でありながら森里川海などの自然環境と市街地が近接した立地から、都市と森林を繋ぐ役割を担う当市の取組を紹介することで、全国での木材利用と健全な森林育成の好循環に向けた機運向上を図ることを目的にサミットを開催。

サミットでは、午前の部で小田原市内の木質化施設や森林サービス産業施設等を視察いただき、午後の部では行政や民間、有識者による基調講演を実施するとともに、小田原市の木材利用の取り組みや県内の都市部自治体との連携体制について事例紹介を行った。

また、事前に関係自治体にヒアリングを行い集約した、森林・林業・木材産業分野にかかる課題等をテーマにディスカッションを行い、課題解決のためにヒントや工夫を模索した。

2. 活動の成果

関係自治体や団体等含め、川上から川下の関係者(107名)が参加し、森林・林業・木材産業分野の課題や先進事例を共有したことで、今後、更なる木材利用の推進及び都市・山村地域の連携強化に期待できるサミットとなった。

3. 参加者の声

- ・視察と講演会を一連の行程で実施したことで、市の取り組みと成果が具体化され、参考になった。
- ・行政、民間、有識者、それぞれの知見による基調講演が勉強になった。
- ・各自治体が抱える課題が共有できたことで、今後の取り組みの参考になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	視察及び 講演等 令和5年 11月9日	1日	
参加者数	県内	76人	76人
	県外	31人	31人
	計	107人	107人
実施場所	神奈川県小田原市 小田原三の丸ホール		

「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り

一般社団法人全国森の循環推進協議会
〒221-0056 横浜市神奈川区金港町6-18
アーバンスクウェアⅡ1階

1. 活動の概要

地球温暖化防止・国土保全・森林整備・木製品消費促進・上下流域交流を目的とした、啓発活動を実行する。また、活動を通して山の学校への参加者を募ることを目的とする。

2. 活動の成果

コロナウイルス流行以前に事業実施をしていた各水泳大会では来年度以降少しずつイベントができるよう入場者を開放予定とのことで、残念ながら本年度はまだ以前のようなイベント再開は叶わなかった。ただ、来年度以降規制が開放されていくうえでイベント実施の希望を現にいただいているため、既に一部イベントについては日程調整をしている。

また、以前より活動を行っている各スクールでは本年も継続的に出前型「山の学校」の実施が実現し、木工作体験では、木材の樹種を選べるスタイルにしたことや、水源地の森で採れた木の実を装飾できるようコンテンツ内容を更新し、さらに参加者の興味を引き出し取り組んでもらうことが出来た。

木材そのものを木材利用促進の切り口とするだけでなく、木の実や誰も知っている樹種を参加者へ説明しながら身近なものから木材利用の発展へと結びつけることで、より一層木材や間伐材といった存在が身近になり、利用の難易度も低くなるのではないかと考えた結果、今回の木工作の内容更新は効果的であったと感じる。またろ過装置の実験では意欲的な参加者の子どもがすぐに実験結果をイラストにおこすなど、川下にいながらも山の仕組みを理解している様子が伺えた。

他にも、以前イベントに参加された方が再び参加してくれ、記憶に残っていることを教えていただけたことから、活動が実績として広く一般市民へ浸透していると捉えることができるとともに、学校教育でもSDGsについて取り上げられることが増加してきた今、先行して活動を推進してきたこの啓発活動を継続的に実施することは上下流域交流の機会増加のための架け橋になり、今後も宿泊型「山の学校」の実現及び日帰り型「山の学校」の実現に向けて真摯に取り組むべきであると考えている。

3. 参加者の声

- ・山が水をろかする仕組みがよく分かりました。
- ・自分で制作することが好きなので、またイベントに参加したいです。
- ・木の香りがいろいろ感じられて、大人も子供も楽しみながら木の大切さを学ぶことができました。間伐材を活用していると聞いて、周りの方にもぜひ勧めてみたいと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベント会場 での体験学習 型啓発活動	11/3 12/25	2回	スポーツプラザ報徳 左近山 バロネスアカデミー ダンシングスクール
参加者数	県 内 県 外 計	約 150 人 人 約 150 人	約 150 人 人 約 150 人	
実 施 場 所	県 市・町			

子育ての森の恵みをみんなの暮らしにプロジェクト

NPO 法人 緑とくらしの学校

〒943-0897 新潟県上越市滝寺 251 番地

1. 活動の概要

間伐した木を利活用する行程に自ら関わり、今後の生活の中で持続可能な選択を行える市民を育てていくことと、森に関わる人が増えることを目的とし、【森づくりとして間伐・玉切り・薪づくり】【イベントでワークショップを開催 ①ウッドトーチを作ろう ②ピザを作ろう ③スツールづくり ④森のスプーンづくり ⑤丸太の製材・見学】を行った。木をきる・皮をむく、運ぶ、板にする など木を利活用するすべての行程にかかわる活動を行った。乾燥し、一年後に森で使うテーブルとできるよう計画している。

2. 活動の成果

当法人の管理する森での開催だけでなく、一般市民が集まる公園や商業施設の一室を使ってイベントを開催したことで、たくさんの方の目に触れ、興味を持っていただくことができた。

参加者だけでなく、イベント会場に足を踏み入れ、展示を見ていかれただけの来場者も多くいたが、木の香りや木の赤ちゃんのクイズに積極的にこたえるなど参加者の数字以外の触れ合っていた人数が延べ250人を超えるので、上越市民への普及啓発という目的は大きく達成できたと思う。

また、ワークショップに参加いただけた子どもたち、保護者のみなさんには、森づくりを行い、間伐した木が板になり、自分たちの生活に使えるイスやスプーンを作り、実際に生活の中に制作物が加わることで、森を思い浮かべる発言や大事に使う愛着が生まれていることに大好評をいただいている。来年度も継続したイベント開催を望む声が多かった。

3. 参加者の声

- ・木がこんなにも重いなと思った
- ・木が倒れるときのドスンという音がすごかった！
- ・森の木がイスになるなんてすごい！
- ・作ったスプーンを大事に使いたい
- ・また来年もイベントを継続してほしい

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月8日	9月9日	9月30日・ 10月1日	11月11日	12月21日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森づくり	森フェス1 in 直江津海 浜公園	森フェス2 in 無印良品	森づくり 【土曜日組】	製材見学		
参加者数	県内	13人	79人	110人	29人	30人	261人	
	県外	0人	0人	5人	0人	0人	5人	
	計	13人	79人	115人	29人	30人	266人	
実施場所		新潟県 上越市						

地域の竹林保全啓蒙活動：とやまの竹の祭典

NPO法人バンブーセーブジアース

〒930-0112 富山県富山市八ヶ山 145 番地

1. 活動の概要

荒廃した竹林整備で排出した竹の有効活用を目的に、竹の有効利用を考え、竹炭用の無煙炭化器を活用して、環境保全や地域貢献・地域の子供たちへの竹林管理の重要性を啓蒙普及する活動を目的とする。

2. 活動の成果

とやまの竹の現状の調査研究機のため、当法人に竹の研究所を設置、成果発表の場として「世界竹の日「とやまの竹を考える：とやまの竹の祭典」を継続実施する。竹細工教室や地域イベントに参加し、富山県内の竹林問題啓蒙活動を実施する。

3. 参加者の声

とやまの放置竹林問題を初めて知った。これからも富山県・富山市・環境財団と竹ネットワーク活動を強化継続してほしい。

竹林伐採廃材の有効利用・地域の学生への竹林保全や里山環境教育（SDGs）・竹の問題を講演してほしい。とやまの竹の現状を参考になった。

来年も「世界竹の日「とやまの竹を考える：とやまの竹の祭典」として富山県内の竹林問題啓蒙を実施してほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月17日	9月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容	スタードームテント体験	とやまの竹の祭典 竹サミット 啓蒙展示 竹細工 ライブ 飲食マルシェ		事前告知 地域活動で随時実施 事後、富山県内で 成果発表 講演発表実施
参加者数	県内 30人 県外 7人 計 37人	560人 7人 567人	590人 14人 604人	スタッフ含む 九州から招待
実施場所	富山県富山市西金屋字長尾 8194 富山県呉羽青少年自然の家			

自然に寄り添った暮らしや遊びを通じた体験活動

さとやま子育てコミュニティ いけだのそら
〒910-2502 福井県今立郡池田町野尻 11-3

1. 活動の概要

自然に沿った暮らしや、五感を使って好奇心や探究心を思う存分発揮する体験を通して、子どもたちの主体性や生きる力の土台を育むことを目的として、無農薬の米作りや川遊び、自然素材を使ったお絵描き会、森の中のピザ窯を使ったピザ作りを開催した。

また、有識者を招き、「自然が育む子どもの姿～森のようちえんの子どもたち～」と題して自然体験や自然保育についての講演会を一般向けに開催した。

2. 活動の成果

無農薬の米作りは、田植えや稲刈りだけではなく、草取りやご飯炊きまでの一連の作業を体験し、無農薬の意義や大変さを子どもたちと一緒に体験から実感することができた。自然素材を使ったお絵描きや、森の中でのピザ作りでは、子どもたちの自由な表現や主体性を引き出し、彼らの心を動かす体験を提供することができた。

今後は、無農薬の米作りを継続して、地域の農業や生き物を育む環境について学ぶとともに、未利用の森林資源を有効利用する活動を実施して、健全な森づくりを進めていきたい。

また、地域の人材との連携や、豊かな自然環境を保育・教育の場として使用することで、子どもたちの育ちを支え、地域の自然を未来につなげていきたい。

3. 参加者の声

- ・自然や子どもたちとともに過ごす時間や機会、経験を増やしていきたい
- ・自然体験が子どもを育むということにより一層理解が深まった
- ・親子だけではなかなかできない自然体験を仲間と一緒に味わうことができ、子どもの貴重な原体験となっている

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月15日 9月2日 10月2日	8月5日	9月9日	10月10日	11月25日	2月17日	計
事業量 又は 事業内容		田んぼの 草取り 稲刈り	川遊びと 生き物探 し	自然保育 有識者に よる講演 会	土絵具を 使ったお 絵描き会	新米羽釜 ご飯炊き	森のなかの ピザ窯でピ ザ作りと森 探検	
参加者数	県内	49人	13人	28人	22人	14人	17人	143人
	県外	人	人	3人	人	人	人	3人
	計	49人	13人	31人	22人	14人	17人	146人
実施場所		福井県今立郡池田町野尻、菅生						

命の水を育むげなんぼう（銀杏峰）を癒しの森に

里山銀杏峰を愛する会

〒912-0045 福井県大野市若杉町1502-3

1. 活動の概要

28年前白馬から大野に戻り、大野市に上下水道が殆ど無い、何でだろうから始まり市民の大半が自前の井戸で生活されている、その源が銀杏峰を含む南西に聳える屏風山脈からの恵みを知り大野に上水道が無い事がより判明、雪解けから登坂開始調査で、手つかずの二次林が素晴らしく声を失う程、で、地権者に暗黙の了解頂き、地山弄らず登山道整備始める、と、亜高山帯お花が順次増え、お花のゲナンボウも魅力の一つに、厳冬期も冬季限定奥越前アルプスプレミアム&無料美術館と言われ来山者も多い時80～100名と賑わう。その山に中国資本が侵入始まり大手電源開発が風力発電計画、何としても阻止運動を仲間と共に行い、両事業とも一旦休止追い込み、環境庁が視察に入り開発は駄目だのお墨付き頂く、慢心せず、数年に一度発芽する、山桜約300鉢予備苗も含め育苗初め、今後も微力ながら仲間と共に、まい進の所存です。

2. 活動の成果

お花の山、オオヤマレンゲ等冬季限定ツアーコース、と、認識され初め10年以上、年間来山者絶えず多い時車10台を超えた事も有り、24年6月14日～7月初旬まで天女花愛でに、好天時の土、日、祭日に40～50台平日でも10～20と見えました。今後も要求が出ない里山目指しより安全な登山道に、山頂周回ルートを高地トレコースに、進みたいと思います。

3. 参加者の声

整備時にスライドされる登山者の殆どが、次はどのお花ですか？何日に伺う予定ですが私でも登れますか、どのルートから登る方が楽ですか等問い合わせは可成り有り、他の登山者の記載も覗きながら其れなりに情報知らせ、今後も仲間と共に時間許せば整備に情報調査に努めます。

実績報告とりまとめ表

実施時期		23年7月1日	24年6月30日	計	備考
事業量 又は 事業内容	植物保護登山道整備、各標識手直し等々	7月～12月	1月～6月		登山道整備に終わり無く、2年手入れ無しだと殆ど元に戻り、活動は進行中。
参加者数	県内	50人	30人	80人	
	県外	3人	5人	8人	
	計	53人	35人	88人	
実施場所		福井県大野市宝慶寺、憩いの森を含む銀杏峰一帯			

念場ヶ原山恩賜県有林保護財産区における 総合的利活用の促進のための体制づくり

特定非営利法人 山梨地域研究所
〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目4-20

1. 活動の概要

念場ヶ原山恩賜県有林保護財産区の森林は、地域の共有財産として、財産区の構成員である地域住民によって植栽や下刈り、路網の整備等の管理がされてきた。しかし、現在では構成員は高齢化し、また地域住民の森林への関心は薄れ、積極的な森林管理が行えず、このままでは森林の有する多面的機能が損なわれていく恐れがあった。

このため、山梨県や北杜市の助言を受けながら2022年度に財産区の森林管理の方針を作成し、木材生産の他に、環境教育や観光等レクリエーションの場として活用し、それらの目的に応じた森林整備を実施していくこととした。

方針の作成にあたっては財産区の役員と事務局とで検討を進めたが、方針の実現のためには、地域全体で地域の森林および森林管理について考えていく必要があるため、森林の管理、財産区の運営、野外教育などに関する専門家のサポートを受け、広く地域住民が参加して森林や森林管理について理解を深めてもらうための勉強会やシンポジウムを開催した。

2. 活動の成果

財産区の役員、事務局とも森林の管理方針を作成したものの、森林の管理についての負担感は持ち続けていた。しかし、勉強会や森林管理の検討会により、新たな森林の管理や活用に関する意識醸成や理解を促進し、これらの方を通じて住民や市役所等の地域における森林管理についての関心を高めることができた。

財産区の森林の近くの施設を会場に開催したシンポジウムには、財産区役員や地域住民のほか、北杜市長をはじめとする行政関係者、林業事業者、観光事業者、野外教育関係者、また長野県内の財産区関係者など78名が参加し、活発な議論がなされた。

今回の取り組みを通じて、財産区の役員や事務局には、地域が主体となり企業等と連携して、木材生産のほか環境教育、観光、森林整備などでフィールドとして活用するということについての具体的なイメージが芽生えてきている。

このため、令和6年4月からは財産区の森林管理を受託する地元林業会社と共に、多様な森林サービスの提供について、具体的に事業を進めていく予定である。

3. 参加者の声

- ・森林の管理を負担と感じていたが、行政や林業会社などの協力者を得たことで前向きに考えられるようになった。
- ・持ち回りで財産区の役員になったので、森林のことも財産区のこともよくわからなかったが、自分たちの役割を理解することができた。
- ・昔に植えた木が大きくなったが、安くしか売れないので価値はないと思っていたが、森林のいろいろな価値や使い方があることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	勉強会	8月10日	1回	15人
	検討会	9月22日	1回	13人
	検討会	12月22日	1回	13人
	シンポジウム	11月11日	1回	78人 (内県外18人)
参加者数	県内	101人	101人	
	県外	18人	18人	
	計	119人	119人	
実施場所		山梨県 北杜市		

北アルプス地域の里山広葉樹活用と自治力育成のための ワカモノ&ヨソモノ巻き込みプロジェクト

北アルプス広葉樹活用研究会

〒399-7301 長野県大町市八坂 11054

1. 活動の概要

北アルプスのナラ枯れ被害木の用材利用等を試行することで発足した研究会。本事業では木工体験&お話会といったイベント等の開催を通して、若者（ワカモノ）や移住者（ヨソモノ）、地元の木工作家やデザイナーなど、森林・林業業界の外にいる非業界関係者を巻き込んだコミュニティの形成し、地域資源としての里山広葉樹活用や次世代の担い手育成を目指す。

2. 活動の成果

今回開催した木工体験&お話会では、昨年に引き続き参加してくれた方々に加えて、新たな若者の参加も得られ、信州の広葉樹を含む森林資源について関心を持つコミュニティの輪が少しずつ広がっていることが確認できた。今後も継続してトークショーやお話会といった議論や意見交換、および交流できる場を設けることで、地域資源活用の関心層コミュニティの輪を広げ、実践活動に取り組んでいる人々のサポートも含めて、都市部の関心層とのつながり交流を促進していく。

3. 参加者の声

- ・森林組合関係者：広葉樹についてこれほど熱く語れる場はとても貴重で大変ありがたい。是非、今後も継続して参加したい。
- ・若手の工務店（一人親方）：地域材を積極的に使いたいと思っていて、木材には強い関心がある。今回はとても勉強になった。是非、ここで得た知見を活かしたい。
- ・地元企業（登壇者の一人）：私自身は木材について全くの素人。研究会の方から木材について学ばせてもらっている。今回のお話会もとても勉強になった。今後も共に活動していきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月8日-9日	5月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容		北アルプス広葉樹活用 研究会活動方針検討会	ゆるっとまじめに考 えてみよう私たち信州の 宝物～知ろう、使おう 里山の木 木工体験& お話会		
参加者数	県内	3人	28人	31人	
	県外	2人	2人	4人	
	計	5人	30人	35人	
実施場所		長野県長野市			

シンポジウム「未来へつなぐ森林活用を考える～ 全国トレイル・メンテナンスフォーラム」@信越トレイル

NPO 法人信越トレイルクラブ事務局
〒 389-2601 長野県飯山市照岡 1571-15
なべくら高原・森の家内

1. 活動の概要

国内外からトレイル（自然歩道）の整備に造詣の深い有識者を招き、整備活動経験者や一般参加者を交え、持続可能なトレイルメンテナンスについて情報を共有、交流・ネットワーキングを促進し、今ある課題と将来的なトレイルの整備の在り方について一緒に考えるためのシンポジウムを開催。基調講演、活動紹介、パネルディスカッション、交流会、ワークショップ、フィールドワークを行った。

2. 活動の成果

登壇者やブース展示の多様かつ詳細な情報提供・意見共有に対し、参加者各々の持つ（または共通する）課題感が共鳴し、行政・団体・個人の垣根を超えて活発な意見交換が行われた。また参加者属性から、トレイルメンテナンスに参加する・興味を持つ人が確実に増えてきていることが確認できたため、今後いかに情報を発信し、また他団体等と横連携を行って一般ユーザーを巻き込んでいけるか、検討していきたい。

3. 参加者の声

- ・各地（アメリカ・北海道・北アルプス）のメンテナンス活動詳細を聞くことができ大変参考になった
- ・登壇者の想いや信念を直接聞け感動した
- ・トレイルメンテナンスに携わる他の地域の人たちと知り合え、モチベーション向上にもつながった
- ・ユーザーへの現状周知と理解促進、地域との連携体制の構築も進めたい
- ・自分もボランティア活動に参加してみたい（今後もっと積極的に関りたい）
- ・トレイルメンテナンスについて議論を交わす機会が今後も継続的に必要である

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月17日	11月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容		基調講演 活動紹介 パネルディスカッション 交流会	ワークショップ フィールドワーク		
参加者数	県内	86人	27人	113人	
	県外	74人	56人	130人	
	計	160人	83人	243人	
実施場所		長野県飯山市			

森の力を感じて、体験する「森林 ESD」

のいちご会

〒 391-0211 茅野市湖東 3675

1. 活動の概要

身近にある私有林を活用し森林資源を生かした、森カフェ（食）・災害シミュレーション・森づくりを柱にした森や自然の力を体感する体験講座を開催し、森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援を行う。

2. 活動の成果

- ・森のさんぽで、主催者が小枝やゴミを拾いながら歩くと、子どもたちも真似をして拾いながらの道中となる。身近な里山からの恩恵を受け、またできることから手入れをし里山を大事にすることを伝えることができた。
- ・たき火の時期に合わせて災害シミュレーションキャンプを企画する。今年度は1月4日に企画。いつ自然災害が起こるかは予測できないという前提の元、忙しい時期かとは思いつつも年始に企画をした。北陸震災の状況などから災害避難が身近に感じられる中での活動になった。屋外での避難が身近に感じられた。
- ・PLT ファシリテーター養成講座を通し、他者理解の手法を学び、森や生き物になって考えるなど大変学びがありました。また大学生から社会人まで年齢幅がある中で受講者同士の交流を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・森林 ESD のお話の中で、一人でできることが少なくても、様々な役割をみんなで担えれば活動が前向きにできると感じました。SDGs すぐろくは小5の娘も考えながら取り組んでいました。
- ・北陸震災からすぐに災害シミュレーションキャンプに参加。寒さを感じる中でも、実際に屋外に避難した場合に自分でできることを教えてもらいました。トイレは、特に、被災地でのストレスになるとのこと、今回教えてもらった簡易のトイレを一度使用してみるなど、備えていきたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月16日	10月29日	11月4日	1月4日
事業量 又は 事業内容		森林 ESD 講座(森林資源の活用)	森のさんぽと森カフェ	諏訪湖クリーンウォーク	災害シミュレーションキャンプ
参加者数	県内	6人	15人	15人	6人
	県外	0人	0人	1人	0人
	計	6人	15人	16人	6人
実施場所	長野県 茅野市・富士見町				

実施時期		1月5日	3月23日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森のさんぽと森カフェ	PLT ファシリテーター養成講座		
参加者数	県内	5人	8人	55人	
	県外	2人	3人	6人	
	計	7人	11人	61人	
実施場所		長野県 茅野市・富士見町			

森の輪ひろば

(一社) いび森のようちえん こだぬき

〒501-1303 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬 878

1. 活動の概要

森の輪ひろば=木育子育て広場を、月に1回程度、平日の10-14時に開催。植物などの自然物を使ったワークショップや、畑仕事を行う。また小さな子どもは、庭で遊んだり、木のおもちゃで遊ぶこともできる。小さな子どもを連れた親さんは、自然の中で遊ぶ方法を知らない人も多い。そのためスタッフが、親子で森へ行く際の工夫や自然の中で遊ぶ良さも伝えつつ、地域の自然体験活動も紹介する。スタッフは、親子と地域をつなげる、親子と自然とつなげる役割を担う。

2. 活動の成果

夏休み中の開催には、小学生も来てくれ、異年齢の関わりも見られた。外遊びでは、畑で収穫をする他にも、カエルを見つけたり、蝶を見つけたり、川沿いをゆっくりさんぼしたり、小さいお子さんとその親さんがリラックスし、自然の良さを感じてもらえた。子育ての話を中で、地域の自然体験活動を紹介することができた。

3. 参加者の声

夏休み、小学生と未満児の兄弟だと、休日に一緒に遊ぶことができる施設がなく、このような場所があって助かった。小さな子が、お兄さんお姉さんの遊びに興味津々で真似していたり、いい刺激がたくさんあった。

杉板の良い香りに癒される。窓を開けていると、風が通り抜けて気持ちいい。ゆったりとした時間が流れていた。

お喋りしながら手仕事をして、子どもたちは一緒に遊んだり、ときには喧嘩したり。手の空いているお母さんが子どもを見合ったりして、賑やかで和やかな雰囲気でした。

たたき染めは、草によって色が付きやすかったり付きにくかったり、潰れたときの色が変わったり、いろんな発見があって面白かった。

落ち葉のプール、普段こんなふうには遊べないからよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	計	備考
事業量 又は 事業内容	森の輪ひろば 毎月1-2回開催 合計14回		
参加者数	県内	243人	
	県外	人	
	計	243人	
実施場所	岐阜県揖斐郡揖斐川町		

未来につながる体験活動事業

いのちもり

〒509-8301 岐阜県中津川市蛭川 338-1

1. 活動の概要

地方の田舎であっても、子どもたちが自然の中で遊ぶ姿はほとんど見られなくなってしまいました。

当団体では、子どもたちが安心・安全に活動ができるように森を整備し、まずはそこで、子どもたちに思いっきり遊ぶ体験をしてもらいたいと考えました。

その体験を通して自然との距離が近くなり、自然に対する意識のへんかを少しでも促すことができたらと考えています。そしてその子どもたちが成長した時に、自然環境の改善につながる言動が現れることを期待しています。

2. 活動の成果

自然の中で多くの子どもたちが笑顔で遊ぶ姿をたくさん見られたことが、一番大きな成果でした。スマホやタブレットなど、様々なスマートデバイスに触れる機会が多くなった子どもたちにとって、自然に触れる機会の大切さを改めて痛感することができました。

今はまだ、限られた子どもたちの自然体験しかできていませんが、今後はさらに多くの子どもたちが自然体験できる環境をつくっていきたいと考えています。

3. 参加者の声

- ・たくさんの動いている虫たちを見ることができてうれしかった。(幼児)
- ・森の中がとても気持ちがいいところだと初めて知りました。(小学4年生)
- ・松を伐っているとてもいい匂いがした。これをお風呂に入れたと思った。(小学6年生)

実績報告とりまとめ表

実施時期		年間を通して	1年12回	備考
事業量 又は 事業内容		森のようちえん 森林内での保育	森と暮らしの学校 森林体験活動	年間を通しての活動（森のようちえん）と月に1回計12回の活動
参加者数	県内 県外 計	17人 人 スタッフ7人 計24人	22人 人 スタッフ4人 計26人	合計人数を出しにくいので明記していません
実施場所	岐阜県中津川市蛭川の山林			

第7回森〇（もりまる）～森をまるっと楽しもう！～

MORI・IKU

〒437-0202 静岡県周智郡森町亀久保 351

1. 活動の概要

目的 森林・林業の普及啓

子どももおとなも楽しめる森林イベントとして、森の楽しさや木のぬくもりに触れることで、自分の生活と地域の森との関りを考えるきっかけをつくり、暮らしと森をつなげるためのワークショップや展示を行った。

内容 森林環境教育プログラム LEAF 体験 / ツリークライミング体験 / 木工ワークショップ / 木のジャングルジムくむんだー® / クイズラリー / FSC® 森林認証のPR / 木目スタンプでオリジナルトートバッグづくり / 森のくじびきドローイング・過去作品の展示 / チェンソーアートデモンストラーション / マルシェねんりん市

2. 活動の成果

展示パネルを作成して、地域の森林についての情報発信ができた。また、外部スタッフを増やすことができたため、受付や参加者の補助が充実し、ワークショップの質が向上した。高校生や大学生のスタッフが増え、若者が森林の普及啓発を行う機会をつくることができた。マルシェを同時開催することで森林に興味のない人が森林公園に足を運ぶ機会となった。

来年度も質の高いワークショップや興味を惹く企画を用意して、森と街をつないでいく。

3. 参加者の声

- ・質の高いイベントなので、継続してほしい。
- ・来年も参加したい。
- ・何でもない落ち葉で楽しむことができた。（森林環境教育プログラム LEAF 参加者）

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月12日	11月12日～19日	計	備考
事業量 又は 事業内容		第7回森〇 ・ワークショップ ・チェンソーアートデモンストラーション ・マルシェねんりん市	森のくじびきドローイング展示		
参加者数	県内	700人	150人	850人	
	県外	人	人	人	
	計	700人	150人	850人	
実施場所		静岡県 浜松市浜名区尾野 静岡県立森林公園			

街中公園でのツリークライミング体験を通じて 森と木が好きになるプロジェクト

公益社団法人 静岡県林業会議所

〒420-0861 静岡市葵区追手町 9-6 静岡県庁西館 9 階

1. 活動の概要

都市部の方に木に親しんでもらえるよう、市街地の身近な公園等を会場に県内3ヵ所で実施した。ツリークライミングは、専用の装具を使用して木に登り、自然と木との一体感を味わうアクティビティで、講師はインストラクターの資格を持つ林業家が務めた。50名の親子が参加し、空中散歩と樹上からの景色を満喫した。

安全に開催できるよう、事前に現地の下見や枯枝の勢定等を行い、また当日も体験樹木の周囲を囲い、一般の見学者の方々の安全にも配慮した。

2. 活動の成果

- ・林業家が講師を務めたことで、参加者は木や山の仕事について聞く事ができ、手際よく木に登る林業家を間近に見る機会にもなった。
- ・身近な公園での開催は、都市部の親子に森や木への理解を深めてもらうきっかけとなった。
- ・このツリークライミングは人気が高く、参加者は今回も定員いっぱいとなった。今後も森林に興味を持ってもらえるよう、気軽に参加できるイベントとして安全面に配慮しながら定期的に開催していきたい。

3. 参加者の声

- ・「木を伐る人が仕事で木に登ることもあるとは思わなかった。」と山の仕事に興味を示した。
- ・ロープ1本でどうして木に登れるのか分からないけど、とにかく上ることができて驚いた。
- ・木の高いところへ登れば登るほど達成感もあり、景色も最高だった。
- ・そんなに太い枝ではなかったけれど、安心して登れた。木が丈夫なことが分かった。
- ・講師の方が合間にしてくれる山の話が新鮮だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月8日	4月13日	5月18日	計	備考
事業内容		ツリークライミング体験会	ツリークライミング体験会	ツリークライミング体験会		
参加者数	県内	20人	20人	10人	50人	
	県外	人	人	人	人	
	計	20人	20人	10人	50人	
実施場所		富士市中央公園	静岡市駿府城公園	浜松市 県森林・林業研究C		

小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会

〒456-0015 名古屋市熱田区高蔵町7-11 シャトー高蔵305

1. 活動の概要

次世代層に対する環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、身近な自然と人と暮らしとの係わりを、体験を通して理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

2. 活動の成果

次世代を担う子どもたちに、自然林と人工林の違いを、五感を通して感じることで森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さと人と森の繋がりを伝えることができた。

今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

3. 参加者の声

- ・山の果たす役割について知ることが出来た。
- ・森の楽しみの他、間伐などの山や森を守っていく必要性を教えてもらった。
- ・地元の山や森を大切に守っていききたい。
- ・鋸での間伐は大変だった。
- ・鋸で切ったヒノキがいい匂いだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	10月6日	10月11日	5月6日	5月23日	6月6日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	事前研修	大井小 森林体験	神坂小 森林体験	事前研修	山岡小 森林体験	武並小 森林体験			
参加者数	県内	-人	50人	15人	-人	15人	21人	109人	
	県外	-人	-人	-人	-人	-人	-人	-人	
	計	-人	50人	15人	-人	15人	21人	109人	
実施場所	岐阜県 中津川市 (根の上高原)								

ちい森キッズ・ちい森ベビー・畑であそぼ！・フィールドの環境整備

社会福祉法人 森の風学舎

〒510-1251 三重県三重郡菰野町千草 1622

1. 活動の概要

ちい森キッズ（2歳児）・ちい森ベビー（1歳児）では季節に合ったフィールドに出向き、四季折々の自然からの恵みをいただきながら、自然の中で過ごす心地よさを親子で身体いっぱい感じることでできる場の提供。

畑であそぼ！では、畑を中心とするフィールドを開放し、季節に応じた作物を育てたり恵みを喜ぶことで、土に触れる機会を増やし、自然の中で過ごす心地よさを感じることでできる場の提供。

森の整備では、この事業のフィールドとなる里山を、園児・卒園生またその保護者と共に、持続可能な森を目指し、草を刈り木を切り薪を作るなどの森林整備を行う。

2. 活動の成果

生き物などとの初めての出会い、土に触れる経験、日常の生活にはない自然の中に身を置くことで、新しい発見があったり、心も身体も解放され、親子で心地よい時間を過ごすことができた。この場を共有することで、参加者同士の交流が生まれ仲間の輪が広がるきっかけとなった。

また自分たちの手で森の整備をすることで、森を身近に感じられるとともに、環境保全への理解を深めるきっかけとなった。自然の流れに心を寄せることで、自然にとってどうしたらいいのかを考えるきっかけをもらい、人間主体ではない自然とのかかわりを知るきっかけをもらうことができた。整備で伐採した木を薪にし、冬場に暖をとったり野外での料理に使うことで、森と私たちの生活が繋がっていることを体感することができた。

3. 参加者の声

- ・様々なことから季節を感じ自然の中で過ごす時間がとても心地よかった。
- ・土に触れたり虫と出会ったり日常にはない経験を親子で過ごせてよかった。
- ・森の中に入るだけでとても心地よくこの場にいられることが幸せだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月	6月	フィールド整備	森の整備	計
事業量 又は 事業内容	5回	14回	14回	13回	4回	7回	15回	4回	8回	5回	2回	2回	93回
参加者数	県内	36人	88人	83人	95人	23人	34人	91人	28人	69人	47人	100人程	
実施場所	三重県三重郡菰野町												

三重県内における「森と自然を活用した保育・幼児教育」の 情報発信・ネットワークづくり事業

学校法人高田学苑 高田短期大学
〒514-0115 三重県津市一身田豊野195

1. 活動の概要

三重県内における「森と自然を活用した保育・幼児教育」（以下、自然保育）の社会化に向けて、三重県関係部署・関係団体とともに先駆的な取組を行う自治体・指導者等が参集し、三重県における自然保育の推進に向けたネットワークづくりとして「みえ自然保育協議会」を設立。そのことに伴い、先進自治体・先進園の事例調査・発信（事業1）、先進事例視察・現地研修会（事業2）、実践団体交流会（事業3）、その他の事業を多様な普及啓発を行うことを目的に実施した。

事業1においては、県内保育施設における保育環境としての自然を活かした保育の実態調査を実施。その調査結果等から抽出した9保育施設に保育実践事例調査を実施。事業2では先進的取組を行う自治体の協力を得て2保育施設にて保育活動の視察と研修会を開催。事業3では、「みえの自然保育交流会」と称し、県内の自然保育に取り組む自治体・園、その指導・協力を行える森林・林業関係者、自然体験・野外教育系関係者、大学・教育機関関係者が一堂に会し、新たな取組みを深める連携・協働を促すことを目的に開催。

2. 活動の成果

全般的には各事業とも自然保育（森と自然を活用した保育・幼児教育）への理解と推進のため、効果ある取組みであったと考える。事業1、事業2においては現地に赴き保育のようすを捉え園関係者から保育の意図や考えを伺うことで得られたことは多く、訪問者各々の次のアクションに繋がるものとなった。園においても園外の者との対話により自園の保育への新たな気づきがあったとのことだった。現地での子どもの姿、保育活動を踏まえて研修を行うスタイルの有効性を参加者の反応から大いに感じる事ができたため継続した取組みを考えたい。各園の調査報告資料を作成し発信・共有を行ったが、以後、三重県内における「自然」を視点とした保育のありようについての理解や対話に繋げることができると考える。事業3では、三重県主催の「森林教育シンポジウム」実施後に同会場での開催ができたことで、相乗効果もあり想像以上に多くの方々に参加して頂き交流をすることができた貴重な場となった。参加者から今回の交流会の意義や重要性について様々な感想やフィードバックを頂くことができた。自然保育の質を深めることと同時に、興味関心ある方々がゆるやかに繋がれるネットワークづくりに貢献できる取組みも、協議会として意義深いものであるという認識ができた交流会になった。その後、協議会の理事・会員による意見交換会も実施。

3. 参加者の声

事業2：現地研修会より

- ・自然保育の様子を見ていると、どの場面にも幼児期までに育ってほしい『10の姿』を感じ取る事ができた。
- ・これから保育士になるにあたり、今回の見学をさせて頂けたことでビジョンが明確になった。学生セミナーで、このような視察研修があれば良いのにと感じた。
- ・子どもは自然を見る目を持っている。いずれ大人になって自然の中で遊んだり、活動したりしたことが生きてくるときが来ると思う。
- ・自分で発見したことは、見せたい！と思える。自然の中って本当に豊か。自然の中へ出かけることで、子どもたちは活性化している。

事業3：みえの自然保育交流会

- ・自然保育に対する期待や関心の大きさを窺うことができた。
- ・三重県の中でもたくさんの子どもの携わる施設が自然保育に取り組んでいることがわかり、俄然やる気がわいてきた。
- ・交流会は本当に情報共有の場になっていたため、物凄く価値のある印象を受けた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		R5.9月～R6.6月	R5.12月20日 R6.2月14日	R6.2月3日 R6.5月26日	計	備考
事業量 又は 事業内容		先進自治体・先進園の事例調査・発信（事業1） 保育施設9園訪問調査	先進事例視察・現地研修会（事業2） 保育施設2園	実践団体交流会（事業3） みえの自然保育交流会（R6.2.3） 意見交換会（R6.5.26）		
参加者数	県内 県外 計	25人 0人 25人	33人 0人 33人	70人 5人 75人	128人 5人 133人	
実施場所		三重県 菰野町・四日市市・ 亀山市・津市・松 阪市・伊勢市	三重県 いなべ市 大台町	三重県 津市 菰野町		

地域産木材利用促進啓発事業

特定非営利活動法人 京都森林・木材塾

〒618-0091 京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

1. 活動の概要

森林・林業・木材産業の再生を図るため、積極的な木材利用が求められている。そのための啓発事業を実施し、HPで発信。SDGsの達成に向け活動した。

2. 活動の成果

① HP 掲示板で最新情報を発信 <毎月>

設立以来、活動の柱はHP 掲示板による発信。最新情報を掲載しアクセス数は年々増加。行政等から高く評価されており、学校関係、マスコミ等からの問い合わせが多い。

② 現地見学・学習会実施（京都府立植物園） <11月>

わが国を代表する植物園が開園100周年を迎えることから、名誉園長ガイドにより「生きた植物の博物館」を見学・学習。植物には固有の物語があることを知り感動した。

③ 京都環境フェスティバル2024に出展 <2月>

コロナの関係で4年ぶりに出展。木製の折り鶴、能面、オルゴールを展示し、「森林や環境に関するアンケート」を実施。アンケート結果を行政等と共有し有効に活用したい。

④ 講演会開催（京都府庁）…講師：京都府林業振興課長、京都大学名誉教授 <2月>

- ・府林業の現状と対策について具体的数字で説明。非常に分かりやすく勉強になった。
- ・森林と人との関りについて解説。森林の特長を生かした活用が大切であることを学んだ。

3. 参加者の声

毎月発信のHP 掲示板は、森林・木材に関するあらゆる情報を提供し、非常に喜ばれている。講演会、見学会、環境フェス等の実施報告書は多くの人が閲覧している。

実績報告とりまとめ表

実施時期		毎月	11月	2月	2月	備考
事業内容	HP 掲示板発信	○				
	見学・学習会		○			
	フェスティバル			○		
	講演会				○	
参加者数	府内	毎月2万人閲覧	16名	会場 1万人	25名	
	府外		2名		4名	
計	18名		29名			
実施場所		本塾事務所	府立植物園	パルスプラザ	京都府庁	

京都嵯峨野 竹林景観の再生から繋ぐ循環的な仕組みづくりの構築

特定非営利活動法人ひとともしデザイン研究所
〒604-0801 京都市中京区鍵屋町66番地3F-2

1. 活動の概要

京都嵯峨嵐山地域は古くから、風光明媚で知られ、アカマツの里山林から麓の竹林、また嵯峨野の地においては稲穂たなびく風景として歴史的風土特別保存地区に指定されている全国でも稀な山から里の風景が美しい場所である。しかし、近年、生活環境の変化や山林農地を維持管理する担い手の不足などによって、アカマツ林は常緑樹が暗く生い茂り、枯死木や倒木が目立つ様になり、竹林は一部の観光地の景観林以外は枯竹、倒竹で荒れた放置竹林が大半を占め、農地では後継者不足が深刻化し放棄耕作地が増加している。当団体は数年前からこの地で環境再生保全に取り組んでいる。

本事業ではその一環として、

嵯峨野の放置竹林にて古竹を伐採し、環境景観保全の整備を進めると共に、伐採した竹をチップ化し林床改善や農地で肥料化するといった保全活動で発生する伐採竹を利活用して循環的な環境保全が維持される仕組みの構築を目指して活動し、また保全活動の課題を広く発信するため、日常や旅先でも身近に使える「箸」を伐採竹で作成し、「竹箸」の活用を京都市のホテルに働きかけ、使用を進めることで、放置竹林保全の課題を発信し、普及啓発を促進する事例になることを目的として事業を行った。

2. 活動の成果

放置竹林の保全活動を実施。(古竹、枯損竹を伐採集積し、林床の改善、景観林として適正な開空率を維持。等) また保全活動で発生した伐採竹を使用し、「竹箸」を作成。地域のホテルに働きかけ、「竹箸」使用を進め、地域の竹林保全活動の課題を普及啓発し、伐採竹を利活用することで放置竹林対策のモデルケースとしての実績を得た。

また今後も同様に成功事例の実績を積み重ね保全活動の拡がりを目指している。

3. 参加者の声

「毎年竹林整備の体験をし、更に美しくなっていく竹林をみたい」といった声が聞かれた。

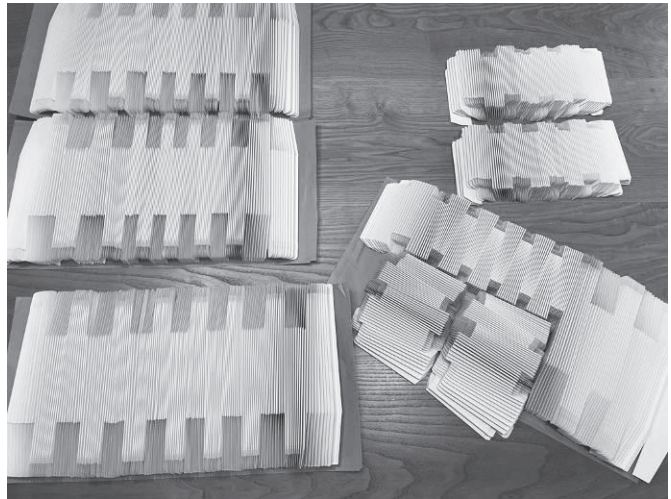
実績報告とりまとめ表

実施時期		2023年 9月～12月	2024年 1月～5月	計	備考
事業量 又は 事業内容		竹箸の材料を得る ための環境整備	宿泊施設と連携を 深めるための竹 箸サンプル作成 + 強度デザイン検証		
参加者数	県内	26人	15人	41人	
	県外	0人	人	人	
	計	26人	15人	41人	
実施場所	竹林整備：京都府 京都市 嵯峨嵐山の竹林 竹箸作成：協力団体事務所 及び 当団体事務所				

竹林整備



竹箸・箸箱



特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」

特定非営利活動法人自然と緑

〒540-0006 大阪府中央区法円坂 1-1-35

1. 活動の概要

優れた指導者から自然について学び、生態系の仕組みと働きを理解し、環境教育・環境保全活動家の育成を図る場として自然大学を開催する。令和5年度は室内講義7回と野外実習8回を実施した。

2. 活動の成果

受講生は自然大学で、森林、気候、土壌、植物、動物、淡水、海水等、自然を構成するものとそれらの組み合わせたシステムについて、またそのシステムを壊し続けてきたのが人間の活動であったことを学んだ。今後はこの学びを基に人間と自然の好ましいあり方を考え、見つめ直しってもらうことを期待したい。

自然大学を修了した36名のうち15名は、指導者の育成を目的としたステップアップ講座(1年間)に進み、自然大学のリーダー、自然と緑の各種事業の運営・指導者となるべく更なる学習・体験を続けている。

また、自然と緑が取り組んでいる馬ヶ瀬山での森林整備の活動等にも多くの受講生が参加している。

3. 参加者の声

- ・広範囲にわたる資料、データをもとにした講義の内容に驚いた。初めて見聞きすることも多く、学びが多く、わくわくしている。
- ・大阪近郊でブナ林を見る事が出来る数少ない金剛山で、改めて冷温帯（夏緑林）という存在を確認できた。また温暖化によるブナ林生息域の危機という事も実感できた。
- ・間伐の体験はとても良かった。木の伐り方の基本を教わり、他のメンバーと協力して成功させることができた。何よりも安全に作業することの大切さを学んだ。また間伐がどうしても必要なのかを理解することが出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	内容	参加者数	実施場所
2023年7月30日	室内講義 土の生態学	受講生 29名 他 21名 計 50名	大阪市 大阪市教育会館
2023年8月6日	室内講義 水域生態系	受講生 24名 他 17名 計 41名	大阪市 大阪市教育会館
2023年9月10日	野外実習 馬ヶ瀬山間伐	受講生 23名 他 13名 計 36名	滋賀県大津市 馬ヶ瀬山国有林
2023年10月1日	野外実習 夏緑林の生態系	受講生 21名 他 13名 計 34名	大阪府千早赤阪村 奈良県御所市 金剛山
2023年10月14日～15日	野外実習 京大芦生研究林	受講生 25名 他 7名 計 32名	京都府南丹市 京大芦生研究林
2023年11月5日	室内講義 大気と気候	受講生 24名 他 19名 計 43名	大阪市 大阪市教育会館
2023年11月12日	野外実習 琵琶湖の生態	受講生 24名 他 14名 計 38名	滋賀県草津市 琵琶湖博物館
2023年12月10日	室内講義 森林動物・熱帯非木材林産物	受講生 24名 他 21名 計 45名	大阪市 大阪市教育会館
2024年1月28日	野外実習 冬鳥の観察	受講生 23名 他 16名 計 39名	兵庫県伊丹市 昆陽池公園
2024年3月3日	室内講義 里山について	受講生 24名 他 23名 計 47名	大阪市 大阪市教育会館
2024年4月7日	室内講義 地球環境と人間	受講生 28名 他 26名 計 54名	大阪市 大阪市教育会館
2024年4月14日	室内講義 森林の生態	受講生 26名 他 18名 計 44名	大阪市 大阪市教育会館
2024年4月28日	野外実習 海の生態と環境	受講生 29名 他 14名 計 43名	大阪府岬町 長崎海岸
2024年5月12日	野外実習 照葉樹林とシカの相互作用	受講生 26名 他 19名 計 45名	奈良県奈良市 奈良公園・春日山
2024年6月9日	野外実習 夏緑林の生態系	受講生 10名 他 17名 計 27名	大阪府千早赤阪村 奈良県御所市 金剛山
計	—	受講生 360名 他 258名 計 618名	—

注) 参加者数の内、「他」は講師、リーダー、事務局員等

森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる 「木づかい社会」 定着のための普及啓発活動

NPO 法人サウンドウッズ

〒 669-3631 兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1. 活動の概要

サウンドウッズでは、森づくりに市民参加を促す仕掛けの一つとして、「森」と「まち」をつなぐ「木材コーディネーター」の人材育成に取り組んでいる。森林と暮らしをつなげる情報発信手段として、動画配信サービス youtube に「サウンドウッズチャンネル」を立ち上げた。動画の活用により、森とまちの関係をより理解しやすい関係を生み出し、地域の森と暮らしの距離を縮める成果効果を目指す。

2. 活動の成果

森とまちの間を木材の利用を通して仲立ちをする、全国で活躍する木材コーディネーターの活動を、具体的かつ分かりやすく伝えるコンテンツ制作に取り組んだ結果、全国各地から多様な関心層からのアクセスがあり、木材コーディネーターの認知を広めるとともに、木材コーディネーターを目指す森づくりを支援する木材利用の実例を広くアピールできた。

3. 参加者の声

- ・身近に木材コーディネーターが見つければ、課題解決につながる可能性を感じた。
- ・人工林の次世代の継承には、山元へ利益を還元し課題があることが、わかりやすく説明いただけた。具体的な解決策を模索する、各所の議論に耳を傾けたいと考えるようになった。
- ・森林環境税や、カーボンオフセット、Jクレジットなど、森に関わる様々な制度や仕組みが生まれている中で、生産される木材の付加価値化に正面から関わる重要性について話が聞けたことがよかった。
- ・近隣の林業地では、森林所有者の高齢化が課題と聞きます。若い世代の方に、関心を持ってもらえる番組や、対面開催と組み合わせた企画などがあれば、より参加者が増えそうです。
- ・オンライン開催は、対面開催よりも受講者の負担が少なく済みますので助かりますが、開催前後の空いた時間で講師にご挨拶がきたり、受講者間での面識が作れないのが残念です。

4. 参加状況 (人)

(アーカイブ動画の閲覧数除く)

	A1 説明会	A2 公開問答	A3 活動紹介	B1・B2 WC インタビュー	B3 WC 会議 2024	合計
現地参加	－	－	－	アーカイブ 動画公開	30	30
オンライン参加	24	20	47		15	106
参加人数合計	24	20	47	－	45	135

以上

森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ ～次世代インタープリター育成と森林 ESD の推進に向けて～

奈良教育大学附属中学校裏山クラブ
〒 630-8113 奈良市法蓮町 2058-2

1. 活動の概要

本事業の目的は、参加者を森林生態系インタープリターとして育成し、自然の重要性や美しさを他の参加者に伝える活動を推進することです。ユネスコエコパークの大台ヶ原を訪れ、野生動物が森林に与える影響や環境保全の難しさを学ぶ機会を提供します。環境省や大学教員と連携し、山村地域の森林組合等と連携し間伐体験やワークショップを行います。「大台ヶ原・黒滝村 ESD ワークショップ」を中学生や教員・大学生向けに実施し、シカの頭骨標本作製や自然体験の機会を提供します。中学生はインタープリターとして育成され、森林景観の維持管理、シイタケ栽培、植樹などを学び、地域の森林環境教育のリーダーとして活躍する知識とスキルを身に付けます。また、幼児向けの森林体験を企画運営し、森林の楽しさを伝える活動も行います。

2. 活動の成果

本事業は多岐にわたる成果を上げました。インタープリターの育成により、高校生から中学生、園児や保護者、教員に自然の大切さが広まり、次の事業にも経験が活かせる仕組みが整いました。裏山クラブでは ESD 教育を推進し、大台ヶ原や林業地、本校裏山での活動を通じて、生徒たちが自然保全の重要性を学びました。また、教員への研修により、自然との関わりを教育に活かす手段が習得され、これが子どもたちにも波及しました。本事業は企業のヒアリングや論文報告を経て教育実践に活用され、今年度は奈良県の緑の少年団に加入し活動を活性化させる計画が進行中です。幅広い層への普及啓発活動が強化される見込みですが、人員不足や働き方の制約から継続が難しく、事業への補助を募り継続を目指しています。

3. 参加者の声

- ・園児や児童を楽しませることが出来て、大変だったけれどもなんとか楽しませられたという達成感が合った。また、筍を取る説明のときに、すごいと言ってもらえたのもうれしかった。
- ・年少、年中の息子たちも、親とは違う年上方々とお話しながら活動できるのがすごく嬉しかったようです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月24日～ 8月25日	12月28日～ 6月22日	3月20日、 5月3日	計	備考
事業量 又は 事業内容	16事業	大台ヶ原ガイドツアー関連（中学生対象）	大台ヶ原ガイドツアー関連（教員対象）	間伐材・裏山の材を利用したワークショップ		
参加者数	県内	92人	14人	190人	467人	
	県外	人	人			
	計	92人	14人	190人	467人	
実施場所		奈良県奈良市、上北山村、黒滝村				

第3回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取

日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会
〒680-0947 鳥取県鳥取市湖山町西2丁目413番地

1. 活動の概要

- ・ 林業技術及び安全作業意識の向上並びに山林や林業の果たしている役割を広く周知し、林業の社会的地位の向上、新規林業就業者の拡大等を目的として「第3回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取」を開催する。

2. 活動の成果

- ・ 今大会参加者は91名（過去最多）で、世界大会の出場選手を始め全国から精鋭が集う大会となり、企業の協賛も計画以上に獲得することができた。
- ・ 今大会から「アカデミー・ジュニアクラス」を新設したところ、全国の林業大学校や高等学校からの参加もあり、参加選手の裾野拡大に繋がった。
- ・ 多くの来場者（過去最多）や大会の様子が地元メディアに多く取り上げられたことを通じて、林業のイメージを一新するスマートでスタイリッシュな林業の新たな魅力を発信することが出来た。
- ・ 会場には多くのブースが出展され、鳥取県の特産品やジビエの食材を使った様々な食品を県内外の方にPRすることが出来た。
- ・ 今後、大会定着と参加者の増加、情報発信の強化等を通じて、ヨーロッパを中心に開催されている「世界伐木チャンピオンシップ」につながるような大会にしていきたい。

3. 参加者の声

- ・ この規模の大会を開催できる鳥取県に感謝、うらやましいです。これからも続けてください。
- ・ 選手としては思うような結果は得られませんでした。大舞台で競技ができ今後も継続していく意欲につながりました。
- ・ 飲食は、美味しいものが沢山あり大満足でした。景色も良く、空気が美味しく良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月28日	10月29日	計	備考
事業量 又は 事業内容	日本伐木 チャンピ オンシッ プ in 鳥取	○競技種目 ・ 伐倒 ・ ソーチェーン着脱 ・ 丸太合せ輪切り ・ 接地丸太輪切り	○競技種目 ・ 伐倒 ・ ソーチェーン着脱 ・ 丸太合せ輪切り ・ 接地丸太輪切り	—	
参加選手		○参加選手計：91名 ・ プロフェッショナル クラス 39名、 ・ ビギナークラス 22名、 ・ アカデミー・ジュニ アクラス 10校 30名	○参加選手計：91名 ・ プロフェッショナル クラス 39名、 ・ ビギナークラス 22名、 ・ アカデミー・ジュニ アクラス 10校 30名	91名	
来場者数		700人	1100人	1800人	
実施場所	鳥取県西伯郡大山町町赤松上楨原「大山楨原駐車場」				

森林を活用した自然体験活動

特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

1. 活動の概要

弊団体が運営する森のようちえん『お山の教室』に通う子どもたちをはじめそれ以外の島の子
どもたちも対象として、自然体験や自然観察ができるように、森林を使った自然体験環境教育及
び自然観察会のイベントを行う。『お山の教室』では、毎日どんな日（雨や雪）でも自然の中で過
ごすことで、子どもたちは自然に触れ様々な体験を経験することを行う。

2. 活動の成果

毎日自然の中で過ごすことで四季の変化を体感でき、既存のおもちゃがない中で様々な自然物
で遊び、自然に親しむことができている。1年を通して季節ごとの山のいろいろな実を自分たちで
作った道具で採取し食べ、その実で草木染などの活動も行なった。アウトドアクッキングでは薪
拾いからはじめ、火を起こすためには何が必要で、どのような段取りで行うかなど学び、自然を
通して様々な経験ができた。また、竹の体験や植林体験では、森林が自分たちの生活に欠かせな
いものであることを知り、持続可能な森林環境の在り方を学んでもらうこともできた。

3. 参加者の声

- ・自然の中でいるせいか体力がついてきたのか、あまり風邪をひかなくなった。
- ・お山の教室の活動で様々な知識を学んでくるので、クマバチの見分け方を教えてくれたり、スズ
メバチがでたときにどうするか？雷が鳴りだしたらどうするか？そういった危険なときの対策も
教えてくれてびっくりしました。
- ・雲が出てきたら「雨が降るかな？」寒いときには「太陽があたってあっちが温かいよ」と子ども
が体感したことがつながっていると感じます。
- ・身近な森林を守る重要性を感じました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2023年7月～ 2024年5月	2024年1月 27日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森のようちえん 『お山の教室』 211回	森の自然体験会		
参加者数	県内	2,724人	16人	2,740人	
	県外	人	人	人	
	計	2,724人	人	2,740人	
実施場所		島根県 隠岐郡 海士町 金光寺山			

保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進

(公社) 島根県緑化推進委員会

〒690-0886 島根県松江市母衣町 55 番地

島根県林業会館4階

1. 活動の概要

保育園・幼稚園等における森林環境教育を進めるため、14回の出前講座を開催した。

2. 活動の成果

各園とNPO団体が実施内容等について事前に協議を行うことで、各園の要望や状況を踏まえた出前講座となった。

園の周りにある自然素材を生かした講座や生き物・植物の話など、園児たちの興味や理解を深める内容・手法による講座となり大変評価が高かった。また、講座を通じて園のスタッフが学ぶ機会になるとともに、講座の話題が家庭で話された園もあり波及効果が見られた。

3. 参加者の声

- ・4歳児にもわかりやすい説明で、楽しみながら森のことについて学んできた。
- ・写真の資料やスライドを使って説明をしてもらい、園児たちが話をよく聞き、楽しみながら参加できた。
- ・自然の仕組みや生態について、わかりやすい言葉や写真で説明してもらい、子供たちの興味関心が広がった。
- ・後日、覚えた木の名前を言いながら、山の散歩時に探してみたり、家庭において鉛筆削りの話題が出たなど、多くの感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	出前講座	11月8日～ 12月19日	14回	
参加者数	県内	235人	235人	
	県外 計	人 235人	人 235人	
実施場所		県内7市町 (出雲市、雲南市、大田市、邑南町、浜田市、益田市、西ノ島町)		

里山保全の普及啓発事業

NPO 法人^{しとり}倭文の郷

〒709-4623 岡山県津山市桑下 29-1

1. 活動の概要

里山では若年者が極端に減少し少子高齢化が進んでいる。森林との関りが極端に薄れており、そこには有害鳥獣が棲息し、周辺の田畑に被害を与えている。令和6年6月に第74回全国植樹祭が岡山県で開催された。当組織もイベントや応援事業に積極的に参加して微力ながら森林整備の必要性をPRした。

2. 活動の成果

森林が有する恩恵について、体験を中心として実施した。定員20人月一回のイベントを企画して、県内外都市部から174名を迎えた。親子で募集した「昆虫探検隊」では樹林に棲むカブトムシ、クワガタ等の夜活動する生物に直接接触することができた。「秋の虫の音鑑賞会」はイベント「キノコ鑑定会」は、海外留学生や研究者ら24人が参加し、採取したキノコの写真をパネルにして地域が主催する文化祭に展示した。小学生対象の「ツリークライミング」も好評であった。一方、「杉玉づくり」に県内外から定員超過の参加者があった。冬、春の野鳥観察会では、冬鳥と漂鳥、留鳥、ノスリなど貴重種が継続して観察できた。5月に飛来し7月に巣立つ絶滅危惧種ブッポウソウの保護活動では、令和5年7月2か所の巣箱から4羽（推定）の巣立を観察した。令和6年4月、2か所の巣箱に内蔵カメラを取り付けて鳥の生態行動を観察している。他方2か所の無カメラ巣箱で営巣活動を確認している。SDGsの活動が推奨されるなか、里山を通じて豊かな地域社会づくりの必要性を共有した。

3. 参加者の声

地域行事の文化祭に「キノコ鑑定会写真パネル」を展示、ナラ枯跡に発生する猛毒エノキタケを見て驚愕。また、「虫の音鑑賞会」で使用したマツムシやクツワムシ実物を児童保育施設や老人ホームで展示、里山の生物多様性を再認識した。身近な苔を利用した「苔玉づくり」は、女性から毎年企画してほしい旨の意見が多く寄せられた。

実績報告とりまとめ表
別表

実施時期	7/23、 9/16、 10/10	1/16、 3/13、 6/12	11/26、 3/30	11/3	2/23	5/12	
事業内容	昆虫探検、 虫の音鑑賞 会、きのこ 鑑定会	野鳥観察会 3回	杉玉づくり、 苔玉づくり	ツリークラ イミング	原木キノコ の植菌体験	第74回全国 植樹祭おか やま応援事 業	
参加者数	県内	7、12、24	4、6、20	20、27	22	11	24
	県外			4			
	計	43人	30人	51人	22人	11人	24人
実施場所	岡山県津山市倭文（しとり）地区 一般137人、スタッフ他47人						

デジタル・ファブリケーションを活用した森林環境教育の推進

特定非営利活動法人ひろしま自然学校

〒731-0221 広島県山県郡北広島町今吉田 1197

1. 活動の概要

3Dプリンター、レーザーカッター、CNCルーターなどのデジタル機器を活用し、間伐材等を利用したモノづくり教室を開催することで、間伐材等の有効活用と里山への関心を喚起するとともに、都市と中山間地の交流を促進し関係人口の創出に寄与する。

2. 活動の成果

3Dプリンター、レーザーカッター、CNCルーターなどいくつかのデジタル機器を整備し、それを活用した公開セミナーを開催することで「デジタルファブリケーション」という聞き慣れない言葉の意味や内容について普及していくきっかけができた。

特に、20～30歳代の若い世代の関心度が高く、継続学習の機運が盛り上がりつつある。また、複数回の公開セミナーを通じて、デジタルを活用したモノづくりのソフトプログラムの開発がある程度進んだので、このプログラムを活用したイベントの開催などについても道筋をつけることができた。

今後は、デジタル機器の活用を広めていくため、操作技術講習を開催し人材育成を図ることや、間伐材の有効活用につなげるため地域の製材所の復活などについてプロジェクトを進めていきたい、

3. 参加者の声

「手に技術を持たなくても自分がほしいと思う木工製品をデジタルで作ることができてたいへんうれしい」「デジタル機器そのものの使い方や活用に大変興味があるので、今後指導者向けの使い方講座の開催をしてほしい」など前向きな声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月12日	12月10日	1月21日	2月25日	3月31日	5月4日	5月5日	計	
事業量 又は 事業内容	CNCルーターを使ってみよう	子ども用三角ツールづくり	ランプシェードを作ろう	親子DIYツールセット作り	ワラーチ作り	GW公開イベント	GW公開イベント	7回	
参加者	県内	10人	13人	12人	12人	12人	33人	29人	121人
	県外	人	人	人	人	人	3人	人	3人
	計	10人	13人	12人	12人	12人	39人	29人	124人
実施場所	広島県山県郡北広島町								

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示 5-226

1. 活動の概要

身近な里山をフィールドにした体験型講座として、野外での活動【木登りやロープ渡りなどの森の遊び、きのこの植菌ほか】や小集団での作業【秘密基地づくりや薪割り体験ほか】、五感を使ったゲーム【においをあてようやカモフラージュゲームほか】や季節行事に応じた内容【門松及びクリスマスリースづくりほか】などの体験型且つ道具【斧や鋸、チェーンソー体験ほか】を使った実践的な講座を開催し、次代を担う青少年の育成を目的としています。

2. 活動の成果

今回の講座は、新型コロナウイルスが感染症5類に移行し行動規制が無くなった中での開催となりました。成果として「においをあてよう」や「電柱でござる」などの新しい内容を加え講座を更新できたこと。

次にアンケートから、受講生の評価の平均は「4.82」、保護者の評価の平均が「4.95」と共に高く、9割以上の子ども達に受講後の変化が見られたことを挙げたいと思います。これからの取組として、子ども達に喜ばれ、成長を促すことのできる講座の構築を進めたいと思います。

3. 参加者の声

アンケート（保護者にも実施）から参加者の声として、今後このような講座について「参加させたいので続けてほしい（92%）」及び「機会があれば参加させたい（8%）」と、保護者の回答が100%でした。また、「これからも森の中で遊びたいと思いますか」との受講生への質問に対しての回答が、92%の子ども達が「遊びたい」との回答でした。これらの回答から、本講座が好評で継続して開催してきた意義や目的としている青少年の育成に寄与できているものと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	少年少女里山マイ スター養成講座	令和5年 7月1日～	令和6年 5月31日	6回	講座は令和5年10月（22日）～ 令和6年3月（10日）迄の 6ヵ月間／月1回の6回
参加者数	県内	延べ250人	人	延べ250人	県内；受講生&保護者・兄妹 及び会員の参加延べ人数 県外；自然観察指導員
	県外	1人	人	1人	
	計	251人	人	251人	
実施場所		徳島県徳島市入田町月ノ宮			

まちの縁が輪での住育プロジェクト

ひょうたん島まちなか再生事業

〒770-0847 徳島県徳島市幸町1丁目43番地

1. 活動の概要

今年度は、「まちの縁が輪」が5団体による協働運営方式で1年間継続利用ができるようになった。そこで今年度は下記事業を継続実施した。

- ・昨年ワークショップで作った本棚を建築図書館として、県内の設計事務所から木造住宅に関する本を集め、平日に誰でも木造住宅の雑誌や書籍が閲覧できる運営体制を整備した。
- ・定期的に住まい方の作法である「住育」について、新築、リフォーム予定の家族に、先人の住まいづくりの知恵や地域材の活用の意義についてのミニセミナー講演会（3回）や地域材で住まいづくりを実践した人や市民を交え、住まいの維持管理を目的とした利活用や終活について、ファミリーーターによる交流勉強会（終活3回+9回）を開催した。
- ・昨年度作成した「地域材の生産から供給」のパネルと「先人から学ぶ住まいの知恵」パネルを利用して、12月から令和6年2月までの3ヵ月を「まちに木材の森林をつくる」展を開催し、各週土、日曜日は案内人を常設し来場者には地域材利用の意義について説明をするようにした。

2. 活動の成果

- ・建築図書館では、建築を学ぶ学生が講義の合間や休日に来場して、建築専門書や住宅雑誌を見ながら学習や交流をするようになった。
- ・定期的に実施した交流勉強会では、くんだら塾の講師や建築士の講師によるアドバイスと共に、住宅雑誌等を素材に活発な議論が展開され「住育」の役割と必要性について理解が深まったと考えている。
- ・3ヵ月間実施した「まちに木材の森林をつくる」パネル展では、地球環境の保全と共に住み手の健康に貢献できる地域材の役割についての理解を深め共感して頂いた。

3. 参加者の声

建築士を志している学生は、授業の合間や終了後、さらに帰省時のバス時間待ちなどに利用している。建築図書館が出来て、様々な時間で建築専門書や建築雑誌を閲覧したり、仲間と建築の評価や設計課題について話し合うことができるサードプレイスができたと喜んでいるとの意見が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	月日	月日	月日	計
事業内容	・建築図書館	12月1日～				常時開催
	・パネル展	12月1日～	1月1日～	2月1日～		3ヵ月開催
	・住育交流会	8月14日	9月16日	10月14日		3回開催
	・交流勉強会	7月22日	9月23日	10月21日	11月25日	9回+住育4回開催
	・ミニ講演会	8月26日	12月23日	4月27日		3回開催
参加者数	・建築図書館					延120人
	・パネル展	177人	152人	113人		延442人
	・住育交流会	10人	10人	12人		22人
	・交流勉強会	8人	8人	10人	11人	67人
	・ミニ講演会	10人	11人	10人		31人
実施場所	まちの縁が輪		徳島県徳島市幸町1丁目43番地			

いろいろな生き物と共存する森づくり

特定非営利活動法人山村塾

〒834-1222 福岡県八女市黒木町笠原 9836-1

1. 活動の概要

1991年17号19号の大型台風による風倒木被害は激甚災害に指定され、多くの市民が森づくりへの関心を寄せて、九州各地で広葉樹の森づくりが行われた。当会が森づくり活動を行ってきたフィールド（通称：ケヤキ林）もその一つで、活動30年の成果や意義を振り返り、今後の整備や活動の在り方を考える機会を得た。

ケヤキ林30年の振り返り評価（協力：九州大学朝廣研究室）として、ドローンによる点群データ調査、植生調査、過去30年間の活動資料とりまとめを実施した。

4月6日（土）八女市黒木地域交流センター「ふじの里」にてシンポジウム「いろいろな生き物と共存する森づくり」を実施し、87名の参加を得た。東北大学名誉教授の清和研二氏による基調講演、朝廣和夫氏（九州大学大学院芸術工学研究院教授）、沢畑亨氏（愛林館館長、自由飲酒党総裁）からの事例報告やディスカッションを行った。

2. 活動の成果

- ・地元の流域ネットワーク組織「矢部川をつなぐ会」の共催を得て、有明海沿岸地域から上流域の住民まで広く参加を得ることができた。
- ・森林と市民を結ぶ全国の集い2024「フィールドセッション（6/1-2）」にて総勢46名の参加を受け入れ、ケヤキ林を案内し、参加者と共に議論を行うことができた。
- ・今後、2年目の事業として、ケヤキ林での森づくり活動に関する中長期ビジョンづくりワークショップを行い、継続的なモニタリング評価と管理計画に基づく森林整備活動のモデルづくりを行い、シンポジウムなどで紹介したいと考えている。

3. 参加者の声

- ・人間と林業、山との関係を深く考えさせられた。
- ・広葉樹の根や、土の中のミミズなど新しい視点を得られることができた。
- ・立ち枯れの理由が分からなかったが、菌根菌の話聞いて明確にできた。
- ・今後森をどうしていくべきかについては、なかなか難しい問題であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10/14・15、 21・22	4月6日	計	備考
事業量 又は 事業内容		ドローンによる点群データ調査、植生調査等	シンポジウム開催		
参加者数	県内	19人	85人	104人	
	県外	0人	2人	2人	
	計	19人	87人	106人	
実施場所		福岡県 八女市			

第 28 回九州森林フォーラム in 山江村 ～森林活用の新たな潮流を学ぶ～

NPO 法人九州森林ネットワーク

〒 883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代 2683 番地
諸塚村企画課内

1. 活動の概要

九州の山々とマチを繋ぎ、森林の保全とともに恵みを得ていくためには、林業活動による木材の利用だけではない様々な森との付き合い方を模索することが必要です。近年、九州の山々は台風や豪雨によって度々被災しており、上流域の森林荒廃に流域住民が感心を寄せる機運が高まっています。こうした中、令和 2 年 7 月豪雨で大きな被害が発生した熊本県球磨川流域では、トレイルランチームの被災地支援活動とともにトレイルランの大会が開催されるなど、森と川を舞台にした新たな関係づくりが見られます。

そこで、第 28 回となる九州森林フォーラムでは、近年注目されているトレイルランやマウンテンバイクなどの新たな森林活用を行っている地域の事例から、山村振興や人と森との新たな関係づくりについて、自伐型林業研修林とトレイルランコースを有する熊本県山江村を会場とし、現地見学会及び森林サービス産業に詳しい平野悠一郎氏とプロトレイルランナーである川弘樹氏をお招きし、基調講演をお願いしました。

2. 活動の成果

今回テーマを「森林活用の新たな潮流を学ぶ」と題してフォーラムを開催しました。

新たな森林利用を「森林サービス産業」として、山林や道の所有者・管理者と、それ以外の住民とのライフステージに沿った森林との関わり方を増やし、それを農山村での新たな産業振興として結びつけようとしていることや、トレイルランなど森林を利用する側とそれを受け入れる側との連携など、新たな森林活用について学べる良い機会になりました。

森林が、木材の生産場所としてだけでなく、レジャー場所として注目をされ、それが山間地域の新たな地域振興となる可能性を秘めていることなどを多くの方に周知することができたフォーラムとなりました。

また、フォーラムに参加できなかった方などのために、オンライン（YouTube 配信）での同時配信を行いました。

3. 参加者の声

- ・平野さん、石川さんという専門家の貴重な話を聞け大変勉強になりました（森林サービス業 30 歳代）
- ・私たちは山側だけで林業の再生は出来ないことを知り、マチの方と一緒に山を再生する途を探るべきである。そのための有益なフォーラムでした。ありがとうございました。（林家 60 歳以上）
- ・石川氏のボランティア道路整備、楽しそうですね。参加者にも主催者にも①使命感 ②達成感 ③目に見える利益 を良く提供出来ていると思います。（地域づくり 60 歳以上）
- ・森林の新たな価値となる森林サービス産業は地域おこしや活性化につながる良い手段と改めて思いました。山村地域に住む方々のエネルギーを感じました。（行政 50 歳代）
- ・訪問体感利用という切り口はとても参考になりました。山の行政に関わるものとして、今日のお話を参考にしていきたいと思います。（行政 50 歳代）
- ・トレランや MTB などのレクリエーションが実際どのように行われているか知れて良かった。公的アクセス権など、法的な考え方などこれから色々と活動するときに参考になるので良かった。（一般 40 歳代）
- ・1 日目は実際のフィールドを見学し、活動が見ることが出来良かったです。災害にどう備えるか

技術や知識だけでなく地域や人の関わりをつなげていくか大切だと感じました。(30歳代 建築関連)

- ・政策や仕組みの批判のみではなく、実践者がもっともっと増えていくことを心がけて取り組んでいけたら良いですね。(40歳代 一般)
- ・自伐林家、森林サービス産業についてまだ不案内だったので参加した大変勉強になった。(自伐型林業、森林サービス産業)

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月28日	10月29日	計	備考
事業量 又は 事業内容		現地見学会① 場所：自伐型林業研修林（山江村内） 現地見学会② 場所：参勤交代の道トレイルランコース（山江村内）	フォーラム 「基調講演① 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 平野悠一郎氏」 「基調講演② プロトレイルランナー／信越五岳トレイルランニングレース実行委員長 石川弘樹氏」 「事例発表 3件」 「パネルディスカッション」		
	県内 県外 計 オンライン参加	18人 16人 34人	29人 14人 43人 25件	47人 30人 77人	
実施場所		熊本県 山江村			

日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業 ～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒 892-0816 鹿児島市山下町 9-15

1. 活動の概要

今回の活動地である吹上浜は、約 40kmにも及ぶ日本最長の砂丘で日本三大砂丘の一つである。

約 25kmが松に覆われ、飛砂や防風から住民生活を守り、観光資源としても重要な役割を担ってきたが、近年、マツクイムシやマツケムシにより一部の地域で甚大な被害を受けている。

当会では、このマツ林を皆の手で守り育てていくことの大切さを広く周知し、一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する意義を広く発信するため、国や県、市、林業関係団体と連携して、「吹上浜の白砂青松の再生に向けた森林づくり活動」に取り組んでいる。

3年目となる今回の活動では、夏季の8月に、過年度（令和3年及び4年度）に植えた抵抗性マツの植栽箇所の下刈を実施したのち、新たに隣接する荒廃地を地拵えして12月に新植を行った。

当活動は、令和3年度から稼働したプロジェクトで、5年がかりで5000本の松林を造成することとしている。次年度以降の2年間についても、残りの荒廃地への植樹に加え、既植栽区域の下刈等の保育作業を実施しながら継続的な活動に取り組んでいく。

2. 活動の成果

県内の森林ボランティアが主体となり、国や県、市、林業関係団体等と連携して、公益面かつ産業振興面においても、重要な役割を持つ森林を植栽から保育まで守り育てる活動を継続的に実践していくことで、大きな波及効果が見込まれ、同時に森林ボランティアの活動も対外的に認知度が高まっていくことが期待される。

当日は、地元南さつま市の職員や森林組合、森林管理署や県職員のほか、次世代を担う学生ボランティア、地域の幼少期の子供達など、幅広い年齢層の方々に参加いただいた。年々参加者も増えており手応えも感じている。

3. 参加者の声

- ・職業柄、普段から地元で地域の子供達に森林について色んなことを教えているが、これまで大々的な植樹体験の機会はなかったので、喜んで参加した。子供たちも懸命に穴を掘り、丁寧に土をかけるなど、それぞれ楽しみながら植えていた。子供達の成長とともに、マツの生長も大切に见守っていききたい。
- ・この活動には毎年参加し、夏季には下刈活動にも参加している。荒廃地だった場所が、毎年新植のマツ苗地に変わり、マツ林として少しずつ順調に生長していくのをとても嬉しく感じている。今後も大切に守り育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月23日	12月1日	12月2日	計	備考
事業量 又は 事業内容		下刈活動	準備作業	記念植樹(6本) 植樹1,050本		
参加者数	県内	24人	8人	167人	199人	
	県外	0人	0人	人	人	
	計	24人	8人	167人	199人	
実施場所		鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園に隣接する国有林内				

健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業

特定非営利活動法人もりびと

〒 890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 27-2-510

1. 活動の概要

地域材を利用することが、健全な森のサイクルや地域活性化に繋がっていることより多くの人へ伝え、地域材の利用促進を目的とする。

2. 活動の成果

昨年に引き続き「木材を使う」をテーマに工作体験を主体にし、市民の誰もが循環型の森づくりに取り組める内容としました、多くの方々に参加いただき現在の森が求めていることが伝わったのではないかと思います。

この取り組みは継続することに意味があると思います、少しでも多くの方に広げていけるように取り組んでいきたいと考えています。来年は更に「木づかい」が広まるように木工体験軸に企画したいと思います。

3. 参加者の声

感想:・このような学習活動に参加できて大変勉強になりました。

・木工体験がとても楽しかった。持ち帰って大事に使います。

・切ったりするのが少し大変だったが完成して嬉しかった。

学習活動では木を使うことで森が元気になる事や身近な取り組みが森のサイクルに繋がることを学んでいただきました。

木工体験ではみなさん切ったり削ったりを試行錯誤しながら取り組んでいただき、完成品は各自持ち帰っていただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	木を使うことで地球温暖化防止につながることを学ぶ。	8月5日	23名	
	ウッドデッキ/手すりづくり前編 地域材を使うことで地域活性と雇用創出につながることを学ぶ。	8月26日	21名	
	ウッドデッキ/手すりづくり後編 木を使うことで生物多様性保持に貢献できることを学ぶ。	9月17日	26名	
	ミニチュアログハウスづくり前編 森のサイクルで洪水や土砂災害を防止できることを学ぶ。	10月22日	18名	
	ミニチュアログハウスづくり後編 木を使うことでさまざまな効果を学ぶ。	11月19日	19名	
参加者数	カッティングボードづくり前編 木を使うことで木のぬくもりを学ぶ。	12月17日	28名	
	カッティングボードづくり後編			
	県内	130人	130人	
	県外	5人	5人	
	計	135人	135人	
実施場所		鹿児島県日置郡伊集院町土橋		

調 査 研 究

報告書「人工林管理における OECM 成立条件解明のための調査研究」要旨

本調査は、近年にわかに注目されることになった生物多様性の保全・再生のための国際的な行動目標「ネイチャーポジティブ」における中心的施策としての OECM (other effective conservation measures) の拡大施策 (30by30) について、その日本版の対応制度である「自然共生サイト」の認定サイトを対象に、その現状と課題を把握することを最終的な目的とする。本調査では、このうち、認定自然共生サイトにおける森林、特に人工林に絞って、人工林における施業方法、管理方針等について、現時点でどの程度の把握が可能かについて、見極めることを当面の目的とする。

目次を示せば、I. OECM の世界的な位置づけ、II. 日本における OECM の位置づけ、III. 日本での OECM の検討の過程、IV. 林野庁での森林における生物多様性保全の検討、V. 自然共生サイトの実態、VI. 人工林における OECM の可能性、となっている。

このうち、I. から IV. までは、既に公開されている情報等の整理となるが、研究代表者が、この間、日本における OECM 制度のあり方、そして具体的な自然共生サイト制度、さらにその制度の法制度化、また法制度化を受けた林野庁の方針（「指針」の検討）についての、環境省、林野庁のすべての関係の検討会、小委員会等に委員として参画してきた経験をもとに、概括的な整理を行った。ここで二点、内容について要旨を示せば、まず日本の独自の「自然共生サイト」制度は、日本の保護地域制度、特に自然公園制度（地域制自然公園制度）に大きく影響されて、保護地域内、保護地域外にかかわらず、民間の取り組みとして、管理の主目的の如何に関わらず、生物多様性の保全が図られている取り組みについて、区画を限ったサイトについて認定が行われていることである。この特殊性と日本におけるその有用性についてここでは述べている。

もう一点は、林野庁の検討会で検討され、2024年3月付けで『森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針（中間とりまとめ）』の重要性である。この報告書の「V. 自然共生サイトの実態」でも明らかにされているように、自然共生サイトの認定に当たっては、サイト内の森林について、生物多様性の保全上有効な施業方法、管理の方針等の明確な基準はほぼ示されていない。その穴を埋めるべく作られたのが本「指針」と言える。ただし、検討からわかるように、現状は「明確な基準」が示されたとは言い難く、今後さらに突っ込んだ具体的な検討と基準化のための作業が欠かせないと思われる。

次に「V. 自然共生サイトの実態」だが、この章は2つの異なった性格の節に分かれる。第1節は、環境省が作成した2023年度認定サイトの一覧表、および個別のサイトの情報について、各申請主体から提供された情報を格納した「認定サイト一覧」<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/kyousei/nintei/index.html> をもとに、2023年度認定の184サイトについて、その概況をまとめたものである。なお、分析にあたっては、適時、2022年度の認定試行サイト56サイトの分析結果との比較も行っている。概況をさらにまとめれば、サイト数全体の52%が林業・林産業以外の企業が管理するサイトであり、中でも工場等の企業所有の施設の敷地の緑化地区が認定されたものの割合が非常に高い。また、立地別では、上記傾向を反映し、施設内敷地と都市内に立地するサイトを合わせると35%に達する。一方、生物多様性の低下から危機的な状況が報告されることが多い里地、里山の立地区分については、44%と伸び悩みが見られ、さらに奥山については13%に止まっている。要するに、2022年度の試行段階でも言われたような都市偏重、工場敷地偏重の傾向は解消されていないと言える。

次に第2節では、これらのサイトのうち、人工林を含むものがどの程度存在するかをみている。全体の約3割のサイトで、規模は様々だが、人工林がサイト内に含まれていることがわかる。そ

のうちの8割のサイトは、林業・林産業界の企業が管理する会社有林であり、個別の林家等の参入は極めて少ないことがわかる。また、情報が限られていることから統計的には言えず、事例の紹介に止まるが、人工林について、積極的に生物多様性保全あるいは回復に向けた特別の試みを行っている事例は、現在得られる情報からは特定できなかった。このため、独自のアンケート等により、より突っ込んだ情報の把握が必要と思われる。

第3節では、現状では上述のように認定取得が限られる個別の林家の取り組みに注目し、生物多様性分野に限らず積極的な経営展開を模索している田島山業を対象として、聞き取り調査を行い、またサイト現地で現場担当の方と議論を実施した。様々な論点を含む大変興味深い調査だったのだが、直接、調査全体の趣旨に沿った部分のみに限れば、当該林家においても、まだ認定された面積がごく限られていることに表れているように、自然共生サイトについては、いちおう手は挙げたものの、経営的に言えば模様眺めの面が強く、施業面、管理面でも、特別の方針はまだ作っていない状況であることがわかった。また、J-クレジットの価値をあげるための付加的な要素という側面があると思われる。

「VI. 人工林における OECM の可能性」については、主に森林総研四国支所での聞き取りに基づき「保持林業」について概略を示し、今後の施業の基準作りの参考資料とした。

森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う医療関係者養成事業の検討

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1

1. 活動の概要

「日本健康会議」に対応した森林空間活用を医療関係者が学習することで、患者や従業員・住民の健康増進および地域資源の有効活用・活性化につながる可能性を検討することを目的として、セミナーと森林セラピー体験会を実施した。東京都の日本医師会認定産業医研修会を目指して申請したが、今回は残念ながら認定を得ることができなかった。

まず、2024年3月10日（日）に医療関係者向けのセミナー「森林空間活用によるメンタルヘルス対策と健康づくり」を実施した。会場は林野会館を使用し、5名の産業医による講演を行なった。「メンタルヘルス対策・健康づくり」としての森林活用の可能性の概要を講演したほか、発達障害や免疫応答などの専門家による新しい視点から森林医学的効果に対する横断的な考え方を学ぶ機会となった。37名が参加した。

次に、セミナー受講の日本人を対象に、2024年3月17日（日）に奥多摩森林セラピー基地で森林セラピー体験会を実施した。日本の森林セラピーを体験するためにドイツより来日された医療・心理専門家がともに参加し、森林医学に関する講義を受けた後に森林セラピーを体験していただいた。参加者はガイドに積極的に質問し、学びの姿勢を示した。また、ドイツ人の参加者たちも日本の森林活用に強い関心を持ち、医療関係者との連携方法について活発な質疑応答が行われた。参加者は38名（日本人11名、ドイツ人27名）だった。

2. 活動の成果

本セミナーを聴講することで、具体的な職場での対応方法や森林医学的効果に対する横断的な考え方を学び、今後社会へ応用するための指針となった。今後の取り組みを通じて、医療・保健分野と連携した「森林サービス産業」のさらなる浸透が期待される。また、予防・健康づくりと重症化予防の促進、医療費の削減等への可能性が広がった。特に、ドイツにおいても日本の森林セラピーを参考として活動を始めたいという意見が出され、国際的な連携の可能性も見えてきた。

3. 参加者の声

[森林医学セミナー]

今までで最高のプログラムで、ほしかった情報も得られた。専門家の先生の最前線のお話をお聞きでき、非常に参考になった。体感もあり、ガイドの存在や装備についての注意など大変参考になった。森林セラピーの多くのエビデンスもあり、現在治療がうまくいっていない患者さんの助けにつながることに期待した。医学や精神衛生から見た森林セラピーの可能性がわかった。五感の活用、複雑系といったキーワードが得られた。PDCAサイクルを利用して森林セラピーを広めていきたい。森林セラピーが保険適用になると良い。

[森林セラピー体験会]

私たちの患者さんのために、ドイツで同じような森林を探したい。2～7日以上以上の長期間のセラピーが可能になることを祈っている。日数が増えれば、セラピーの効果もますます深くなると思う。（ドイツ人）

気持ちいい森だった。一人では気づけないことに気づかせてもらった。眼をつぶる時間の場所が素敵だった。空が開いていて気持ちが解放された。一般に森林セラピーが知られていないので参加しづらい。（日本人）

実績報告とりまとめ表

実施時期		3月10日	3月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林医学セミナー	森林セラピー体験会		
参加者数	国内	37人	11人	48人	
	国外	0人	27人	27人	
	計	37人	38人	75人	
実施場所		東京都 文京区 奥多摩町			

「コンピテンシーに基づく自然保育者養成に関する研究」

代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広

1. 研究概要

1-1. 研究目的

令和4年度「緑と水の森林ファンド」公募事業で整理した「自然保育者に求められるコンピテンシー」に基づいたトレーニングを行い有効性の検証をすると共に一般化するための研究を行う。

1-2. 期待される成果

- (1) 自然保育者の養成の要点が整理される
- (2) 各地の自然保育実践が促進される

1-3. 調査方法・調査内容

- (1) 文献研究（2023年7月～2024年6月）
- (2) 「自然保育者に求められるコンピテンシー」の検証（2023年8月～2024年6月）
- (3) 「自然保育者に求められるコンピテンシー」に基づいたトレーニングの実施（2024年2月～6月）
- (4) 自然保育者養成に関する聞き取り調査（2024年2月～6月）
- (5) 研究会開催（2024年6月）
- (6) 関連学会等参加（2023年8月・11月・2024年2月）
- (7) イベント出展（2024年3月・4月・6月）
- (8) まとめ（2024年4月～6月）

2. まとめ

2-1. 「自然保育者のコンピテンシー」およびそれに基づく自然保育者養成体系の検証

令和4年度「緑と水の森林ファンド」公募事業「自然保育者に求められるコンピテンシーに関する研究」を経て、「自然保育者に求められるコンピテンシー」を用いての自然保育者の養成方法について以下のように整理した。自然保育者の養成には、個人としての自己研鑽と組織としての養成の2種があると考えられるが、主に前者について検討した。

- ① 「自然保育者に求められるコンピテンシー」を通じた現状の把握
- ② 現状に即した養成計画の作成
- ③ 講習とOJTの組合せ
- ④ 協力者とのふりかえり（中間評価）
- ⑤ 養成計画に基づく総合評価

上記を踏まえて、千代保育園のトレーニングを行った。今回は時期的に上記のうちの①～④のステップを行った。⑤については、園と確認の上で実施したいと考えている。また、実際のトレーニングでは、上記と多少異なる進め方となり、資料使用の有無も調整した。以下に概要を説明する。

まず、②においては「目標設定シート」を作成・使用した。「自然保育者に求められるコンピテンシー」の10項目のうち、自身を取り上げたいものを2つまで選び、具体的に取組みたいことを記した上で協力者とのふりかえり（中間評価）まで経過してもらった。今回は期間が短かったため2項目としたが、期間の長さによっては項目を増やすことも考えられる。考察に書いたように、目標設定シートを通じた取組みは一定の効果があったと言える。さらなる工夫としては、目標設定シートの「関連して取組みたいこと」にスケジュールと併せて記載することで、より意識して当該期間を過ごすことができると考えられる。

次に、③については当初は「講習とOJTの組合せ」としていたが、実際には「日常保育での実践とふりかえり」が主体となった。講習は各自が設定した目標に基づくものとなるため、参加日

の設定等園全体での調整が必要となる。また、OJTは上司や先輩による指導となるが、設定した目標によっては指導が難しいものがある。そのため、日常保育での実践とふりかえりを主として、設定した目標によっては講習やOJTを織り交ぜていくことが現実的であると考えられる。

今回のトレーニングを実施してみて感じたことに、複数人でトレーニングすることの重要性がある。個人としての自己研鑽であったとしても、「自然保育者に求められるコンピテンシー」を通じた自己評価や目標設定シートに基づいたふりかえりをする際に、グループでフィードバックをし合い、意見交換をすることで気づきや学びが深まっていくことがわかった。さらに、複数人で行うことにより同僚への信頼感や園としての一体感を得ることができた。設定する目標は異なっていたとしても、一緒に時間を過ごすことでチームビルディングの効果もあると考えられる。今回は全保育者のうちの7人が参加するものだったが、調整ができれば全員が参加したり、全体を2～3のグループに分けて実施したりすることができれば、自己研鑽に加えて、園全体の意識向上にもつながる取組みとできるだろう。

2.2. 自然保育者養成のあり方

今年度の研究開始時は、自然保育者養成を進めるには座学とOJTを組み合わせることが有効と考えていた。しかし、「自然保育者に求めるコンピテンシー」に基づいたトレーニングの実施や聞き取り調査、研究会を経て、日常保育での取組みとふりかえりも重要な要素であることがわかった。

保育者養成校では、授業と各種実習(教育実習や保育実習)を通して、保育者の養成を行っている。また、自然体験活動指導者養成制度(NEAL)では、概論(講習)と演習(OJT)を通して、自然体験活動指導者の養成をしている。いずれも座学とOJTを通して指導者の養成を行っていると言えるが、さらに指導者として成長していくためには、日々実践を行うことと、実践をふりかえることが重要である。

このことに参考となるのが、体験学習法の考え方である。人間関係トレーニングの分野で用いられている「ラボラトリー方式の体験学習」と呼ばれているものであるが、環境教育や自然体験活動等においては「体験学習法」と紹介されることが多い。

本研究では自然保育者養成を進めるための3要素を、①座学、②OJT、③日常保育での実践とふりかえりと考えたい。

①座学とは、いわゆる講義であるが、対面で行われる研修会をはじめ、オンライン(ライブ)での講義やオンデマンドの教材も含む。直接的に自然保育に関連するものをはじめ、保育全般、自然体験活動、安全対策等多様な内容が考えられる。

②OJTとは現場での訓練を指す。最も身近な現場である自園で上司や先輩から指導を受けるOJTをはじめ、自然保育実践園(認可園や認可外保育施設)、乳幼児を対象とした自然体験活動を実践する環境教育関連団体や自然体験活動施設等でのOJTも考えられる。

③日常保育での実践とふりかえりは、日々の保育実践をふりかえることである。個人としてふりかえることに加えて、複数人の同僚や園全体でわかちあうことができると、個人の気づきや学びが深まり、園としての向上やチームビルディングも期待できる。

さらに、昨年度から今年度にかけての研究で、「自然保育者に求められるコンピテンシー」や目標設定シート等のツールも有効であることがわかった。自然保育者養成に当たっては、上記3要素と各種ツールを用いることを提案したい。

2.3. 今後の課題

今年度の研究では、「自然保育者に求められるコンピテンシー」の更新や、「自然保育者に求められるコンピテンシー」に基づいたトレーニングの有効性を検証し、手応えを得ることができた。

前者は、現時点でも完成形ではないと考えており、今後も自然保育関係者に活用してもらおうと共に、フィードバックを受け改善していきたい。また、今回の研究協力者からは、「自然保育者に求められるコンピテンシー」の10項目は1人の保育者が持つべきなのか?園全体の役割分担や職務分掌として捉えて良いのか?という疑問も受けた。現時点では、園や団体での役割によっては

10項目への関わりに濃淡はあっても、自然保育者としては全ての項目を意識することが重要と考えているが、今後も検討していきたい。

後者に関しては、今回のトレーニングの期間が短かったこともあったので、今後はより長期間のトレーニングを行い、その有効性をさらに検証していきたい。そのためにも、自身の関わる園や保育者研修等を通して関係者に発信していきたい。

今後も上記を課題として研究および実践を続けていきたい。

針葉樹伐採跡地の広葉樹林化モニタリング

えひめ千年の森をつくる会

〒791-0315 愛媛県東温市井内甲 915-2

1. 活動の概要

えひめ千年の森をつくる会は2003年にスギ、ヒノキの皆伐跡地10haを購入し、約20種類の広葉樹を植林して育成してきました。針葉樹伐採跡地の広葉樹林化モニタリングの例は少ないので、その成果を調査検証し成果を広めることを目的としました。

散策路（アクセス道）周辺の現況調査や群落8区分の調査地で被度・群土調査・毎木調査を実施しました。

2. 活動の成果

広葉樹を植えて、森林ボランティア会員が手入れを続けてきた森が、20年経過しました。その育ちの様子を今回の調査で調べ、報告書としてまとめることによって、広葉樹の森が育つ過程を知ることができました。それぞれの調査地ごとに特徴が見られ、それを考察することにより、どのような手入れをすれば、多様な種が共生する豊かな森になっていくかの手がかりを得ることができました。あと10年後に同様の調査を行い、森の育ちを確かめていきます。

3. 参加者の声

調査地F（アカメガシワーカラスザンショウ群集）は、植栽してから2、3年は下刈りをしたものの、その後手入れが行き届かなかったところですが、後に、植えた木たちの手入れが行き届かなかったところです。木をうえてから10年後と、さらにそのまた10年後に調査することによって、「最終的には、先駆樹種から植栽した樹種へ遷移していくものと考えられる。」ということがわかりました。私たちの関わりが生物多様性豊かな森へ育つことが確認でき、有意義な調査でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月27日～ 6月30日	7月1日～ 8月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容		各調査地の調査木 について、樹高や 胸高直径などを測 定して記録する	調査結果について まとめる		
参加者数	県内	18人	2人	20人	
	県外	2人	2人	4人	
	計	20人	4人	24人	
実施場所		愛媛県 東温市 河之内			

学校林の利用支援・整備のあり方に関する調査研究（要旨）

鹿児島大学 農学部

研究目的

本研究は、森林環境育教育の場としての学校林の利用を促進するために、(1) 外部支援のあり方、(2) 森林整備にあたっての課題を中心に現地調査から実態を明らかにすることを目的とした。上記は相互に関連しており、本報告書では学校と外部支援主体との関係を結び、継続させる方策について検討した。

研究方法

(1) 学校林、森林教育に関する先行研究の整理

多様化する学校の状況、森林教育へのニーズを踏まえて、これまでにどのような研究がなされたのか、本研究に参考となる知見はどのようなものがあるのか、既存の文献資料を収集することで整理、内容を検討した。

(2) 地域における関係の実際と課題

学校林の整備・利用について、学校と外部支援主体がどのような関係を築いているのか。鹿児島県を事例にして、5つの環境・状況の異なる小学校での取り組みを検討した。それぞれの学校で様々な支援主体が学校林の整備・利用に関わった取り組みを展開しており、その取り組み内容、支援主体との関係について考察した。

(3) 森林教育の支援主体

鹿児島県において、森林教育を支援する主体に聞き取り調査を実施した。支援のあり方を活動資金の提供や作業実行者の紹介を担う「間接支援」と、実際に学校林の整備や森林教育活動を実行する「直接支援」に区分して、それぞれを担う主体に対して調査を実施した。支援主体は行政、研究機関、林業団体、市民団体、大学生と背景、事情の異なる者を選定して、抱える課題や支援のあり方について現状を明らかにした。

(4) 様々な外部主体との関係事例

学校と外部支援者の協力した活動について、先進事例における取り組み状況を検討した。取り上げた事例は(1) 行政（国有林）による支援、(2) 行政（市町村）による支援、(3) 地域の支援組織による支援、(4) 市民団体による支援、であり、各地で学校が実施困難な活動、整備について有効な支援が実施されていた。それぞれの取組の背景、具体的な実施内容、連携のあり方について各地での取組事例を整理した。

調査結果

鹿児島県では「森林（もり）の体験活動の支援事業」の活用により、小学校等を対象とした森林教育活動の支援を行っていた。この事業を活用することで、学校から外部への支援要請が可能になり、各地での取り組みの推進に資していることがわかった。活動継続の方策としては、森林ボランティア等による学校林活動の支援体制が重要となる。森林ボランティアが小学校において森林教育に携わることで、指導員の不足を補うことができる。かごしまみどりの基金では、鹿児島県内の幼稚園児から大人までの幅広い年齢層に向けて森林の重要性や木材利用の意義についての普及・啓発を実施していた。一方で、初期の活動支援が主体で、活動継続にあたっては各学校の努力が求められるところが大きい。調査を実施した小学校は、様々な主体と連携しながら、地域の実情に応じて活動継続につなげるための工夫、取り組みを展開していた。また、直接活動を支援する主体からは活動に関わる相談窓口の設置や森林教育に関する情報の公開、共有のあり方についての要望が出された。

様々な外部主体との関係支援事例として、行政（国有林）による連携支援、行政（市町村）による連携支援、地域組織による連携支援、市民団体による連携支援の各分野で先進事例を調査した。

これらの取り組みの特徴は、活動が5年～20年以上と継続していることである。活動を継続することで、内容を見直したり担当する職員の教育に関する技量も向上しており、学校に対して質の高いプログラム提供が可能となっていた。例えば、三陸中部森林管理署では、以前は生徒が植え付け作業もしていたが、植栽適地がなくなってきたので、作業内容を枝打ちに切り替えた。また、座学の事前学習についても職員が開発したカードゲームを利用して教育内容の充実を図っていた。長期的な活動の継続が、このような創意工夫にもつながっていた。外部主体との関係は、学校内部の状況変化（教員の異動等）に関わらずに、活動を継続させる要素となる。活動の人員、知識・技術が継承されるような仕組みづくりが必要となる。岩手県西和賀町では、町内全ての小中高等学校で森林教育を実施する体制構築を進めている。このような取り組みは事業者側の意欲を喚起することにもつながり、担当者間で積極的な改善策の提案が行われていた。また、長野県佐久穂町では町が設定した学校林「創造の森」でモザイク状の施業を実施しており、50年単位で人工林の成長を観察できる森林をつくる予定、これも学校単独ではなし得ない取り組みである。NPO法人信州フォレストワークは森林整備にかかわる市民団体として、積極的に学校での森林教育、学校林整備に関わっていた。例えば、開校時に植栽された樹木が成長して管理が難しくなる学校に対して、県の事業を通して市民団体として整備に関わりながら、それに加えて利用面での支援も実行することで学校現場で森林を活かした教育を展開する契機ともなっていた。

結論

学校林の利用支援において、外部主体との継続的な関係構築が重要であること、整備においても外部者の知見・技術を取り入れることで、安全で利用しやすい環境が実現できる可能性が高まることが明らかになった。このような支援を広げるためには、行政機関が間接支援主体として、学校と外部主体の関係をつくる窓口となること、外部者が活動するための資金・資材等を継続して支援できるかどうか重要となる。利用や整備を直接支援する主体については、長期間活動する中で人員の交代もありうることから、組織内での経験の蓄積と継承が重要となる。

活動基盤整備

修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供

沼田どってこどってこ

〒078-2201 北海道雨竜郡沼田町旭町 3-1-38

1. 活動の概要

修学旅行生を対象にした農村民泊事業において、林業や木材加工の体験プログラムをつくり、森づくりから製品までの流れを身近に感じられる機会を提供することを目的とした。北海道空知地方では1グループ3～4名の修学旅行生が農村世帯に宿泊し、その世帯の仕事・生活を体験するファームステイ事業が20年以上にわたって継続されてきた。ファームステイ受け入れはこれまで農家を中心であったが本団体も林業家としてグループに加わり森林散策や林産物加工の体験を提供した。まずは大都会に住んでいる青少年に森林の中に入って森林の雰囲気を感じてもらうことを第一にした。そのうえで、のこぎり伐採、樹皮はぎ、薪づくり、杭づくり、柵づくりなどの簡単な加工を通して森に生えている木が様々な商品になるプロセスを体感してもらった。

2. 活動の成果

森づくりから製品までのつながりを伝えるための林業六次化の体験プログラムとしていくつのパターンを作ることができた。なかでも森から伐り出した木材をつかった簡易建築（テラスや薪棚づくり）は、林業の六次化体験として修学旅行生に楽しんで取り組んでもらえるプログラムであることがわかった。一方で悪天候に対応した体験プログラムがほとんどないため今後準備する必要がある。

3. 参加者の声

- ・都会では出来ない自然とのふれあいができとても貴重な体験になった
- ・木をのこぎりで切るときに伐る方向や倒す方向を考えて作業するのがおもしろかった
- ・林業についていろいろ学べて楽しかった
- ・大変だけどやりがいもすごくあって楽しかった

実績報告とりまとめ表

実施時期		R5 夏季	R5 秋冬季	R6 夏季	計
事業量 又は 事業内容	修学旅行生の 民泊事業にお ける林業六次 化体験	7月3日～5日	9月13日・14日	6月10日・11日	全9組、17日
		8月2日・3日	9月20日 10月10日・11日 10月24日・25日 12月20日・21日	6月30日	
参加者数	県外	4人	15人	9人	28人
	海外	3人	3人	0人	6人
	計	7人	18人	9人	34人
実施場所		北海道雨竜郡沼田町			

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号

1. 活動の概要

学校法人尚綱学院はキャンパス周囲の山林を地域社会全員の公共財とし、約20万㎡の森を5区画（A～Eゾーン）に分け、5年周期で恒常的に整備し、「尚綱の森」として再生させるプロジェクトを2016年4月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」をコンセプトに、NPOや市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと活動しています。参加者でアイデアや意見を話し合い、森づくりを通じた交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第2土曜日の定例活動としてA～Eゾーンの森林整備、広場づくりのほか、多世代が楽しみながら学べるイベントや勉強会等をおこなっています。

2. 活動の成果

今回の助成金では、主に森林の持続可能な管理及び維持の実施に向けた森林整備費などで活用させていただきました。森林整備事業では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行は活動時間の短縮を解消し、年間計16回の活動を行い、計184名の参加者がありました。森林視察事業については、外部訪問の体制が整わずにやむを得ず中止としましたが、尚綱学院大学SDGsマルシェに出展し、アドバイザーと本学学生が共同でSDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」「つくる責任つかう責任」への理解を深め、学ぶ場を高校生や市民に向けて提供しました。さらに、整備事業の中でA・Bゾーンを中心に「多様性の森づくり」として実施しているバリアフリーの道づくりの活動等を通し、学びの場・憩いの場などゾーニングを行う共に、今後の5ヵ年計画策定検討の準備を行ったほか、幼児から小中高生、学生、地域住民対象とした学習会等のイベントを実施し、計224名の参加があり、里山で多世代が森林づくりやSDGsについて学び、交流する機会を提供しました。（整備活動・イベント参加者総計：408名）

<これからの取り組み>

2024年度は、引き続き、地域の方々をより多く巻き込む形で事業を展開し、市民の皆さんに大いに力を発揮していただきながら、特に次世代の育成についての取り組みをこれまで以上に重視し、「多様な主体が参画する森づくり」を実践していきます。また、これからの「尚綱の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、新しい5ヵ年計画をスタートし、持続可能な活動を目指します。

3. 参加者の声

- ・ イベントに参加したが、小さな子供からの積極的な質問や興味関心が飛び交い、また、普段の生活では係ることのない年齢の方々と接する機会となり、学びの多い経験ができた。
- ・ 住宅地に住んでいるため、自然に触れる機会がなく、初めてのこぎりで木を切ったが、想像より頑丈で、生命力を感じた。山の木々が生活の中で循環していることに気づき、身の回りの木材に目を向けてみようと思った。
- ・ 里山の活動を通し、様々な立場の方と交流ができ、自身の活動に生かせる貴重な時間であった。
- ・ 間伐材を計画的に利活用できるとなると感じている。
- ・ 草木の成長や循環は早く、整備にゴールがない、継続して保全整備することが必要と感じる。

- ・里山活動を実施している大学が身近にあることに驚き、感心が沸いた。

実績報告とりまとめ表（2023年7月～2024年6月）

実施時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
事業内容	整備活動①	—	—	10	11	18	15	—	14	14	22	20	15	139人
	整備活動②	7	—	—	8	5	—	—	—	8	4	8	5	45人
	勉強会 (イベント) 報告会	—	30	13	138	—	—	—	—	—	39	—	4	224人
合 計													408人	
実施場所	宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号													

ソフィアの森の整備

上智大学大学院地球環境研究科
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

1. 活動の概要

森林環境教育、健康増進、地域社会の交流活性化、また、次世代の教育を目的に教員やボランティアのアドバイザーによる解説を聞きながらソフィアの森を散策する市民講座を開催した（期間中、令和5年において3回、令和6年において2回）。また、上智大学大学院地球環境学研究科の学生が参加した学外研修では動植物データベースの記録とGISデジタル化実習を実施し（令和5年11月3日～4日、一泊二日）持続可能な森林管理と木材の活用についてグループディスカッションを行った。

市民講座では、季節によって変化する森の動植物を観察し、生物多様性や気候変動に関する説明及び議論を行うことで教育的な機能を果たした。ソフィアの森におけるイベント開催の準備として環境整備、歩道の維持管理を上智大学地球環境学研究科の資金および本基金を活用して委託により実施した。また、学外研修には大学の資金で専門的な知識を持つ講師らを招いた。

健康増進および地域社会の交流活性化の面では幅広い年齢層の人々が参加し、自然にふれることで身体や精神的な健康増進を助けることができた。

次世代の教育の面では新たに親子コースを整備した。さらに、地域住民と上智大学学生との交流の場として活用でき、多様な国からの留学生も参加し、日本の森林管理を学ぶ機会を提供した。

2. 活動の成果

持続可能な開発を担う人材育成及び教育を目的に、上智大学関係者、環境専門家、森林管理署職員、森林組合職員、地域住民が参加し、森林体験活動の拡充、森林生態系の観察とデータベース化、生物多様性や気候変動の影響に関する専門知識の教育などを行った。具体的には市民講座として散策イベント、親子コースの開発、大学院生の研修、地域住民と学生の交流などを実施した。2023年7月～2024年6月までに実施した5回の市民講座と1回の学生研修活動、及び整備事業には県内外から延べ約75名が参加した。これらの成果は2024年6月に開催した上智大学の学外研修報告会にて報告された。

3. 参加者の声

参加者からは地元の森を身近に感じ、若い世代との交流が出来たことや専門家から環境について学べたことが有益だったという声があった。特に今年度は親子コースに参加した親子から好評の声があり続けて親子コースの整備、開発に取り組みたいと思うきっかけとなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023月 7/9	2023月 10/15	2023月 11/3-4	2023月 11/4	2024月 5/18	2024月 6/8	左記 意外	計	
事業量 又は 事業内容	市民講座	市民講座	学外研修	市民講座	市民講座	市民講座	現地の管理や準備作業などその他の活動		
参加者数	県内	9人	6人	2人	11人	0人	1人	18人	47人
	県外	3人	3人	15人	2人	2人	2人	1人	28人
	計	12人	9人	17人	13人	2人	3人	19人	75人
実施場所	長野県軽井沢町（浅間山国有林）								

安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成講座

モリダス

〒194-0211 東京都町田市相原町 930-2

1. 活動の概要

安全で楽しい里山保全活動を推進するためには現場リーダーの養成が必要と考え、研修プログラムを体系化してきたが、今年度の事業では、手道具とロープを用いて安全に木を倒すための研修・審査を終了し、現場リーダー3期生を輩出できた。ただ、段階的にスキルアップしていくニーズは高くないことから、手道具の基本的な扱い方を習得する講座のほかには、ネイチャーポジティブをテーマにして講座を組んだ。初夏編として開催した草刈りの実践講座は定員を上回るほど好評だったので、今後は秋冬編も計画して、一年を通した講座としてシリーズ化する予定である。また、草刈りの講座については、当日の様子を短い動画に編集して、オンラインでも学べるように工夫した。オンラインフォーラム「森林づくり・里山保全活動は、誰がどのように担っていけばよいのか？」では、5団体から登壇者を招いて人材養成プログラムを共有し、意見交換をおこなった。横浜・多摩地域を中心に活動実践者や行政職員など100名を超える参加者を集め、関心の高さがうかがえた。

2. 活動の成果

「ネイチャーポジティブ」を意識した講座を組んだが、生物多様性を高めるための森林づくり・里山保全の方法について関心が高いことがわかった。一年を通してどのように作業するとよいのか、体系化できると、講座の内容を普及できるだろう。また、今後の森林づくり・里山保全の担い手というテーマは、非常に関心が高いことがわかった。また、フォーラムの議論を通して、無償ボランティアではなく、セミプロや複業として関わる担い手を想定し、人材育成を図っていくという方向性が見えてきた。

3. 参加者の声

「草刈りへの視点や価値観を変える素晴らしい企画だと思いました。多くの学びがありました。」
「ボランティアは高齢化、参加意識の変化など興味深い内容でした。幅広い年齢層、継続性を担保してスキル移転を進めていくことは容易ならざることと認識しました。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
2/18, 3/2	手道具（ノコ・ナタ・カマ・ハサミ）の基本的な扱い方	(5/3) 8	八王子市
2/17, 4/27-28	レベルアップ研修・審査「手道具とロープによる安全な伐木」	(3/0) 3	横浜市
5/18-19	研修「コミュニケーションでつくる安全で楽しいネイチャーポジティブ」	(5/1) 6	横浜市
6/1	実践講座「生態系を豊かにする草刈りの時期と方法」	(7/8) 15	八王子市
6/16, 6/28	フォーラム「森林づくり・里山保全活動は、誰がどのように担っていけばよいのか？」	(?/?) 102	オンライン
計		(県内 20/ 県外 12/ 不明 102)	135

「山と里と人をつなぐ」森づくりボランティア養成プロジェクト

特定非営利活動法人まめつてえ鬼無里
〒381-4301 長野県長野市鬼無里 1657

1. 活動の概要

子供達の森遊びなど多面的に利用できる森への再生を目的に、荒廃が進む地区の山林を借受け、森づくりボランティア育成のための実践的な研修とウッドデッキ設置 WS を実施。

森林ボランティアにより、以下の森林整備作業を行った。

9/17【森林作業】スギの伐採、玉切り、搬出作業

10/8【森林作業】ナラ小径木の伐採、玉切り、搬出作業

11/12【森林作業】ナラ、クリの大径木伐採、玉切り作業

12/15【森林作業】ナラ、クリ原木の搬出作業

※森のあそび場ウッドデッキ DIY ワークショップは、主たる担当者が病氣療養のため未達。

2. 活動の成果

◆専門家の指導の下、実践的な森林整備活動を継続的に行うことで、森林ボランティアの育成と整備体制づくりにつなげることができた。

◆信州大学学生の参加など、幅広い層に森林整備の重要性を伝えることができた。

◆森のあそび場ウッドデッキの作成は先送りとしたが、ウッドデッキ設置予定場所周辺の伐採等、環境整備ができたので今後の活動につなげていきたい。

3. 参加者の声

- ・林業専門家の指導のもと、安全に作業することができた。
- ・伐期が過ぎた木を伐ったら、鬱蒼としていた森が明るくなった。
- ・実践的にチェーンソーの使い方を学べてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林整備	9/17、10/8 11/12、12/15	4回	
参加者数	県内	33人	33人	
	県外	人	人	
	計	33人	33人	
実施場所		長野県 長野市鬼無里		

ぎふ木育研修交流会

ぎふ森 遊びと育ちネットワーク

〒501-0512 岐阜県揖斐郡大野町上秋 946-10

1. 活動の概要

岐阜県が推進している「ぎふ木育（森や木からの学び）」に携わる森のようちえん及びプレーパーク等の森林環境教育の実践者が、強みを活かして学び合い、更なる活動の充実、担い手を育成をする。そのために、講座を開催した。

また、県内の活動団体を紹介するマップを作成し、活動の周知を行った。

2. 活動の成果

講座では、今まで活動してきた方にも、新たに活動を始めた方にも、参加していただくことができました。自然との関わり方、子どもとの関わり方、リスクマネジメント等を学びました。実際に、関わり方が変わってきた、リスクとハザードがあることを理解した、など参加者の変化がありました。活動団体も増えました。

今後も、森林環境教育の充実に向けて活動していきたいです。

3. 参加者の声

人と森、樹木、生き物など、もっと視野を広く観ていきたいと思いました。自然が好きだけで、自然を大切にしていないことに気がつきました。楽しむだけでなく、危機感も持ち、大人も子どもも、自分の身は自分で守る意識を持っていくことが大切だと感じた。色々な方と意見交換ができて良かった。等の感想をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1/23	1/25	4/14	4/20	5/4	5/5	5/25	6/2	計	備考
事業量 又は 事業内容	実践者向け講座の開催									
参加者数	県内外	15人	中止	12人	13人	7人	6人	5人	31人	89人
実施場所		岐南町		神戸町	大垣市	岐南町	笠松町	神戸町	恵那市	

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part 4

奈良県森林ボランティア連絡協議会

〒634-0033 橿原市城殿町459番地

公益財団法人 奈良県緑化推進協会内

1. 活動の概要

県内各地等で活動する森林ボランティア団体のリーダー養成・ネットワーク構築や、森林づくり活動を通じた農山村と都市住民との交流のために、奈良県天川村洞川温泉周辺にて、下記事業を実施する。

- ・令和3年3月及び11月に植樹したキハダの育林のため、植樹した全数の生育状況調査を行う。
- ・エンジン式ロープウインチによる簡易な搬出研修を行う。
- ・バッテリーチェーンソー切断能力の体験を行う。
- ・杉人工林の間伐を地元の山守の指導の下、伐倒技術（安全な伐倒手順）等を学ぶ。
- ・天川村が進めている針葉樹ではなく広葉樹による森づくりを企業支援で行っている事業視察。

2. 活動の成果

- ・天川村洞川地域で進められている針葉樹だけではなく広葉樹を中心とし、尚且つ地元産業を活性化させ、人を呼び込むことも考えた森づくりを学ぶことが出来た。
- ・バッテリーチェーンソーの体験することで環境にやさしい機械の普及を促進したい。
- ・人工林（杉林）で間伐、枝払い、玉切り、搬出までの作業を行いスキルアップが図れた。
- ・エンジン式ロープウインチによる簡易な搬出をすることで間伐材の利用を図れる。

3. 参加者の声

- ・山守のプロ作業員の指導を受けて伐採技術の向上を図れた。
- ・ロープウインチ機材一式は軽量で、1人でも運べるので搬出が困難だった間伐材利用が促進する。
- ・木材生産だけでなく、リクレーション、セラピーに利用も考えた森づくりに期待したい。
- ・これまで困っていた安全な掛かり木処理を学べた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年10月29日	令和6年3月30日	合計
事業量 又は 事業内容	・キハダ生育状況調査 調査本数106本	・杉間伐、玉切り22本 ・エンジン式ロープウインチによる出材研修 ・バッテリーチェーンソー体験会	・キハダ生育状況調査本数106本 ・杉間伐、玉切り研修本数22本 ・ロープウインチによる出材研修 ・バッテリーチェーンソー体験会
参加者数	県内 4人 県外 1人 計 5人	13人 3人 16人	17人 4人 21人
実施場所	奈良県吉野郡天川村洞川		

里山保全ボランティア養成講座の開催

NPO 法人山野草の里づくりの会

〒 633-0102 奈良県桜井市大字三谷 528 番地

1. 活動の概要

里山保全の知識と技能を学ぶ場を作り、里山に関心のある人を集めて活動に参加するボランティアを増やしていく。参加者間の交流を深め活動の輪を広げ持続できる仕組みを作る。

2. 活動の成果

里山に来て自然に触れて実際の作業を体験することが何より大切です。書物や情報では知識を伝えることができても、人を動かす力にはなりません。講座の参加者は、自然のなかで一緒に作業することで大いに楽しんでいただき、自然の大切さを感じとって頂いたようです。今後は実家の山の整備、身近な取り組みを始める等々、学びをきっかけに次の活動に向かっているようです。

2017年に第1回の講座をスタートし、2020年（コロナ発生）を除き毎年、ボランティアの養成に取り組んでいます。今後も継続して取り組むとともに、活動の輪を広げること、スキルアップの取り組みを企画・実施したいと考えています。

3. 参加者の声

この講座で色々な体験ができすごく楽しかった。里山の仕事の多さを実感したが、沢山の方が協力しあう活動のやりがい、楽しさを体験でき、里山の活動に参加したい。里山の自然に触れ、環境を良くすることを少しでもやっていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5/13	6/10	7/8	9/9	10/14	11/11	計	5/11	6/8	備考
事業量 又は 事業内容	里山林 について講義 & 観察	刈払機 の安全 講習 & 実習	応急手当 & 里山の 生き物観 察	里山林の 作業 & 竹林整備 実習	チェー ンソー 活用	保全活 動実習	2023 年度 集計	山林につ いて講義 & 観察	刈払機 の安全講 習 & 実 習	
参加者数 全員県内	11	12	12	11	9	9	64	16	17	
実施場所	桜井市大字三谷「山野草の里」および周辺地域 なお、上記以外に 2023/9/2 & 9/16 吉野郡の林業機械化センターでチェーンソー個婦週 を別置実施。									

大旗山ハイキング道の整備とビオトープ孟子里山公園の魅力発見

NPO 法人自然回復を試みる会ビオトープ孟子
〒640-0452 和歌山県海南市孟子1064-3

1. 活動の概要

散策道トレイル整備をしたルートが、倒木、土砂崩れ等で頂上までの道が分かり難くなり、利用者も減ってきた。そこをリニューアル整備し、道に迷わないように、案内表示板等を設置し、利用しやすくする。また、公園全体を多種多様な生き物が住める環境整備に心がけ、来園者がくつろげる場所にしていく。

2. 活動の成果

整備されていない倒木や枝、葉を伐採整理し、みんなが通りやすく、利用者が増えるよう歩道の確保に努めた。この事で、山頂をめがけて自然散策する人も増えて来た。それと同時に道しるべの案内表示もところどころリニューアルした。しかし、集中豪雨の回数も増え、そのたびに倒木などが散策道を塞ぐことがあり、いたちごっこの感もあるが、その都度応急処置をしているところである。また、調査により植物の様子も10年前に調査したときから、温暖化の影響が出てきている。今後も稲作水系の保持をすることで、様々な分類群の昆虫がバランス良く沢山見られる魅力を維持し、子どもたちが昆虫採集や、標本づくり等を行う上で最適の場所と成るよう、活動を前に進めていき発展させたい。

3. 参加者の声

観察会では、いつも何気なく通り過ぎていた山野草にも名前があり、じっくり見ていると愛らしく、かわいい。楷木体験では、シイタケが楷木から出てくるまでに2年もかかるなんて驚いた。散策道は、台風や大雨で通れないときもあったが、しばらくしたら通れるようになっていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	樹木の伐採等	8/1, 8/3	12/17, 18, 20	5日	
	植生調査	8/31, 9/22, 10/26 4/15, 4/28, 5/24	6/2, 6/5, 6/6	9日	
	観察会	8/8, 8/26, 11/25	9/30, 10/22, 10/28	6日	
	シイタケ植菌	1/20, 1/21, 1/27, 1/28, 2/10	2/11, 2/12, 2/18, 2/23, 2/25	10日	
参加者数	県内	114人	125人	239人	
	県外	38人	35人	73人	
	計	152人	160人	312人	
実施場所		和歌山県 海南市・町			

里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島

森林ボランティア団体もりゆう

〒739-0144 広島県東広島市八本松南 3-8-9

1. 活動の概要

- ・広島各所で、その地域や里山、森林を活用した自然体験活動・自然保育を実施する活動を広げていくことを目指し、それらを企画・実施できる人材の育成を行う。
- ・フィールドの環境整備に関する研修会
- ・自然体験活動フィールドのメンテナンス整備

2. 活動の成果

- ・広島各所で自然保育研修を実施したことにより、広島全体で自然保育を実施する人材を育成することができ、また、自然保育に興味がある人達同士の交流の機会にも繋がった。
- ・継続的に森周辺の沢を中心とした草刈り整備や沢整備を子どもも大人も一緒に実施することにより、自然への理解が深まり、自分の身の回りの自然に働きかけて整備する面白さや心地よさを感じてくれる人が少しずつ増えてきた。
- ・活動している森林フィールドの道具小屋が経年劣化して危なくなっているものをいつも活動に参加してくれる人達と補修したり、新たな小屋づくりに取り組んだりすることで、自然体験活動に取り組みやすい環境を整備することができた。

3. 参加者の声

- ・身近な自然でこんなに遊べることを知り、こども達と自然保育を実践していきたいと思った。
- ・沢の整備が楽しかった。またやりたい。・色々な人と協力して環境を整備していくのが良い。など、色々な人との交流も含めて自然と関わることが楽しかったという意見を多く頂いた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11/28, 1/28, 5/11, 19, 6/22	10/9, 27, 28, 4/18, 20, 21	5/26, 6/15, 6/27	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然保育体験研修シリーズ	むささびの森・沢の大地の再生	むささびの小屋補修及び小屋づくり	10回	
参加者数	県内 県外 計	のべ100人 のべ9人 のべ109人	のべ27人 のべ0人 のべ27人	のべ9人 のべ0人 のべ9人	のべ136人 のべ9人 のべ145人
実施場所	広島県東広島市志和町、広島市内各地				

「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業

山内自治振興区

〒729-6131 庄原市山内町 813-4

1. 活動の概要

昔ながらの里山暮らしを再現し、森林の素晴らしさや大切さ、森林資源の様々な活用方法を学ぶ。季節季節に応じた様々な暮らしごとの体験を通じ、子どもも大人も年齢を問わず季節ならではの森林の環境、森林の役目、森林の素晴らしい可能性を感じるとともに、森林資源を活用し先人の尊い知恵を体験、再現する。その活動の拠点として森林に囲まれた築150年の古民家を活用する。

- ・里山の木は燃料・建築材だけではなく様々な暮らしの中で利用され、活かされてきた。例えば木灰からのこんにやく作り、染め物、畑の肥料などに利用したり、様々な暮らしの道具作りを再現したりするなど木が様々な生活に活かすことのできる持続可能な循環資源であることを体験する場所づくりを目指す。
- ・地元の山から椎茸原木を調達し、椎茸菌を植えつけから生産までの一連作業を専門家の指導により体験し、自から生産し収穫の喜びを味わう。
- ・里山の暮らしの体験を通じ、地域の人々だけでなく他地域・都市部からの関係人口の交流促進の一助にしたい。

【7月】竹を活かした遊具作り

【8月】昔の物でいかだを作って地元の川で川遊び

【10月】石窯の小屋作り・小枝の鉛筆作り・桜の木でチップ作り・燻製作り・たき火パン作り

【11月】石窯の基礎レンガ敷作り、木こりのろうそくで料理

【12月】餅藁でしめ飾り作り

【1月】椎茸栽培講習会（菌の植付けから収穫時期までの管理）

【2月】石窯耐火レンガ積み・味噌樽開き

【3月】原木へ椎茸・なめこ・ヒラタケを植菌

【4月】野山を歩いて山菜（たけのこ、わさび、椎茸）料理作り

【5月】石窯耐火レンガ積み・バケツ苗

【6月】野草を使った野草茶・生ごみの消えるキエーロ作り

2. 活動の成果

- ・活動拠点地域に熊の目撃情報や柿の食痕が見られ活動の自粛を余儀なくされたが、地域住民とは様々な活動ができた。
- ・昔の里山の暮らしごとを折々の季節ごとに再現する中で現代社会の盲点を先人の知恵や昔の道具・資源を利活用し解決する中で、更なる里山の魅力を感じ、次世代へつないでいくことができた。
- ・広報活動は結果をなかなか思うように発信できず、他地域との交流は今一歩であったが、今後、他地域・都市部への情報発信を細やかにし、里山、森林をベースにした暮らしの魅力を伝えていきたい。
- ・今後は更に森林資源を活用するプログラムを実践し、森林への関心や魅力を発信していきたい。

3. 参加者の声

- ・竹からこんなに様々なものが作れて驚いた。昔の道具はすべて土にかえることに感動した。
- ・子どもたちの発想力の泉を見た。どんどん様々な知恵が生まれる環境にも拍手。
- ・里山は時間がゆっくり流れていて気持ちがいい。
- ・捨てられようとした昔の戸板がみんなの命を守るいかだになったのがうれしかった。

- ・木を切り利用できる山を持ちたくなった。
- ・木を削ることが無心になってくれ何時間でも集中できる。
- ・シイタケや様々なキノコの栽培の仕方に違いがあり、奥の深さを感じた。
- ・山の中にはこんなに食べれる山野草があることに驚いた。
- ・石窯の作業の中で様々な手法を知れて楽しかった。
- ・生ごみはごみの中でも水分を含んでいてみんなで一軒一軒キエーロを作ればかなりの処分費節減できそう。

実績報告とりまとめ表 実施場所 広島県庄原市平和町

実施時期		7月15日	8月20日	10月28日	11月26日	12月17日
事業量 又は 事業内容		第13回古民家 体験活動 竹を活かした 遊具作り	第14回古民家 体験活動 昔の物でいか だを作って地 元の川で川遊 び	第15回古民家 体験活動 石窯の小屋作 り・小枝の鉛筆 作り・桜の木で チップ作り・燻 製作り・たき火 パン作り	第16回古民家 体験活動 熊出没情報に より自粛 石窯の基礎レ ンガ敷作り、 木こりのろう そくで料理	第17回古民家 体験活動 餅藁でしめ飾 り作り (熊出没情報 により山内自 治センターに て)
参加者数	県内 県外 計	15人 2人 17人	25人 0人 25人	23人 3人 26人	13人 0人 13人	17人 0人 17人
実施時期		1月29日	2月11日	3月10日	4月20日	5月26日
事業量 又は 事業内容		第18回古民家 体験活動 熊出没を受け 大人だけの椎 茸栽培講習会 (菌の植付けか ら収穫時期ま での管理)	第19回古民家 体験活動 石窯耐火レン ガ積み・味噌 樽開き	第20回古民家 体験活動 石窯レンガ積 み・原木へ椎茸 ・なめこ・ヒラ タケを植菌	第21回古民家 体験活動 野山を歩いて 山菜(たけのこ 、わさび、椎茸) 料理作り	第22回古民家 体験活動 石窯作り・バ ケツ苗
参加者数	県内 県外 計	13人 0人 13人	28人 0人 28人	18人 2人 20人	17人 2人 19人	13人 0人 13人
実施時期		6月16日	計			
事業量 又は 事業内容		第23回古民家 体験活動 野草を使った 野草茶・生ご みの消えるキ エーロ作り				
参加者数	県内 県外 計	22人 0人 22人	204人 9人 213人			

安全な森林づくり推進事業

NPO 法人ひろしま人と樹の会

〒730-0052 広島市中区千田町1丁目15-4-904

1. 活動の概要

チェーンソーで木を安全に伐る森づくり作業の基礎を習得する「安全に木を伐る研修会」として公募を行い3回開催した。延べ73人の参加があった。学問的に知識を身に付ける座学の開催2回（2日）。基礎実技で正しい技術・技能を身に付ける技術技能の基礎を学ぶ、伐木造材の実施訓練研修会を3回開催し7日実施した。自伐林業などで手軽に搬出する「ポータブルウインチ」の基礎を学ぶ講習会を2回開催し2日実施した。

2. 活動の成果

以下の通り安全な森づくりのための人材を育成しすることができた。

参加者はヒノキ林の現場内での基礎実技体験を通し、安全な森づくりに必要な知識、技術、技能、リスク判断する基礎を身に付けることができた。

安全に対する意識を向上させたことにより厚生労働省の安全衛生特別教育を2名受講、また、チェーンソーによる伐木造材、搬出の技術技能試験の4級に1名が合格するなど各自の林業現場における安全に対する知識、技術、技能の向上に貢献した。

初心者でも正しい知識と訓練方法、機械のメンテナンス等の基礎が理解できた。

3. 参加者の声

- 我流でチェーンソーを使っていたが基本を学べることができ感謝している。今後は我流を直して安全に扱えるよう努力したい。
- 目立ての大切さを再認識した。顕微鏡を使い目立ての良い点、悪い点が確認できた。
- 実際に伐倒する研修は初めての体験であり、具体的に基礎実技やリスク判断などの全容を学ぶことができ有意義な研修であった。
- チェーンソーを分解して行うメンテナンスは、1度も行っていなかったが指導をうけ実際に体験した。エンジンの調子が良くなり、メンテナンスの大切さを改めて知った。
- 基本実技（特に目立て、訓練方法、突っ込み切り）では、始めて学ぶことが多く「目からうろこ」でした。ありがとうございました。

実績報告とりまとめ表

実施期間	7/14	11/18	7/15	7/16	7/28	7/29	9/6	9/7	9/10	計	備考
事業量 又は 事業内容	事前 準備	事後 確認	①1回目 ②1回目	②2回目	①2回目 ②3回目	②4回目	②5回目 ③1回目	②6回目 ③2回目	②7回目	①2回 ②7回 ③2回	①座学 ②研究会 ③講習会
参加者数	県内 5人 県外 0人 計 5人	2人 0人 2人	11人 0人 11人	8人 0人 8人	12人 0人 12人	11人 0人 11人	11人 0人 11人	13人 0人 13人	7人 0人 7人	73人 0人 73人	人数は事前事後除く
実施場所	広島県安芸高田市八千代町勝田										

徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

1. 活動の概要

県民、企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり、活動の支援を行うため、県内に公募し、新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに、これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して、スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのステップアップ講座も実施した。

2. 活動の成果

○森林づくりリーダー養成講座

9月9日から12月9日にかけて、基本講座8回を実施した。

受講生19名のうち、17名が認定基準（講座受講の7割受講）を満たし、

令和5年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は、養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し、県内の学校関係や野外活動施設等に送付し、森林づくりリーダーとして活動を行う。

○森林づくりリーダー・ステップアップ講座

11月19日、12月16日、1月18日、2月11日の4日間、より専門性の高い講座を実施し、リーダー既認定者の14名がスキルアップを図った。

3. 参加者の声

- ・自然を大切にしたい思いが強くなった。来年以降も講座を続けてほしい。
- ・森林に触れる様々な講座が用意されており、楽しく学ぶことができた。
- ・自然や森の魅力や面白さを伝え、また仕事に活かしたい。
- ・森林の健康維持における人の手の重要性を学び、今後はイベントやボランティアなどに定期的に参加しようと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期：	令和5年9月9日 ～ 令和5年12月9日	計8日（基本講座）
：	令和5年11月19日～ 令和6年2月11日	計4日（ステップアップ講座）
事業量	基本講座8回 ステップアップ講座4回	
参加者	県内19名 県外0名 計19名（リーダー養成講座：認定者数17名） 県内14名 県外0名 計14名（ステップアップ講座）	
実施場所：	徳島県 名西郡神山町、勝浦郡上勝町、徳島市入田町・渋野町、美馬市美馬町、阿波市土成町	

令和5年度 森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク

〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平 80 番地

1. 活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そして、この事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし、国民参加の森林づくり運動を推進する。

2. 活動の成果

参加者の中から新たにボランティアリーダーとして登録される方、参加した講座を主催するボランティア団体に興味を持ち、団体に加入する方が多くみられました。又、同じ講座に参加した方々で、新たな同好会を発足させて活動を継続する動きも見られました。

ボランティアリーダーのスキルアップや団体活動のサポートを継続して行い、国民参加の森林づくり運動の推進により貢献出来る様にしていきます。

3. 参加者の声

- 竹を刈るところから始まり、ひご作りと基礎から学べることができて良かった。
- 銚の使い方や特徴等を細かく説明して頂き、非常に良い講習会で楽しかった。
- チェーンソーの扱いは恐さがありましたが、体験できて自信ができました。
- 薪の正しい割り方を学ぶことができました。
- 炭のことは殆ど知らなかったなので、知識講習から入って頂きよく分かりました。第二回目でちゃんと炭ができていて感動しました。
- 鉋の使い方、枝の始末など細かいことも含めて教わりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和5年9月2日から令和6年3月17日まで							
事業内容	回数	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
竹細工講座	5回	8人							8人
グリーンウッドワーク講座	2回	4人						7人	11人
刈り払い機初心者講座	1回		9人						9人
竹のブランコづくり講座	1回		9人						9人
薪作りと焚火講座	2回				6人		12人		18人
スウェーデントーチ作り講座	1回					8人			8人
里山暮らし体験講座	2回					9人			9人
里山整備体験講座	1回							3人	3人
参加者数	計 15回	12人	18人		6人	17人	12人	10人	75人
実施場所		高知県立森林研修センター情報交流館及び協定林							

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟

〒880-0804 宮崎市宮田町10番28号

1. 活動の概要

みどりの少年団活動発表会や野外での行事を通して相互交流を図ることにより、緑や森林の重要性について理解を深め、自然を敬愛する情操豊かな青少年を育成するため、県内のみどりの少年団と育成会が一堂に会し、総合研修大会を実施した。

また、当発表会において最優秀賞を受けた少年団の団員2名を、全国緑の少年団活動発表会に派遣し、当団及び県の指導者を育成した。

2. 活動の成果

総合研修大会での活動発表会においては、各少年団の特色ある活動についての情報交換の場になると共に、キャンプファイヤーやグリーンアドベンチャーを通じて、各団との交流が図られた。

また、全国緑の少年団活動発表会に団員を派遣したことにより、全国の優良な緑の少年団の活動状況が勉強でき、指導者育成が図られた。

3. 参加者の声

活動発表会では、他の団体の活動内容を知ることができ参考になった。また、活動発表者の話し方、発表態度、質問の受け答えがとても参考となった。

キャンプファイヤーでは、演じ物をただ発表するだけでなくお互いの演じ物に参加でき、育成会の方も含めた全員で行えて楽しかった。

全国の優秀な少年団の発表や交流会に参加でき、非常にためになり楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月22日(土)～7月23日(日)	備考
事業内容	・宮崎県みどりの少年団総合研修大会 参加少年団数2団 活動発表会2団 屋外では、キャンプファイヤー及びグリーンアドベンチャーの実施 ・全国緑の少年団活動発表会団員への派遣	
参加者数	・宮崎県みどりの少年団総合研修大会 少年団員32名、育成会等41名 スタッフ24名 合計97名 ・全国緑の少年団活動発表会団員への派遣 団員2名、引率者2名、合計4名	
実施場所	小林市ひなもり台県民ふれあいの森	

国際交流

国際交流&セミナー「気候危機から人間を救う、 森林の『知性』～『マザーツリー』著者来日」

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム
〒111-0051 東京都台東区蔵前 3-17-3
蔵前インテリジェントビル 8階

1. 活動の概要

生物多様性豊かな原生林が広がるカナダ・ブリティッシュコロンビア（BC）州から、日本は再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の支援の下、バイオマス発電の燃料として木質ペレットを輸入している。本事業では、菌根菌ネットワークの研究で知られるスザンヌ・シマード氏と、現地で森林保全に関わるレイチェル・ホルト氏を招へいし、現地の森林の現状と日本との関係について考え、日本の市民や企業・政府に求められる行動を考える場を提供した。また、セミナーに先立ち、日本で最初にFSC森林認証を取得した速水林業を視察。両氏に日本の林業の課題や速水氏の実践について理解を深めていただいた。セミナーでは、視察を踏まえた発言もあり、森林管理の在るべき姿について参加者の理解が深まる内容となった。

2. 活動の成果

セミナーには、森林保護や森づくりや関わる NGO・NPO、報道関係者、森林分野の研究者などが多数参加した。複数のメディア掲載につながった（詳細は当財団ウェブページ）。

今後も継続的にメディアを通じた発信を行い、カナダの森を守る重要性と日本が果たす役割・責任について、より一層認知を促進していきたい。

3. 参加者の声

「炭素貯留機能を大きく損なう老齢林・原生林の伐採に関与すべきではない」

「原生林の役割の大きさを改めて認識し、森林こそ気候変動から地球を守ることができると思った」
「カナダでの現状（老齢林や日本に輸入されているペレットのこと）を知ることができ有意義だった」

また、「バイオマス発電・ペレットの問題を初めて知って、ショックだった」とのコメントが多数。

（以上、5月27日の公開セミナーの参加者アンケートより）

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月25,26日	5月27日	5月29日	計	備考
事業量 又は 事業内容	速水林業（三重県紀北町）を訪問。森林の視察や、代表の速水亨氏とゲスト2名の意見交換を実施。	公開セミナー（場所：聖心女子大学ブリット記念ホール、東京都渋谷区）	メディアブリーフィング（場所：日本プレスセンター）		
参加者数	県内 2人 県外 10人 計 12人	410人	24人	約450人	
実施場所	三重県紀北町	東京都内			

森林生態系など自然の力を活用した課題解決に関する講演会開催

公益財団法人 オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

1. 活動の概要

世界各地で気候変動の影響による洪水や森林火災・豪雨による土砂崩れなど自然災害が激甚化する中で、グリーンインフラ・Eco-DRR（森林などの生態系を活用した防災・減災）など、「自然の力を活用した課題解決」を目指して活動している各地のスタッフや活動に参画している学校の代表を招聘して、現状や課題などを報告する講演会を開催する。

2. 活動の成果

弊団体の取り組む「自然の力を活用した課題解決」を目指した活動の考え方や意義の理解を促進することができた。また、オンライン配信を併用したことにより、開催地の大阪のみならず全国の方に聞いていただくことができ、参加者の方々にも日本だけでなく他の国の現状を知り、自分がどのような行動ができるのか、すべきなのかを考えてもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・ボランティア活動を必要とする地域はアクセスや環境がネックであるが子どもたちのために微力でも何か考え、行動していくことの大切さを改めて感じました。
- ・地球環境を考えるきっかけを改めて再認識させていただきました。
- ・現地の人のお話を聞く機会はなかなかないためとても勉強になりました。
- ・インドネシアとタイの子ども達のはっきりと自分のビジョンを持ち、意見や思いを伝える姿に胸を打たれました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月23日	5月19日	計	備考
事業量 又は 事業内容		フィリピン北部における「自然の力を活用した課題解決」についての講演会	インドネシア・タイの子どもたちによる環境に関する取り組みについての講演会		
参加者数	県内	42人	27人	69人	うちオンライン参加各60名 計120名
	県外	88人	73人	161人	
	計	130人	100人	230人	
実施場所		大阪府 大阪市			

第 25 回国際木材加工セミナー（IWMS-25）

第 25 回国際木材加工セミナー実行委員会
〒 464-8601 名古屋市千種区不老町

1. 活動の概要

国際木材機械加工セミナー（International Wood Machining Seminar, IWMS）は、アジア、北米、欧州の持ち回りで 2 年ごとに開催されている世界でもっともレベルの高い木材機械加工分野の国際研究集会である。日本では、1995 年、2003 年および 2013 年に開催されており、今回が 4 回目の招致となる。ポートメッセなごやで行われる日本木工機械展／Mokkiten Japan 2023 に併せて同会場で開催された。木工機械に関する新技術や切削工具の開発、未利用資源の加工・利用法、木質系廃棄物の利用技術、森林の持続的経営を視野に入れた木材加工・利用システム等についての研究発表を通じて、低炭素社会の実現や SDGs への貢献を目指した。

2. 活動の成果

2023 年 10 月 4 日から 7 日までの期間中、国内外から約 60 名の参加者が集い、40 件の研究討論が繰り広げられた。参加国も多岐にわたり（カナダ、中国、フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、スロベニア、スウェーデン、日本）、また、海外参加者の総計は全参加者の半数を超え、真に国際的な交流活動を展開することができました。本セミナーは、展示会（日本木工機械展／Mokkiten Japan 2023）と研究発表会の協働効果を探る試みともなった。この開催形式に関して参加者からたいへん前向きな意見が多く寄せられた。小規模の国際集会ではあったが、実り多いものであったと総括する。今後も定期的に同様の国際集会を積極的に企画したい。

3. 参加者の声

1. 久しぶりの対面形式での国際集会実施に、たいへん満足した。
2. 木機展とのコラボがとてもよかった。
3. 会場も新しく、また、運営もスマートでたいへん良かった。
等々の前向きな意見が多く寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月5日	10月4,6,7日	計	備考
事業量 又は 事業内容		10/5 口頭発表・ポスター発表・木工機械展見学・基調講演	10/4 ウェルカムレセプション 10/6 口頭発表・ポスター発表・懇親会 10/7 木工機械展見学セミナーツアー		
	県内 県外 計	40人 122人 162人	20人 42人 62人	60人 164人 224人	(外国人含む)
実施場所		愛知県名古屋市港区金城ふ頭			

令和4年度・
事業期間延長分

ソフィアの森の整備

上智大学大学院地球環境研究科
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

1. 活動の概要

森林環境教育、健康増進、地域社会の交流活性化を目的に教員やボランティアのアドバイザーによる解説を聞きながらソフィアの森を散策する市民講座を開催した（令和4年度において5回、令和5年7月～12月において3回）。

教育の面では主に季節によって変化する森の動植物を観察し、温帯森林の特徴について学ぶ内容であり、生物多様性や気候変動に関する説明・議論を行った。市民だけではなく上智大学大学院地球環境学研究所の学生が参加した学外研修では動植物データベースの記録を実施し（令和4年10月、令和5年11月）、持続可能な森林利用についてディスカッションを行った。ソフィアの森におけるイベント開催の準備として環境整備、歩道の維持管理を上智大学地球環境学研究所の資金および本基金を活用して委託により実施した。また、学外研修には大学の資金で専門的な知識を持つ講師らを招いた。

健康増進および地域社会の交流活性化の面では20代から70代までの幅広い年齢層の人々が参加し、自然にふれることで身体や精神的な健康増進を助ける森林の文化的サービスを体験してもらうことができ、日本人および海外からの留学生と地域住民の間で質疑応答を通して日本の環境意識や伝統的な環境管理について学ぶ機会を提供することで地域社会の交流活性化に貢献する事を目的にした活動を実施した。

2. 活動の成果

持続可能な開発のための教育の一環として上智大学大学院生、教員、環境専門家、森林管理署職員、森林組合職員、地域住民が参加し、地域のニーズに応える森林体験活動の提供及び森林生態系の観察、生物多様性や気候変動の影響に関する学習などを行った。具体的には市民講座として散策イベント、環境研究に取り組んでいる大学院生の研修、地域住民と学生の交流などを実施した。2022年7月～2023年12月までに実施した10回の市民講座および学生研修活動には延べ約131名が参加した。軽井沢新聞や上智大学のWeb Newsに取り上げられる成果を出した。

3. 参加者の声

参加者からは地元の森を身近に体験でき気候変動や環境問題に関して解説が聞けて有益だったと共に、四季の森を楽しむことが新しい発想として良い刺激となり今後の活動を楽しみにしているとの声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2022年 7/3	2022年 10/16	2022年 11/13	2023年 5/21	2023年 6/11	2023年 7/9	2023年 10/15	2023年 11/4	左記 以外	計	
事業内容	市民講座散策イベントの実施 ※イベント当日の活動以外に、現地の管理や準備作業などその他の活動がある（左記以外の欄に記載）。										
参加者数	県内	12人	6人	6人	9人	13人	9人	6人	11人	4人	76人
	県外	3人	3人	3人	3人	2人	3人	3人	2人	33人	55人
	計	15人	9人	9人	12人	15人	12人	9人	13人	37人	131人
実施場所	長野県軽井沢町（浅間山国有林）										

令和5年度「緑と水の森林ファンド」公募事業

普及啓発事業 72件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額 (千円)	備考
A1	黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）	北海道	200	114,340	
A2	日本自然保育学会第8回大会実行委員会	「自然保育と森林ESD（森林環境教育）」シンポジウム及び関連事業	北海道	650	645,149	
A3	沖館地域緑の募金推進協力会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森	169	169,000	
A4	青森県緑の少年団連盟	青少年への緑を通じた環境教育推進事業	青森	800	797,100	
A5	一般社団法人ガールスカウト青森県連盟	山へでかけよう！in津軽	青森	260	117,428	
A6	岩手県立大野高等学校	里山整備に若い力を～きのごプロジェクト～	岩手	320	242,066	
A7	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森フェス 2023 in 遠野	岩手	750	750,000	
A8	一般財団法人ハヤチネダ	「遠野・馬と暮らす森」から私たちのくいのち>と自然の物語を学び、心身を癒すプログラム開催	岩手	590	517,288	
A9	特定非営利活動法人 水守の郷七ヶ宿	生態系サービスを感じる！共に生きる！ESDアクション for SDGs	宮城	350	350,000	
A10	仙台白百合女子大学仁藤研究室	2023 しらゆり森のがっこう～視たり・聴いたり・触ったり、五感を感じる自然体験プロジェクト～	宮城	800	800,000	
A11	登米町森林組合	科学的な知見を取り入れた森林浴によるウェルネスツーリズムの展開	宮城	750	644,691	
A12	特定非営利活動法人 SCR	自然にふれよう 山のがっこう	宮城	450	434,220	
A13	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2023	山形	281	281,000	
A14	置賜「地材地住」ネットワーク	地域材の利用拡大と木育の推進事業	山形	700	700,000	
A15	ガールスカウト福島県連盟	一緒にGO！50！植樹キャンプ	福島	450	449,950	
A16	特定非営利活動法人 やみぞの森	地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業	茨城	800	800,000	
A17	青年海外協力隊茨城県ov会	「協力隊の森」の事業	茨城	167	143,559	
A18	なか自然の会	手入れが必要なヒノキ林（那珂市有林）の保全整備と活用事業	茨城	374	374,000	
A19	ぐんま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 学校	群馬	300	300,000	
A20	くまの木里山応援団	高原山麓における森林の保全・再生活動の普及啓発と木材の利用促進	栃木	600	600,000	
A21	埼玉木育フォーラム	木材利用についての理解醸成を図る「くむんだー指導員」養成講座の実施	埼玉	500	500,000	
A22	ちば里山・バイオマス 協議会	竹林整備と竹炭づくり、竹炭を活用してヒサカキを栽培する	千葉	571	571,000	
A23	特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第8回）	千葉	400	400,000	
A24	森のようちえん全国交流フォーラム in 千葉実行委員会	第18回森のようちえん全国交流フォーラム in 千葉	千葉	1000	1,000,000	
A25	一般社団法人 産業環境管理協会	森林が有する機能のポテンシャルとニーズ等に関するシンポジウム	東京	500	500,000	
A26	International society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	700	700,000	
A27	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」～森林生態系サービスについて学ぶ～	東京	900	900,000	
A28	「森づくり政策」市民研究会	持続可能な社会の実現のために、森林と人との関わり方のこれからを考える連続講座・意見交換会	東京	850	850,000	
A29	認定NPO法人 FoE Japan	フェアウッド研究部会の開催	東京	900	900,000	
A30	「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	シンポジウム「森林と健康の新時代一脱コロナ禍の若者たちへ」	東京	900	900,000	
A31	NPO法人 木育・木づかいネット	地域材を活用した学校教育用教材の開発とその普及	東京	800	800,000	
A32	秩父 FOREST	開発跡地での都市と秩父の植樹・森林活動と交流促進2 ～旧野外活動センター跡地を活用した森のデザイン～	東京	875	875,000	

A33	NPO 法人 チルドリン	秋の学びの森のママまつり	東京	650	650,000	
A34	一般社団法人 TOBUSA	「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム 2023	東京	300	300,000	
A35	特定非営利活動法人森づくりフォーラム	森づくり体験による森林・林業に関する普及啓発と、森づくり団体の活動支援事業	東京	500	500,000	
A36	ヨーデル北川桜とエーデルワイスムジカンテン	100年後もずっと・・「緑と森と森林のコンサート」	東京	700	660,343	
A37	特定非営利活動法人 自然文化誌研究会	森林資源の活用による森林環境教育	東京	245	245,000	
A38	おだわら森林・林業・木材産業再生協議会	第7回全国木のまちサミット 2023in おだわら(小田原市、おだわら森林・林業・木材産業再生協議会共催事業)	神奈川	685	461,075	
A39	一般社団法人 全国森の循環推進協議会	「水が繋ぐ地域と世代」促進事業森と水のまつり・影祭り	神奈川	700	261,359	
A40	NPO 法人 緑とくらしの学校	子育ての森の恵みをみんなの暮らしにプロジェクト	新潟	400	400,000	
A41	NPO 法人バンブーセーブジアース	地域の竹林保全啓蒙活動：とやまの竹の祭典	富山	350	350,000	
A42	さとやま子育てコミュニティ いけだのそら	自然に寄り添った暮らしや遊びを通じた体験活動	福井	250	250,000	
A43	里山銀杏峰(げなんぼう)を愛する会	命の水を育むげなんぼう(銀杏峰)を癒しの森に	福井	300	300,000	
A44	特定非営利活動法人 山梨地域研究所	念場ヶ原山恩賜林保護財産区における総合的利活用の促進のための体制づくり	山梨	300	300,000	
A45	北アルプス広葉樹活用研究会	北アルプス地域の里山広葉樹活用と自治力育成のためのワカモノ&ヨソモノ巻き込みプロジェクト	長野	700	700,000	
A46	NPO 法人信越トレイルクラブ	シンポジウム「未来へつなぐ森林活用を考える～全国トレイル・メンテナンスフォーラム」@信越トレイル	長野	700	700,000	
A47	のいちご会	森の力を感じて、体験する「森林ESD」	長野	500	489,236	
A48	(一社)いび森のようちえんこだぬき	森の輪ひろば	岐阜	291	289,558	
A49	いのちもり	未来につながる体験活動事業	岐阜	350	323,761	
A50	MORI・IKU	第7回森(もり)〇(まる)～森をまるっと楽しもう!～	静岡	774	746,888	
A51	公益社団法人静岡県林業会議所	森と木が大好きになるプロジェクト～街中公園でのツリークライミング体験	静岡	780	750,000	
A52	特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	小学校授業での森林体験学習	愛知	581	520,148	事業期間変更
A53	社会福祉法人 森の風学舎	①「ちい森キッズ・ちい森ベビー」 ②「畑であそぼ!」 ③フィールドの環境整備	三重	500	500,000	
A54	三ツロ山を守る会	原始の森を歩こう	三重	350		事業中止
A55	学校法人高田学苑 高田短期大学	三重県内における「森と自然を活用した保育・幼児教育」の情報発信・ネットワークづくり事業	三重	852	852,000	
A56	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	250,000	
A57	特定非営利活動法人ひとともしデザイン研究所	京都嵯峨野 竹林景観の再生から繋ぐ循環的な仕組みづくりの構築	京都	500	500,000	
A58	特定非営利活動法人自然と緑	特定非営利活動法人自然と緑「自然大学」	大阪	400	391,060	
A59	NPO 法人 サウンドウッズ	森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる「木つかい社会」定着のための普及啓発活動	兵庫	1000	1,000,000	
A60	特定非営利活動法人棚田 LOVERS	薪割り、自然観察、シイタケ・野草収穫・料理体験を通じた森林利用の促進を図るための普及啓発活動	兵庫	348	348,000	
A61	奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ～次世代インタープリター育成と森林ESDの推進に向けて～	奈良	700	699,532	
A62	日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 実行委員会	第3回日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取の開催	鳥取	1000	1,000,000	
A63	特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	森林を活用した自然体験活動	島根	250	250,000	
A64	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進(継続)	島根	700	700,000	
A65	NPO 法人倭文の郷	里山保全の普及啓発	岡山	450	450,000	

A66	特定非営利活動法人 ひろしま自然学校	デジタル・ファブ리케이션を活用した森林環境教育の推進	広島	300	300,000	
A67	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	500	500,000	
A68	ひょうたん島まちなか再生機構	まちの緑が輪での住育プロジェクト	徳島	700	700,000	
A69	特定非営利活動法人山村塾	いろいろな生き物と共存する森づくり	福岡	625	516,619	
A70	NPO 法人 九州森林ネットワーク	第28回九州森林フォーラム in 山江村～森林活用の新たな潮流を学ぶ～	宮崎	900	900,000	
A71	鹿児島県森林ボランティア連絡会	日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	鹿児島	1000	1,000,000	
A72	特定非営利活動法人 もりびと	健全な森のサイクルに貢献する「木づかい」事業	鹿児島	800	800,000	

調査研究事業 8件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額 (千円)	備考
B1	森林総合研究所 (個人)	森林環境教育における市民科学プラットフォーム導入の課題	茨城	500		期間延長 1年
B2	一般財団法人 林業経済研究所	人工林管理における OECM 成立条件解明のための調査研究	東京	800	800,000	
B3	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う医療関係者養成事業の検討	東京	700	642,668	
B4	鶴見大学短期大学部	コンピテンシーに基づく自然保育者養成に関する研究	神奈川	550	549,640	
B5	東京大学富士癒しの森研究所	産学民連携による学生・社会人向けの導入的な「森林サービス産業」(健康経営) プログラム・システムのあり方の実証的研究開発	山梨	977		期間延長 1年
B6	えひめ千年の森をつくる会	針葉樹伐採跡地の広葉樹林化モニタリング	愛媛	800	800,000	
B7	一般社団法人 NATURE&HUMANS JAPAN	森林資源活用に関するセミナーと調査・研究	熊本	500		期間延長 1年
B8	鹿児島大学農学部	学校林の利用支援・整備のあり方に関する調査研究	鹿児島	800	800,000	

基盤整備事業 17件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額 (千円)	備考
C1	沼田どってこどってこ	修学旅行生対象の民泊事業における林業六次化体験の提供	北海道	250	250,000	
C2	学校法人 尚綱学院	森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」	宮城	450	450,000	
C3	一般社団法人さいたま市私立保育園協会	都市型「こどもの森づくり」の創設に向けた実証プロジェクト	埼玉	590		期間延長 1年
C4	上智大学大学院 地球環境研究科	ソフィアの森の整備	東京	600	592,652	
C5	モリダス	安全で楽しい里山保全活動を指導できるリーダー養成事業	東京	660	660,000	
C6	特定非営利活動法人まめつてえ鬼無里	「山と里と人をつなぐ」森づくりボランティア養成プロジェクト	長野	418	228,600	
C7	ぎふ森 遊びと育ちネットワーク	ぎふ木育研修交流会	岐阜	250	250,000	
C8	NPO 法人京都くらし方研究会	京都西部地域の山林の活用・整備 事業	京都	350		事業中止
C9	奈良県森林ボランティア連絡協議会	陀羅尼助(だらにすけ)の郷で森林づくり in 天川村洞川 Part 4	奈良	330	266,000	
C10	NPO 法人山野草の里づくりの会	里山保全ボランティア養成講座の開催	奈良	500	500,000	
C11	NPO 法人自然回復を試みる会・ビオトープ孟子	大旗山ハイキング道整備とビオトープ孟子里山公園の魅力発見	和歌山	500	500,000	
C12	森林ボランティア団体 もりゆう	里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島	広島	500	427,035	
C13	山内自治振興区	『やまの家』先人の鵬を未来につなぐ体験事業	広島	900	869,482	
C14	NPO 法人ひろしま人と樹の会	安全な森林づくり推進事業	広島	760	760,000	
C15	とくしま森林づくり県民会議	徳島県森林づくりリーダー養成講座	徳島	600	600,000	

C16	情報交流館ネットワーク	令和5年度森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	556,691	
C17	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎	700	700,000	

国際交流事業 1件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額 (千円)	備考
D1	一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	オンライン連続国際セミナー「気候危機から人間を救う、森林の『知性』～スザンヌ・シマード著『マザーツリー 森に隠された「知性」をめぐる冒険』より」(仮題)	東京	990	990,000	
D2	公益財団法人 オイスカ	「フィリピン北部における、森林生態系など自然の力を活用した課題解決」(仮称)講演会開催および沖縄県内防風林の視察研修。	東京	1,000	1,000,000	
D3	第25回国際木工機械セミナー組織委員会	第25回国際木工機械セミナー (IWMS 25)	愛知	1,000	1,000,000	

令和4年度「緑と水の森林ファンド」公募事業 (事業期間延長分)

基盤整備事業 1件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額 (千円)	備考
C5	上智大学大学院 地球環境研究科	ソフィアの森の整備	東京	600	582,999	事業期間延長 R5.12.31

令和5年度

「緑と水の森林ファンド」
公募事業募集要領

公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館 (B棟 5F)

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

令和5年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

〔重点項目の設定〕

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った4分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

≪重点項目≫

- 1 人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進
- 2 「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林に関する総合的・効果的な普及啓発
- 3 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- 4 森づくり活動における安全確保、リーダーの養成、ネットワーク形成支援等による森林ボランティア活動支援
- 5 学校林活動など森林ESD（森林環境教育）の促進や緑の少年団活動支援、中高等教育との連携等による次世代の育成
- 6 森林の公益的機能、持続的な森林づくりの循環等に関する研究

〔1〕助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成10年法律第7号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア 規約等により適正な運営が行われることが確実に認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ 営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

[2] 助成対象事業

1 普及啓発

- (1) 人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を図るための普及啓発活動
- (2) 「緑や水」「森林と木材の利用」など森林の総合的利用の促進
- (3) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大等の山村地域の活性化・地域づくり運動の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺森林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育、中高等教育との連携の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記 [1]、[2] に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

- ① 専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
- ② 他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
- ③ 事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
- ④ 事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
- ⑤ 事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

[3] 事業期間

令和 5 年 7 月 1 日から令和 6 年 6 月 3 0 日まで

[4] 助成対象経費

(1) 助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項 目	区 分	摘 要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝 金 等	外部からの招請者に限る。 (旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。)
調 査 研 究 費	労 賃 等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会 場 費	借 上 料	設営費を含む。

事 務 費	用 品 費	
	印 刷 費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通 信 費	
	そ の 他	
資 材 費	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
森林づくり活動等のボランティア活動	受入れ施設費	公共施設等を宿舎として一括借上げる場合の宿泊費
	交 通 費	事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等）
	保 険 料	ボランティア等傷害保険料

(2) 助成の対象とならないもの

①食糧等飲食費。

②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。

③森林ボランティア活動の ア 労賃

イ ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費

ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

[5] 助成金の限度

団体100万円、個人70万円

[6] 応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、[様式1]「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へメールまたは郵送して下さい（印略等の表記があれば印なしでも可）。

[送付先]（郵送）公益社団法人 国土緑化推進機構 基金業務部あて

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

（メール）forest@green.or.jp

（メールの件名は、「【公募申請】団体名」としてください。）

（HP）https://www.green.or.jp

[7] 募集期間

令和5年2月1日から令和5年3月15日まで（郵送の場合は同日消印有効）とします。

[8] 助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、7月上旬申請者に[様式2]により通知します。

[9] 実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙1」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了後2ヶ月以内に〔様式3〕の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙2」の報告要旨を当機構に提出して下さい。

なお、〔別紙2〕の報告要旨は、報告集として取りまとめ公表しますので、電子データでの提出もお願いします。

〔10〕領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の2決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書(明細書を含む。)を添付して下さい。

〔11〕助成金の交付

(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認められた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。

(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の1/2以内の額を〔様式4〕により、概算請求をすることができます。

〔12〕事業計画に当たっての注意事項

事業の計画に当たっては、新型コロナウイルスに関する基本的なガイドライン(国土緑化推進機構)等を参考に予防対策等を十分に考慮して下さい。

〔13〕問い合わせ

公益社団法人 国土緑化推進機構 基金業務部

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館 (B棟 5F)

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

Mail forest@green.or.jp

(メールの件名は、「【公募問い合わせ】団体名」としてください。)

「緑と水の森林ファンド」公募事業 報告集 Vol. 15

令和7年 3月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



森林資源の活用による森林環境教育（山梨県小菅村）（東京都）